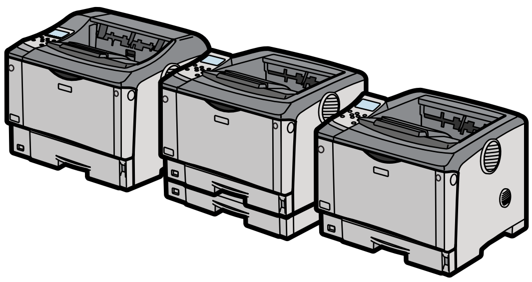
RICOH

IPSiO SP 6330/6320/6310

ソフトウェアガイド



ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『ハードウェアガイド』「安全上のご注意」をお読みください。

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

株式会社リコー

複製、印刷が禁止されているもの

本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。

1.複製、印刷することが禁止されているもの

（見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）

・紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
・日本や外国の郵便切手、印紙

（関係法律）

・紙幣類似証券取締法
・通貨及証券模造取締法
・郵便切手類模造等取締法
・印紙等模造取締法
・（刑法 第１４８条 第１６２条）

2.不正に複製、印刷することが禁止されているもの

・外国の紙幣、貨幣、銀行券
・株券、手形、小切手などの有価証券
・国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
・個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画

（関係法律）

・刑法 第１４９条 第１５５条 第１５９条 第１６２条
・外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

3.著作権法で保護されているもの

著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

* 画面の表示内容やイラストは機種、オプションによって異なります。

目次

1. 印刷するための準備

2. 印刷する

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

4. プリンター本体の設定

5. 機器の監視

8. UNIX で使う

9. 付録

使用説明書について

本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。

使用説明書の紹介

本機には紙の使用説明書と画面で見る使用説明書（HTML/PDF）が用意されています。
画面で見る使用説明書は付属の CD-ROM に収録されています。説明書の開きかたや使いかたについては、『ハードウェアガイド』「使用説明書の使いかた」を参照してください。
本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。
紙の使用説明書も画面で見る使用説明書も記載内容は同じですが、HTML 形式の使用説明書は説明の一部に動画を用いています。

- **はじめにお読みください（）**
  本製品についてのお問い合わせ先、注意事項を記載しています。また、HTML マニュアルや認証機能について説明しています。
- **かんたんセットアップ（）**
  プリンターを梱包箱から取り出し、パソコンと接続、プリンタードライバーをインストールするまでの手順を説明しています。
- **クイックガイド（）**
  困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。困ったときにすばやく対処できるよう、プリンターの近くに常備しておいてください。
- **ハードウェアガイド（）**
  オプションの接続方法や用紙に関する情報、消耗品の交換手順、印刷がはじまらないとき・思いどおりに印刷できないときの解決方法、紙づまりの処置など、本機を使用する上で重要な情報がまとめられています。必要に応じてご活用ください。
- **ソフトウェアガイド（本書）（）**
  プリンタードライバーのインストール手順や設定方法を説明しています。使用しているパソコンに対応する部分をお読みください。
- **セキュリティーガイド（）**
  管理者向けの説明書です。本機を不正な使用やデータの改ざんといった脅威から守るための方法、各管理者の設定方法、ユーザー認証の設定方法などについて説明しています。セキュリティー強化機能や認証の設定を行う前に必ずお読みください。

◆ PostScript 3 編（ ）

PostScript 3エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆ RP-GL/2 編（ ）

RP-GL/2 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆ RTIFF 編（ ）

RTIFF エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆ R98 編（ ）

R98 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆ R55 編（ ）

R55 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆ R16 編（ ）

R16 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆ PCL 編（ ）

PCLエミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

補足

- HTML 形式の使用説明書は Web ブラウザーでご覧いただけます。
- PDF形式の使用説明書を表示するには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Readerが必要です。

使用説明書一覧表

分冊名	紙マニュアル	画面で見る使用説明書 HTML 形式のマニュアル	画面で見る使用説明書 PDF 形式のマニュアル
はじめにお読みください	なし	有り（）	なし
かんたんセットアップ	有り（）	なし	有り（）
クイックガイド	有り（）	なし	有り（）
ハードウェアガイド	有り（）	有り（）	有り（）
ソフトウェアガイド	なし	有り（）	有り（）
セキュリティーガイド	なし	なし	有り（）
PostScript 3 編	なし	有り（）	なし
RP-GL/2 編	なし	有り（）	なし
RTIFF 編	なし	有り（）	なし
R98 編	なし	有り（）	なし
R55 編	なし	有り（）	なし
R16 編	なし	有り（）	なし
PCL 編	なし	有り（）	なし

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。

各タイトルの一番最後に記載しています。

[ ]
キーとボタンの名称を示します。

『 』
本書以外の分冊名称を示します。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

おもなオプションと略称

本体に用意されているおもなオプションの名称と、本文中で使用している略称を示します。

商品名	略称
両面印刷ユニット タイプ 860	両面印刷ユニット
拡張 HDD タイプ M	拡張 HDD
IPSiO 拡張無線 LAN ボード タイプ A	拡張無線 LAN ボード
拡張 1284 ボード タイプ A	拡張 1284 ボード
リコー個人認証 IC カード R/W タイプ R1	IC カード認証
リコー個人認証 IC カード R/W タイプ R1-PC	IC カード認証
リコー IC カード管理ソフト タイプ R1	IC カード認証
リコー IC カード タイプ R1	IC カード認証
リコー個人認証カード タイプ R1-09	IC カード認証

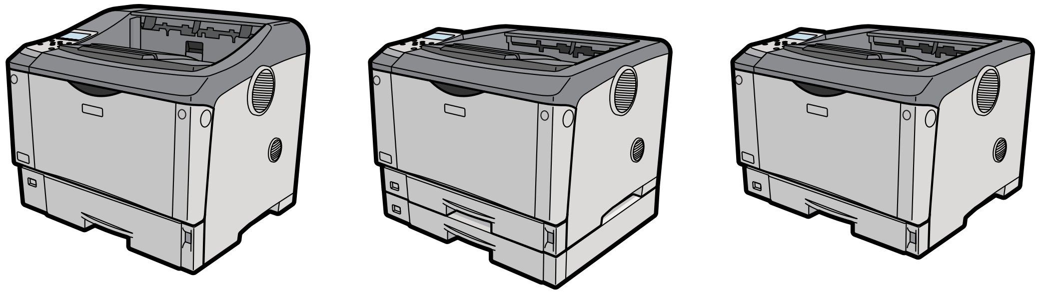
商品名	略称	総称
IPSiO エミュレーションカード タイプ 6300	マルチエミュレーションカード （RP-GL/2、RTIFF、R98、R55、R16）	拡張SDカード
IPSiO R98/R16 カード タイプ 6300	エミュレーションカード （R98、R16）	
IPSiO PS3 カード タイプ 6300	PS3 カード	
IPSiO PDF ダイレクトプリントカード タイプ 6300	PDF ダイレクトプリントカード	
IPSiO PCL カード タイプ 6300	PCL カード	
IPSiO BMLinkS カード タイプ A	BMLinkS モジュール	
IPSiO VM カード タイプ E	VM カード	
IPSiO セキュリティカード タイプ E	セキュリティーカード	
IPSiO 蓄積文書暗号化カード タイプ B	蓄積文書暗号化カード	

お使いになる前に

各機種で設置・設定が可能な装備・機能について説明します。
本書では特にことわりのないかぎり、IPSiO SP 6330 のイラストを使って説明しています。

各機種による性能・機能の違い

機種ごとのおもな性能 / 機能の差異は以下の表のとおりです。詳細については、『ハードウェアガイド』「仕様」を参照してください。



BVN002

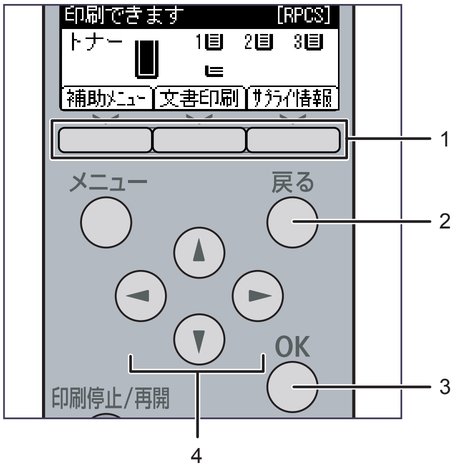
・性能

商品名	IPSiO SP 6330	IPSiO SP 6320	IPSiO SP 6310
標準トレイ	500 枚給紙	250 枚給紙 + 150 枚給紙	250 枚給紙
最大給紙量 *1	1600 枚	1500 枚	1350 枚
排紙量	500 枚	250 枚	250 枚

*1　500 枚増設トレイユニット 2 段装着時

表示画面とキー操作について

表示された画面とキー操作について説明します。



BVN013

1 選択キー

画面下部に表示された項目を選ぶときに押します。

本文中で「[補助メニュー] を押します。」と説明されているときは、左の選択キーを押します。

2 [戻る] キー

設定を有効にせずに上位の階層に戻るとき、メニューから通常の表示に戻るときに使用します。

3 [OK] キー

設定や設定値を確定させるとき、または下位の階層に移動するときに使用します。

4 スクロールキー

カーソルを上下左右に移動します。

本書で[▲] [▼] [▶] [◀]と表記されているときは、同方向のスクロールキーを押します。

1. 印刷するための準備

同梱のCD-ROMからドライバーやソフトウェアをインストールする手順などについての説明です。

接続方法を確認する

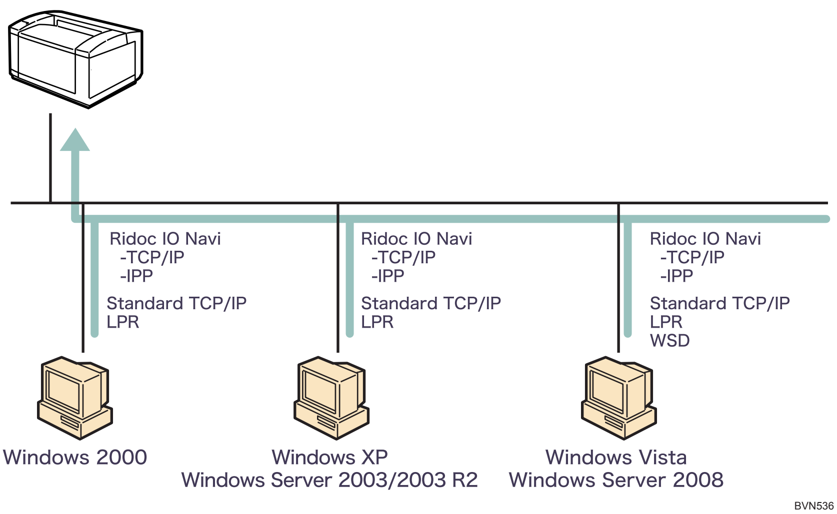
プリンターは、ネットワーク接続またはローカル接続することができます。
プリンタードライバーをインストールする前に、プリンターをどのように接続したかを確認し、ご使用の接続方法でのインストール方法を参照し、プリンタードライバーをインストールしてください。

ネットワーク接続

ネットワーク接続では、Windows の印刷ポートを使用してプリンターへダイレクト印刷(Peer-to-Peer ネットワーク)、またはサーバーを使用してクライアントから印刷するネットワークプリンターとして本機を使用します。

Windows の印刷ポートを使用する

ご使用の Windows とインターフェースによって、使用できるポートが異なります。インターフェースは、イーサネット、拡張無線 LAN ボードを使用します。



♦ Windows 2000/XP の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	・Ridoc IO Navi ポート（推奨） ・Standard TCP/IP ポート ・LPR ポート

◆ Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	・Ridoc IO Navi ポート（推奨） ・Standard TCP/IP ポート ・LPR ポート ・WSD ポート

◆ Windows Server 2003/2003 R2 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	・Ridoc IO Navi ポート（推奨） ・Standard TCP/IP ポート ・LPR ポート

補足

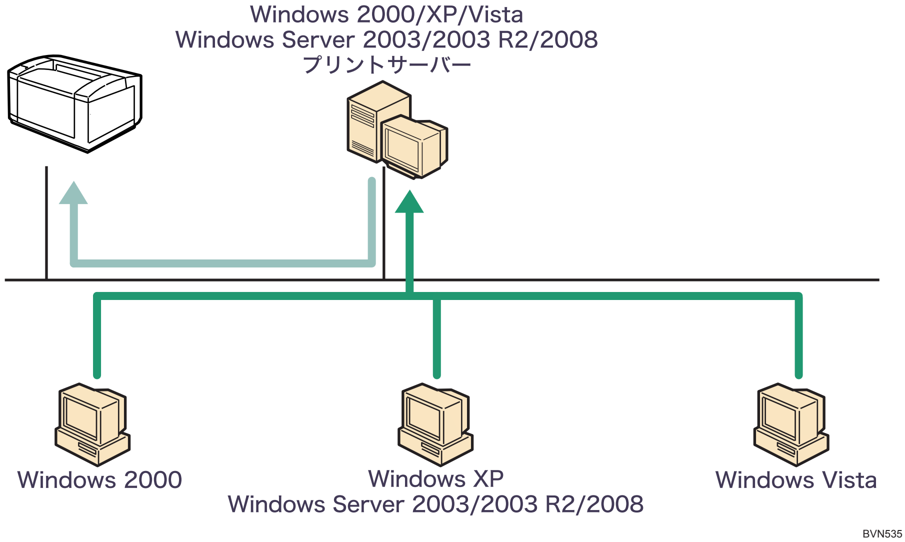
- 各ポートごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のポートの記載を参照してください。

参照

- P.21 「Ridoc IO Navi ポートを使う」
- P.29 「Standard TCP/IP ポートを使う」
- P.32 「LPR ポートを使う」
- P.34 「WSD ポートを使う」

プリントサーバーを使用する

Windows ネットワークプリンターとして使用できます。



補足

- ネットワークプリンターの種類ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のネットワークプリンターの記載を参照してください。

参照

- P.36 「Windows ネットワークプリンターを使う」

ローカル接続

ローカル接続には、USB 接続、パラレル接続があります。

補足

- 接続方法ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用の接続方法の記載を確認してください。

参照

- P.39 「USB 接続」
- P.44 「パラレル接続」

プリンタードライバーについて

プリンタードライバーのダウンロードとサポートについて説明します。

1

♦ プリンタードライバーのダウンロードについて

プリンタードライバーは、付属の CD-ROM からインストールするか、リコーのホームページからダウンロードしていただく必要があります。プリンタードライバーのダウンロードが必要な OS のバージョンは以下のとおりです。

・Windows XP/Vista（64bit）

・Windows Server 2003/2003 R2（64bit）

・Windows Server 2008（64bit）

ドライバーをダウンロードするには、リコーのホームページで本機を選択し、お使いの OS を選択してください。

（http://www.ricoh.co.jp/download/index.html）

♦ BMLinkS ドライバーのダウンロードについて

BMLinkS 最新ドライバーは、BMLinkS のホームページからダウンロードすることができます。

・BMLinkS ホームページ：http://www.jbmia.or.jp/bmlinks/

補足

・ダウンロードできるプリンタードライバーの OS 別対応状況については、リコーのホームページで確認できます。（http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/os/）

おすすめインストール

同梱の CD-ROM から簡単にソフトウェアをインストールすることができます。
[おすすめインストール] ボタンをクリックすると、プリンターをネットワーク接続している場合は「プリンタードライバー」と「Ridoc Desk Navigator - Ridoc IO Navi」がインストールされ、Ridoc IO Navi ポートが設定されます。プリンターをパラレル接続している場合は「プリンタードライバー」がインストールされ、LPT1 ポートが設定されます。

1

重要

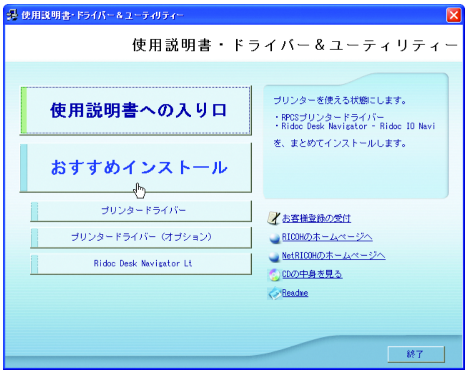
- 「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- 本機を USB 接続で使用する場合、おすすめインストールではプリンタードライバーをインストールすることができません。USB 接続で使用する場合は、「USB 接続」を参照してください。
- パラレル接続で本機とパソコンが双方向通信していない場合、おすすめインストールをすることができません。「双方向通信が働かない場合」を参照して、本機とパソコン間の双方向通信を設定してください。

1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。
OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 **[おすすめインストール] をクリックします。**



「使用許諾」ダイアログが表示されます。

1

4 **ソフトウェア使用許諾契約のすべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し［次へ］をクリックします。**

5 **［モデル名］をクリックし、使用する機種を選択します。**

ネットワーク接続の場合、［接続先］に IP アドレスが表示されているプリンターを選択します。
パラレル接続の場合、［接続先］にプリンタポートが表示されているプリンターを選択します。

6 **［インストール］をクリックします。**

プリンタードライバーがインストールされ、「導入完了」ダイアログが表示されます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

7 **［完了］をクリックします。**

ダイアログに「再起動の確認」が表示された場合は、Windows を再起動してください。

8 **最初の画面で［終了］をクリックし、CD-ROM を取り出します。**

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。

参照

- P.39 「USB 接続」
- P.49 「双方向通信が働かない場合」

各ポート別インストール

1

Ridoc IO Navi ポートを使う

ここでは Ridoc IO Navi を使用する場合の方法を説明します。

★重要

- 「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- Ridoc IO Navi ポートを使う場合、プリンタードライバーをインストールする前に Ridoc Desk Navigator Lt をインストールします。
- Ridoc Desk Navigator Lt をインストールすると、同時に Ridoc IO Navi もインストールされます。

Ridoc Desk Navigator Lt のインストール

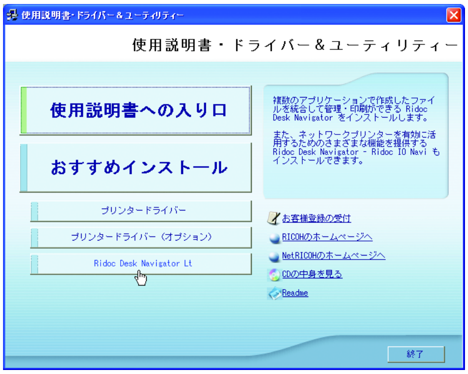
1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 **［Ridoc Desk Navigator Lt］をクリックします。**



Ridoc Desk Navigator Lt のインストーラーが起動します。

4 **［Ridoc Desk Navigator Lt］をクリックします。**

ダイアログが表示されます。内容の確認をしたあと、［はい］をクリックします。

5 **Ridoc Desk Navigator Lt のセットアップ画面が表示されます。［次へ］をクリックします。**

6 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し［はい］をクリックします。

7 ユーザー名、会社名を入力し、［次へ］をクリックします。

8 ［フルインストール］または［Ridoc IO Navi のみインストール］をクリックします。

9 表示されるメッセージに従って Ridoc IO Navi をインストールします。

インストールが完了するとメッセージが表示されます。

10 ［完了］をクリックします。

「Windows の再起動」ダイアログが表示されます。Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。

プリンタードライバーのインストール（TCP/IP）

TCP/IP を使用する場合の、インストール方法です。

重要

- 「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

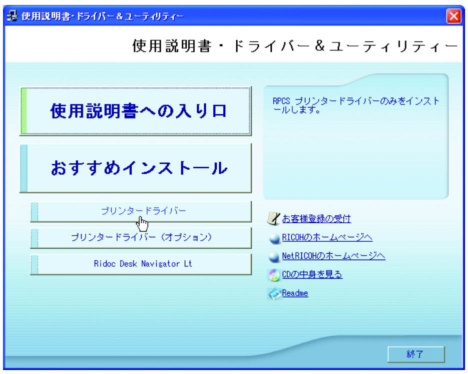
1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 ［プリンタードライバー］をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し［次へ］をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログで、使用するプリンタードライバーをチェックし、［次へ］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する［プリンター名］をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

［コメント :］、［ドライバー :］、［ポート :］は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 ［ポート :］を選択し、［追加］をクリックします。

8 「Ridoc IO Navi」を選択し、［OK］をクリックします。

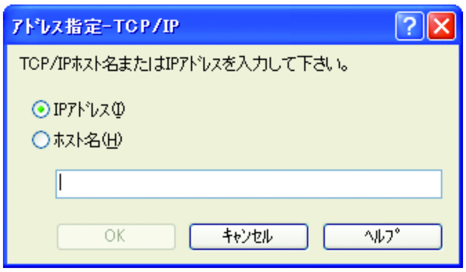


9 ［TCP/IP］をクリックします。

10 ［機器検索］をクリックします。

TCP/IP プロトコルで印刷可能なプリンターが検索され、一覧表示されます。

コンピューターからのブロードキャストに応答したプリンターだけが表示されます。表示されないプリンターに印刷するときは、［アドレス指定］をクリックし、本機のアドレスまたはホスト名を直接入力してください。



11 印刷するプリンターをクリックして選択します。

12 ［OK］をクリックします。

「ポートの追加」ダイアログが閉じます。

13 [ポート:]に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

14 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

15 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

16 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

17 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

18 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer Lt で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer の説明書を参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

プリンタードライバーのインストール（IPP）

IPP を使用する場合のインストール方法です。

重要

- 「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

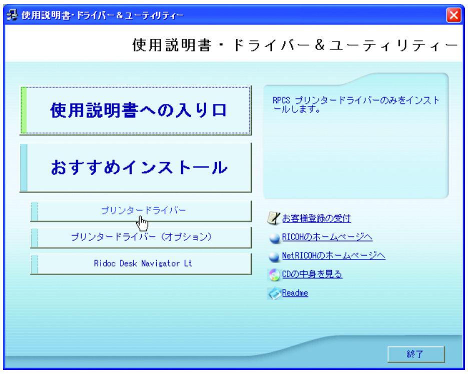
1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 ［プリンタードライバー］をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し［次へ］をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、［次へ］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する［プリンタ名］をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

［コメント：］、［ドライバ：］、［ポート：］は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 ［ポート :］を選択し、［追加］をクリックします。

8 「Ridoc IO Navi」を選択し、[OK] をクリックします。



9 [IPP] をクリックします。

「IPP の設定」ダイアログが表示されます。

10 [プリンタの URL] に「http://（本機のアドレス）/printer」のように入力します。

SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、「https://（本機のアドレス）/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。

[プリンタの URL] には「http://（本機のアドレス）/ipp 」のように入力することもできます。

11 必要に応じて [IPP ポート名] にプリンターを区別するための名前を入力します。すでにある他の IPP ポート名と違う名前を入力してください。

入力を省略すると、[プリンタの URL] に入力したアドレスが IPP ポート名に設定されます。

12 プロキシサーバーや IPP ユーザー名などの設定を行う場合は、[詳細設定] をクリックし、必要な項目を設定し、[OK] をクリックします。

詳しい設定項目については、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

13 [OK] をクリックします。

「ポートの追加」ダイアログが閉じます。

14 [ポート :] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

15 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード :] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

16 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

17 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了]をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい]または[続行]をクリックし、インストールを続行してください。

18 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了]をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

19 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了]をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- 「http://(本機のアドレス)/」で本機のアドレスを入力するとき、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。
- インストールの途中で[キャンセル]を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer Lt で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer の説明書を参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Ridoc IO Navi ポートの設定を変更する

TCP/IP のタイムアウト、代行印刷や並行印刷、プリンタグループなど、Ridoc IO Navi の設定を変更することができます。

1

■Windows 2000 の場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。

2 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。

3 ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

■Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［プリンタと FAX］をクリックします。

2 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。

3 ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

■Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。

2 ［ハードウェアとサウンド］から［プリンタ］をクリックします。

3 印刷するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックします。

4 ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

補足

- 印刷通知、代行印刷 / 並行印刷の設定は拡張機能設定でおこないます。Ridoc IO Navi を起動し、タスクトレイの Ridoc IO Navi アイコンを右クリックして［拡張機能設定］を選択してください。
- ［代行印刷 / 並行印刷］はポート毎に設定できます。Ridoc IO Navi を起動し、タスクトレイの Ridoc IO Navi アイコンを右クリックして［拡張機能設定］を選択し、［代行 / 並行印刷をポート毎に設定する］にチェックを付けます。
- IPP の場合、IPP ユーザー設定、プロキシ設定、タイムアウト設定ができます。
- 設定方法の詳細は、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

Standard TCP/IP ポートを使う

Standard TCP/IP ポートを使用する場合の、インストール方法です。

★重要

- 「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

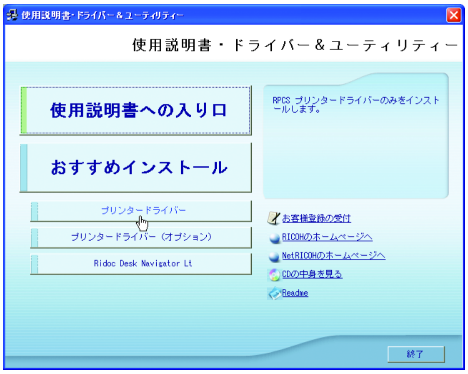
1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 **［プリンタードライバー］をクリックします。**



4 **「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し［次へ］をクリックします。**

5 **「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、［次へ］をクリックします。**

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 **「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する［プリンター名］をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。**

［コメント：］、［ドライバ：］、［ポート：］は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

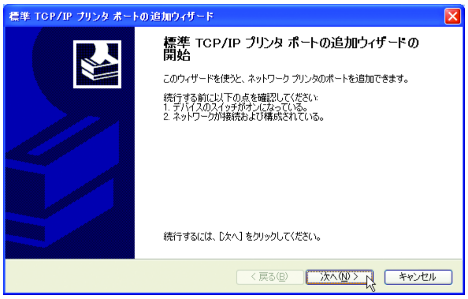
7 **［ポート :］を選択し、［追加］をクリックします。**

8 「Standard TCP/IP Port」を選択し、［OK］をクリックします。



「Standard TCP/IP Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して Standard TCP/IP の設定をしてください。

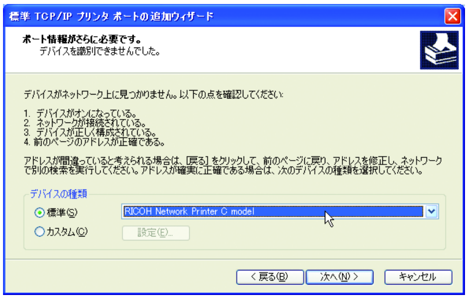
9 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」の開始画面で、［次へ］をクリックします。



10 ［プリンタ名または IP アドレス］ボックスにプリンター名または本機のアドレスを入力し、［次へ］をクリックします。

［ポート名］ボックスには自動的にポート名が入力されます。必要があれば変更してください。

デバイスの種類を選択する画面が表示された場合は、「RICOH NetworkPrinter C Model」を選択してください。



11 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード完了」の画面で、［完了］をクリックします。

プリンタードライバーの導入画面に戻ります。

12 ［ポート :］に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

13 **必要に応じて、ユーザーコードを設定します。**

［ユーザーコード :］をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

14 **必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。**

15 **［完了］をクリックします。**

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

16 **「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、［完了］をクリックします。**

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

17 **「導入完了」ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。**

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer Lt で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer の説明書を参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

LPR ポートを使う

LPR ポートを使用する場合の、インストール方法です。

1

重要

- 「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

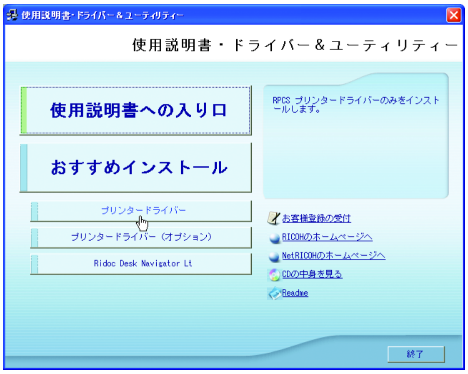
1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 **[プリンタードライバー]をクリックします。**



4 **「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ]をクリックします。**

5 **「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ]をクリックします。**

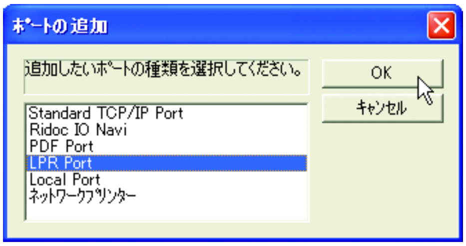
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 **「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する[プリンター名]をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。**

[コメント：]、[ドライバ：]、[ポート：]は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 **[ポート :]を選択し、[追加]をクリックします。**

8 「LPR Port」を選択し、[OK] をクリックします。



「LPR Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して組み込んでください。

9 [lpd を提供しているサーバーの名前またはアドレス] ボックスに、本機のアドレスを入力します。

10 [サーバーのプリンタ名またはプリンタキュー名] ボックスに「lp」と入力し、[OK] をクリックします。

ポートが追加されます。

11 [ポート :] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

12 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード :] をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

13 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

14 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

15 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

16 「導入完了」ダイアログが表示された場合は、[完了] をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer Lt で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer の説明書を参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

WSD ポートを使う

WSD ポートを使用する場合の、インストール方法です。

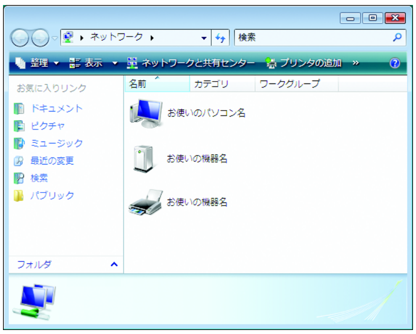
重要

- Windows Vista、Windows Server 2008 の場合にご使用いただけます。
- 管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。
- 本機とパソコンが異なるネットワークセグメントに接続されている場合や、Windows Vista の「ネットワーク探索」が無効になっている場合、本機を検出することができません。詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **［スタート］ボタンをクリックし、［ネットワーク］をクリックします。**

［ネットワーク］ウィンドウが表示され、機器の検索が自動的に始まります。



3 **本機のプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［インストール］をクリックします。**

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は［続行］をクリックします。

「新しいハードウェアが見つかりました」ダイアログが表示されます。

4 **[ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)] をクリックします。**

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は [続行] をクリックします。
[新しいハードウェアの検出] 画面が表示されます。

5 **[オンラインで検索しません] をクリックします。**

6 **[コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します (上級)] をクリックします。**

7 **付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

「自動再生」ダイアログが表示された場合は、[クローズ] ボタンをクリックして次の手順に進みます。

8 **[参照] をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。**

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥ の場合「D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1」です。

9 **[次へ] をクリックします。**

インストールの途中で [ドライバソフトウェアの発行元を検証できません] というメッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックします。

10 **[閉じる] をクリックします。**

インストールが正常に終了すると、「WSD」から始まるポートを [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

補足

- 「WSD」に続くポート名は不特定の文字列になります。任意に変更することはできません。
- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。再度インストールを行う場合は、[ネットワーク] ウィンドウで本機のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [アンインストール] を実行してください。

Windows ネットワークプリンターを使う

Windows ネットワークプリンターを使う場合は、プリンタードライバーを「ネットワークプリンタ」を指定してインストールし、Windows ネットワーク上の共有プリンターを選択します。

重要

- 「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- Ridoc IO Navi ポートで本機を接続しているネットワークプリンターをご使用の場合、クライアントからの代行印刷、並行印刷を行うことはできません。
- Windows XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2/2008 の共有プリンターの場合、クライアントに印刷通知が行われない場合があります。

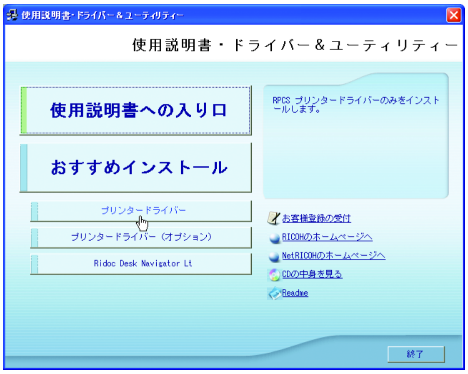
1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 **［プリンタードライバー］をクリックします。**



4 **「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し［次へ］をクリックします。**

5 **「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、［次へ］をクリックします。**

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する［プリンター名］をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

［コメント：］、［ドライバ：］、［ポート：］は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 ［ポート :］を選択し、［追加］をクリックします。

8 ［ネットワークプリンター］を選択し、［OK］をクリックします。



9 ネットワークツリー上で、プリントサーバーとして使用するコンピューターの名前をダブルクリックします。

10 印刷するプリンターを選択し、［OK］をクリックします。

11 ［ポート:］に選択したプリンターのパスが表示されていることを確認します。

12 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

［ユーザーコード :］をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

13 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

14 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、［完了］をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

15 「導入完了」ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer Lt で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer の説明書を参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。
- Windows ネットワークプリンターが正しく設定されていないと、インストールを続けることができません。インストールをキャンセルしてから、「Windows ネットワークプリンターを設定する」を参照して Windows ネットワークプリンターを設定してください。

参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」
- P.259 「Windows ネットワークプリンターを設定する」

USB 接続

ここでは、本機とパソコンを USB ケーブルで接続し、必要なドライバーをインストールする方法を説明します。
セットアップを始める前に USB ケーブルを接続するパソコンが以下の状態であることを確認してください。
・OS 以外のソフトウェアが起動していない
・印刷を行っていない

Windows 2000 と USB で接続する

Windows 2000 の USB 接続について説明します。

重要

・管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。
USB ケーブルを初めて使用した場合、［新しいハードウェアの検出ウィザード］が表示され、Windows 2000 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。
ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が 表示され、［プリンタ］フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加され ます。
プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に 従って、本機に同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1 **本機の電源が切れていることを確認します。**

2 **本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。**

3 **本機の電源を入れます。**
プラグアンドプレイが働き［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示されます。

4 **［次へ］をクリックします。**

5 **［デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）］をチェックし、［次へ］をクリックします。**

6 **［場所を指定］をチェックし、［次へ］をクリックします。**

7 **キーボードの左側の［Shift］キーを押しながら、本機の同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**
パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の［Shift］キーを押し続けます。
CD-ROM のオートランが起動した場合は、［キャンセル］をクリックします。

8 ［参照］をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブがD:¥ の場合は「D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1」です。

9 ［製造元のファイルのコピー元］にプリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、［OK］をクリックします。

1

10 ［次へ］をクリックします。

11 プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

12 ［完了］をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を［印刷するポート］に指定したプリンターが［プリンタ］ウィンドウに作成されます。

補足

- 「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 と USB で接続する

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の USB 接続について説明します。

重要

- 管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。

USB ケーブルを初めて使用した場合、［新しいハードウェアの検出ウィザード］が表示され、Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、［プリンタ］フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、本機に同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1 本機の電源が切れていることを確認します。

2 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

3 本機の電源を入れます。

プラグアンドプレイが働き［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示されます。

4 ［一覧または特定の場所からインストールする（詳細）］をチェックし、［次へ］をクリックします。

5 キーボードの左側の［Shift］キーを押しながら、本機の同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の［Shift］キーを押し続けます。
CD-ROM のオートランが起動した場合は、［キャンセル］をクリックします。

6 ［次の場所で最適のドライバを検索する］の［次の場所を含める］をチェックし、［参照］をクリックしてプリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥ の場合は「D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1」です。

7 プリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、［次へ］をクリックします。

8 プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

9 ［完了］をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を［印刷先のポート先］に指定したプリンターが［プリンタ］ウィンドウに作成されます。

補足

- 「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

1

Windows Vista、Windows Server 2008 と USB で接続する

1

Windows Vista、Windows Server 2008 の USB 接続について説明します。

重要

・管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、［プリンタ］フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。
プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

［新しいハードウェアが見つかりました］ダイアログが表示されます。

2 ［ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)］をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は［続行］をクリックします。
［新しいハードウェアの検出］画面が表示されます。

3 ［オンラインで検索しません］をクリックします。

本機に付属している CD-ROM の挿入を促すメッセージが表示されます。

4 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

自動的に検索が始まり、プリンタードライバーの一覧が表示されます。

5 本機の RPCS プリンタードライバーを選択し、［次へ］をクリックします。

インストールの途中で「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」というメッセージが表示された場合は、［このドライバソフトウェアをインストールします］をクリックします。

6 ［閉じる］をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を［印刷するポート］に指定したプリンターが［プリンタ］ウィンドウに作成されます。

補足

・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

・P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

USB 接続がうまくいかないとき

状態	対処方法
本機が自動認識されない。	本機の電源を OFF にして、ケーブルが緩んでいないかを確認して再接続し、電源を ON にしてください。
Windows が自動的に USB 接続の設定をしてしまった。	Windows のデバイスマネージャで、不正なデバイスを［ユニバーサル シリアル バス コントローラ］または［USB(Universal Serial Bus) コントローラ］から削除してください。不正なデバイスは、アイコンに黄色の［！］がついたり、黄色の［？］がついたりしています。必要なデバイスを削除しないようにご注意ください。デバイスマネージャへのアクセス方法、デバイスの削除について詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

パラレル接続

プリンターをパラレル接続して使う場合は、プリンタードライバーを「ローカルポート」に指定してインストールします。

重要

- 「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

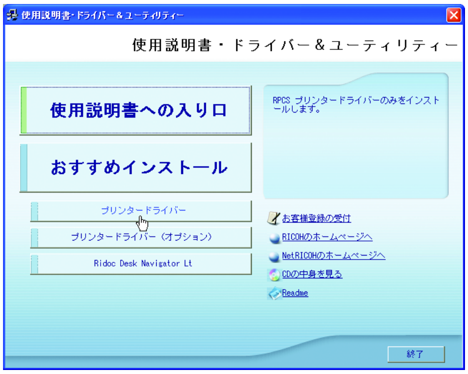
1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 [プリンタードライバー] をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し [次へ] をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント：]、[ドライバ：]、[ポート：] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 [ポート :] にプリンターを接続したポート（通常は、LPT1:）が設定されていることを確認します。

8 **必要に応じて、ユーザーコードを設定します。**

［ユーザーコード :］をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

9 **使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、必要に応じて選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。**

10 **［完了］をクリックします。**

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

11 **「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、［完了］をクリックします。**

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

12 **「導入完了」ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。**

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer Lt で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer の説明書を参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき

おすすめインストールに失敗したときは、「Ridoc IO Navi ポートを使う」を参照してインストールしてください。CD-ROM の［プリンタードライバー］のインストールにも失敗したときは、以下の手順でインストールしてください。

参照

・P.21 「Ridoc IO Navi ポートを使う」

Windows 2000 の場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。

2 ［プリンタの追加］アイコンをダブルクリックします。

3 ［プリンタの追加ウィザード］に従ってインストールします。

プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1 になります。インストーラーが起動したときは［キャンセル］をクリックして終了させます。

Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［プリンタと FAX］をクリックします。

2 ［プリンタの追加］をクリックします。

3 ［プリンタの追加ウィザード］に従ってインストールします。

プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1 になります。インストーラーが起動したときは［キャンセル］をクリックして終了させます。

Windows XP Home Editionの場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。

2 ［プリンタとその他のハードウェア］をクリックします。

3 ［プリンタとFAX］をクリックします。

4 ［プリンタのインストール］をクリックします。

5 ［プリンタの追加ウィザード］に従ってインストールします。

プリンタードライバーのディスクがCD-ROMの場合、RPCSのインストール元はCD-ROMの¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1になります。インストーラーが起動したときは［キャンセル］をクリックして終了させます。

Windows Vista、Windows Server 2008の場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。

2 ［ハードウェアとサウンド］をクリックします。

3 ［プリンタ］をクリックします。

4 ［プリンタのインストール］をクリックします。

5 ［プリンタの追加］に従ってインストールします。

プリンタードライバーのディスクがCD-ROMの場合、RPCSのインストール元はCD-ROMの¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1になります。インストーラーが起動したときは［キャンセル］をクリックして終了させます。

オプション構成の設定

双方向通信が働いていない場合は、本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定してください。

1

補足

・本体オプションを設定する方法は、「双方向通信が働かない場合」を参照してください。

双方向通信が働く条件

双方向通信が働いていると、本機にセットされている用紙サイズなどの情報が自動的にパソコンに伝わります。またパソコン側からも本機の状態を確認することができます。双方向通信が働く条件についての説明です。

♦ ネットワーク接続の場合

・標準 TCP/IP ポートが使用されている

・RPCS プリンタードライバーの［ポート］タブにある［双方向サポートを有効にする］が選択されており、［プリンタプールを有効にする］が選択されていない

標準 TCP/IP ポートを使用しない場合、上記 2 つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

・プロトコルに TCP/IP を使っている

・IPP プロトコル使用時に、ポート名に IP アドレスを含んでいる

♦ ローカル接続の場合

・パソコンが双方向通信に対応している

・プリンターのプロパティで双方向通信が可能な設定になっている

上記２つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

・本機のパラレルコネクターとパソコンのパラレルコネクターが、双方向通信に対応したインターフェースケーブルで接続されている

・本機の USB インターフェースコネクターとパソコンの USB コネクターが、USB ケーブルで接続されている

双方向通信が働かない場合

双方向通信が働かない場合は、手動で本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定します。

重要

- ［プリンタ］フォルダでプリンタープロパティを変更するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1
1 **Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし、［プリンタと FAX］をクリックします。**

Windows 2000 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。［ハードウェアとサウンド］のカテゴリーの中から、［プリンタ］をクリックします。

2 **追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。**

インストール後最初にプリンターのプロパティを表示する場合、または装着しているオプションを設定していない場合は、オプション設定を促す画面が表示されます。［OK］をクリックします。

3 **［オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定］タブをクリックします。**

［オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定］タブの項目がグレー表示になっていて選択できないときは、双方向通信が働いています。このときオプションの設定は必要ありません。

4 **［オプション選択：］ボックスで、取り付けたオプションにチェックを付けます。**

5 **SDRAM モジュールを増設した場合は、［トータルメモリー：］で増設後の合計メモリー容量を選択し、［OK］をクリックします。**

6 **追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、「ファイル」メニューの［印刷設定］をクリックします。**

7 **［基本］タブの［給紙トレイ：］で設定するトレイを選択し、［原稿サイズ］・［原稿方向］・［用紙種類］を正しく設定します。**

8 **［OK］をクリックし、プリンターの印刷設定を閉じます。**

2. 印刷する

プリンタードライバーの画面と印刷方法についての説明です。

2 種類の操作画面

プリンタードライバーの設定画面は「機能別ウィンドウ」と「ワンクリック設定」の２つの表示タイプがあります。

本書では「機能別ウィンドウ」の画面例を使用しています。表示タイプの切り替え方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

◆ 機能別ウィンドウ

印刷のたびに設定を変更することが多く、さまざまな印刷をする方に向いているウィンドウタイプです。



◆ ワンクリック設定

あまり印刷条件を変えず、いつも決まった印刷のしかたをする方に向いているウィンドウタイプです。



ワンクリック設定の表示はオプションの装着状態によって変化することがあります。

プリンタードライバーの設定画面を表示する

プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法について説明します。

2

プロパティを表示する

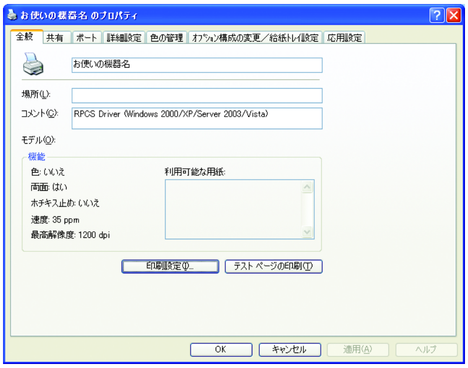
[プリンタと FAX] ウィンドウから、プリンタードライバーのプロパティを表示させる方法です。

★ 重要

- Windows XP Professional および Windows Server 2003/2003 R2 でご使用の場合、プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

[プリンタと FAX] ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、Windows XP では [全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブが表示されます。

Windows Server 2003/2003 R2 では [全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ]、[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブが表示されます。



[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ] タブは Windows が追加するタブで、Windows の機能に関する設定を行います。

[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。

[プリンタと FAX] ウィンドウが表示されます。

2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。

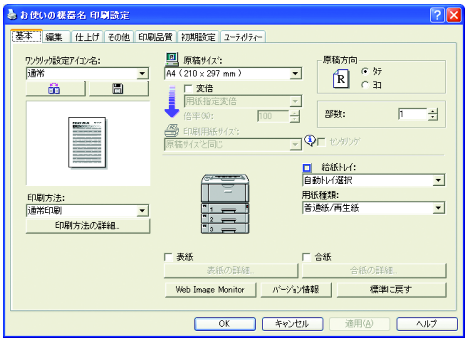
印刷設定を表示する

[プリンタと FAX] ウィンドウから、プリンタードライバーの印刷設定を表示させる方法です。

重要

- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- プリントサーバーから配布されたドライバーの場合は、プリントサーバーで設定された [標準の設定] の内容が初期値として表示されます。

[プリンタと FAX] ウィンドウから印刷設定を表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー] タブが表示されます。



これらのタブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。

[プリンタと FAX] ウィンドウが表示されます。

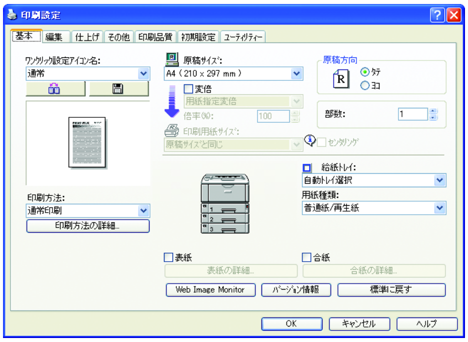
2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [印刷設定] をクリックします。

印刷設定が表示されます。

2

アプリケーションから印刷設定を表示する

アプリケーションからプリンタードライバーの印刷設定を表示させる方法です。
アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[表紙 / 合紙]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー] タブが表示されます。



これらのタブには［プリンタと FAX］ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。
印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows XP に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1 **［ファイル］メニューの［印刷］をクリックします。**

2 **本機を選択し、［詳細設定］をクリックします。**

［印刷設定］ダイアログが表示されます。

補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって異なります。詳しくは、アプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの［印刷］ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更することができます。

よく使う印刷

通常印刷、両面印刷、集約印刷、スタンプ印刷のしかたについて説明します。
ここで説明するそれぞれの機能は、「ワンクリック設定」と呼ばれる 1 つの設定にあらかじめ登録されています。ワンクリック設定の設定値を変更するだけで、これらの機能を適用することもできます。

2

補足

- ワンクリック設定については、「ワンクリック設定を使用する」を参照してください。

参照

- P.68 「ワンクリック設定を使用する」

通常印刷する

プリンタードライバーで文書を通常印刷する方法について説明します。

重要

- 印刷する前に、本機に取り付けたオプションとセットした用紙の情報を必ず設定してください。

1 **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。**

［基本］タブが表示されます。

2 **［原稿サイズ：］プルダウンメニューから、印刷する原稿のサイズを選択します。**



3 **印刷する原稿の向きを［原稿方向］の［タテ］または［ヨコ］から選択します。**

4 ［印刷方法：］プルダウンメニューから［通常印刷］を選択します。



複数の部数を印刷する場合は、［部数］ボックスに部数を入力します。

5 ［給紙トレイ：］、［用紙種類：］プルダウンメニューから、印刷に使用する給紙トレイと、指定した給紙トレイにセットされている用紙種類を選択します。



［給紙トレイ：］で［自動トレイ選択］を選択した場合は、用紙サイズと用紙種類に応じて給紙トレイが自動的に選択されます。

6 ［OK］をクリックします。

7 アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

- 本機の給紙トレイにセットされている用紙の種類は、［用紙設定］の［用紙種類］で確認できます。
- プリンタードライバーで選択できる用紙種類の設定値と、本機の画面での用紙種類表示は異なる場合があります。プリンタードライバーで用紙の種類を選択するときは、どのトレイにどの種類の用紙がセットされているかも確認してください。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

参照

- P.100 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」

両面印刷する

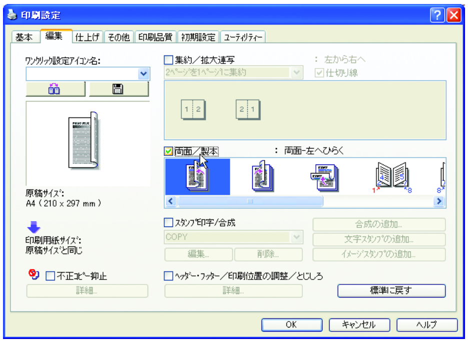
プリンタードライバーで用紙の両面に印刷する方法について説明します。

1 **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。**

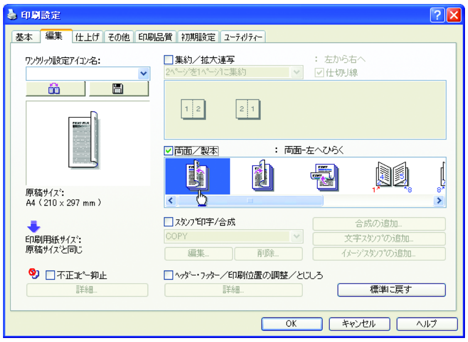
［基本］タブが表示されます。

2 **［編集］タブをクリックします。**

3 **［両面／製本］にチェックを付けます。**



4 **用紙のひらきかたをアイコンの中から選択します。**



とじしろを付ける場合は［ヘッダー・フッター／印刷位置の調整／とじしろ］にチェックを付け、［詳細 ...］をクリックして［両面印刷時のとじしろ］を設定します。

5 **その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、［OK］をクリックします。**

6 **アプリケーションから印刷の指示を出します。**

補足

- 1 つの文書内に原稿サイズの異なるページがある場合、そのページの前で改ページすることがあります。

両面印刷可能な用紙サイズ、用紙種類

本機で両面印刷できる用紙サイズと用紙種類について説明します。

♦ 両面印刷可能な用紙サイズ

- A3▯
- A4▯
- A4▭
- A5▯
- A5▭
- B4▯
- B5▯
- B5▭
- 11×17▯
- $8^1/_2$×14▯
- $8^1/_2$×11▯
- $8^1/_2$×11▭

♦ 両面印刷可能な用紙種類

- 普通紙
- レターヘッド
- 特殊紙 1
- 再生紙

補足

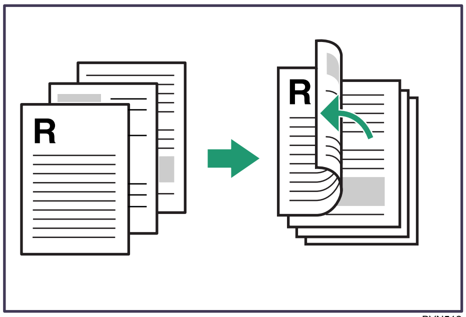
- 不定形サイズは両面印刷に対応していません。

両面印刷の種類

両面印刷で指定できる用紙のひらきかたについて説明します。
設定できる用紙のひらきかたは、用紙の一辺でとじる形態と、用紙の中央でとじる形態があります。

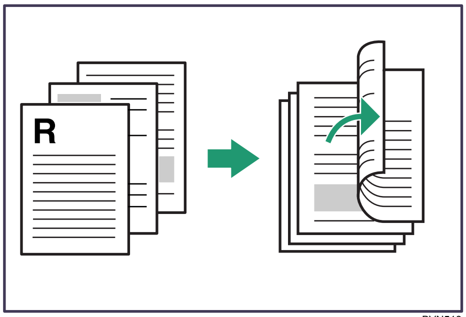
♦ 用紙の一辺でとじる形態

- 両面（左へひらく）



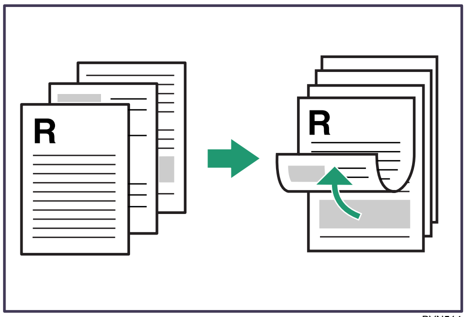
BVN512

- 両面（右へひらく）



BVN513

- 両面（上へひらく）

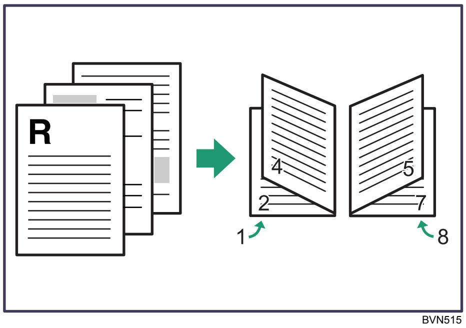


BVN514

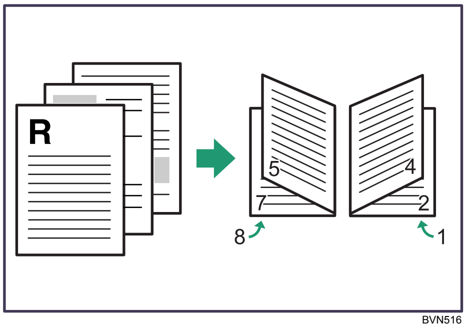
2

♦ 用紙の中央でとじる形態

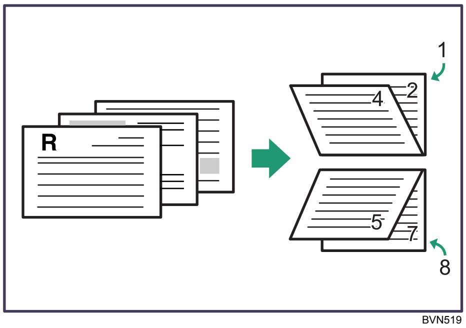
・ミニ本（左へひらく）



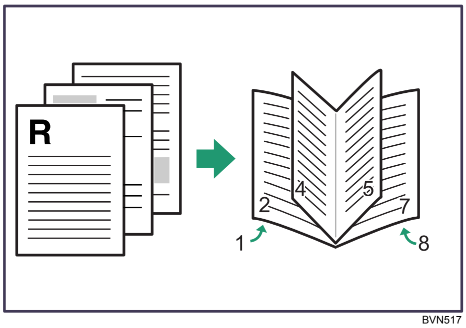
・ミニ本（右へひらく）



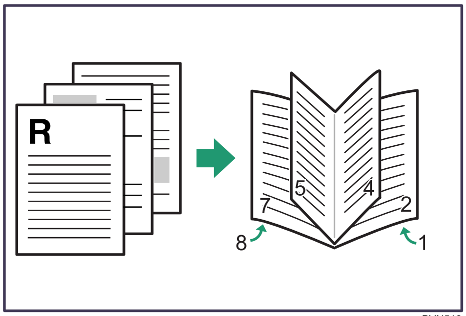
・ミニ本（上へひらく）



・週刊誌（左へひらく）

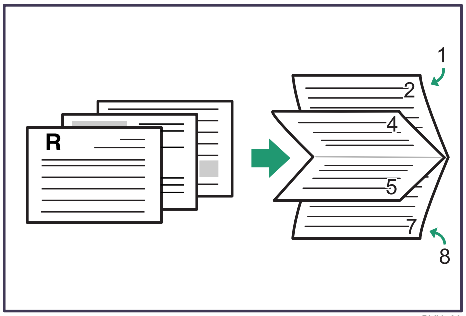


- 週刊誌（右へひらく）



BVN518

- 週刊誌（上へひらく）



BVN520

補足

- ミニ本（左へひらく）、ミニ本（右へひらく）、週刊誌（左へひらく）、週刊誌（右へひらく）は［原稿方向］が［タテ］の場合のみ指定できます。
- ミニ本（上へひらく）、週刊誌（上へひらく）は［原稿方向］が［ヨコ］の場合のみ指定できます。

2

複数のページを集約して印刷する

プリンタードライバーで集約印刷する方法について説明します。集約を設定すると、複数のページを縮小して1ページにまとめて印刷することができます。

重要

- 不定形サイズの用紙には集約を設定することができません。定型サイズの用紙を使用してください。

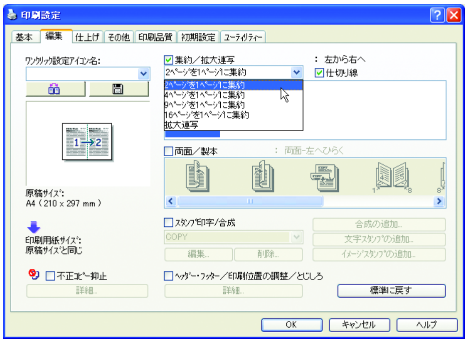
2

1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

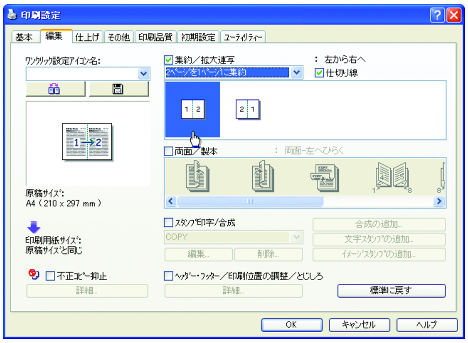
［基本］タブが表示されます。

2 ［編集］タブをクリックします。

3 ［集約／拡大連写］にチェックを付け、プルダウンメニューから集約の種類を選択します。



4 ページの並べ方をアイコンの中から選択します。



5 その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、［OK］をクリックします。

6 アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

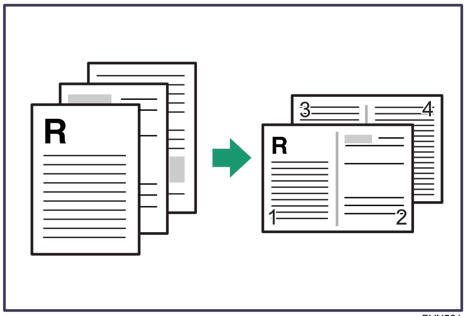
- 1 つの文書内に原稿方向の異なるページがある場合は、そのページの前で改ページします。
- 同じ機能を設定できるアプリケーションから印刷する場合は、アプリケーション側では機能を設定しないでください。アプリケーション側の設定を有効にして印刷すると、意図しない印刷結果になることがあります。
- 縦横が混在する原稿を集約する場合など、詳しくはプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

集約印刷の種類

集約の種類について説明します。
集約印刷で 1 ページにまとめることができるのは、2 ページ、4 ページ、9 ページ、16 ページです。ページの並べ方は最大 4 つのパターンの中から任意に選択することができます。

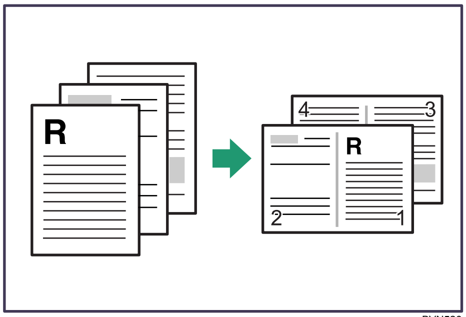
♦ 2 ページを 1 ページに集約

- 左から右へ



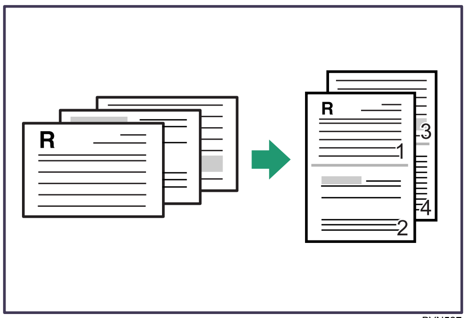
BVN521

- 右から左へ



BVN526

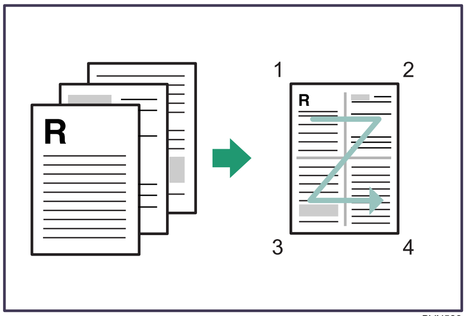
- 上から下へ



BVN527

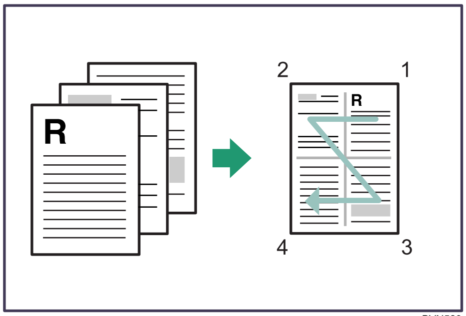
♦ 4 ページを 1 ページに集約

- 左上→右上→左下→右下



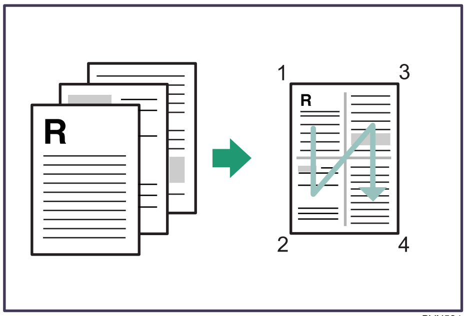
BVN522

- 右上→左上→右下→左下



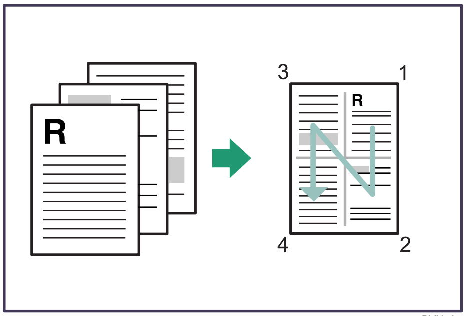
BVN523

- 左上→左下→右上→右下



BVN524

- 右上→右下→左上→左下



BVN525

原稿にイメージや文字をスタンプする

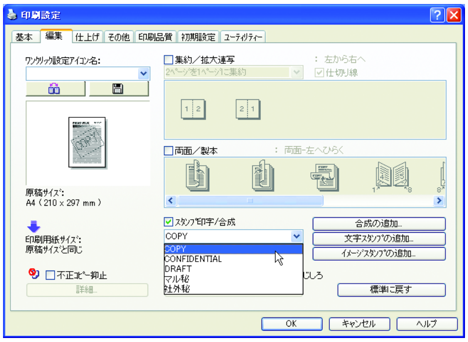
プリンタードライバーでスタンプ印刷する方法について説明します。スタンプを設定すると、作成した文書にイメージデータや文字を重ねて印刷することができます。
スタンプには、ビットマップファイル（.bmp）を使った「イメージスタンプ」と、文字データを使った「文字スタンプ」があります。一度に指定できるスタンプはどちらかのみです。

1 **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。**

［基本］タブが表示されます。

2 **［編集］タブをクリックします。**

3 **［スタンプ印字／合成］にチェックを付け、プルダウンメニューからスタンプの種類を選択します。**



選択したスタンプの内容を変更するときは［編集 ...］をクリックします。

4 **その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、［OK］をクリックします。**

5 **アプリケーションから印刷の指示を出します。**

補足

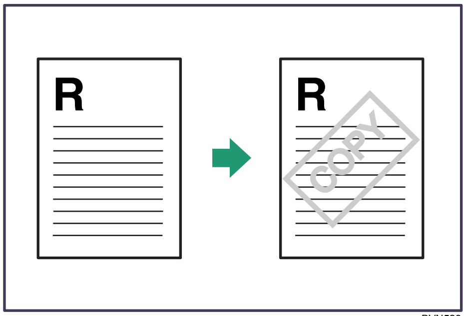
- あらかじめ用意されているスタンプのほかにも、任意にスタンプを作成し、使用することができます。
- スタンプの作成・編集方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

スタンプの種類

スタンプの種類について説明します。

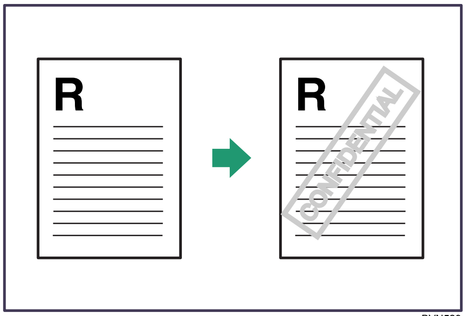
本機のプリンタードライバーにはいくつかの文字スタンプがあらかじめ登録されています。利用できるスタンプの種類は次のとおりです。

- COPY



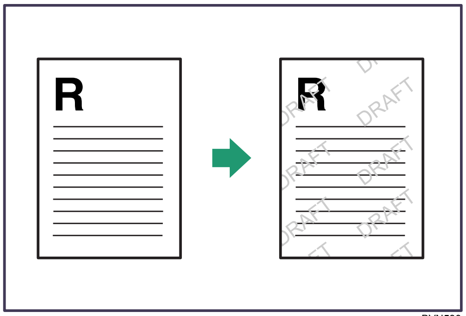
BVN528

- CONFIDENTIAL



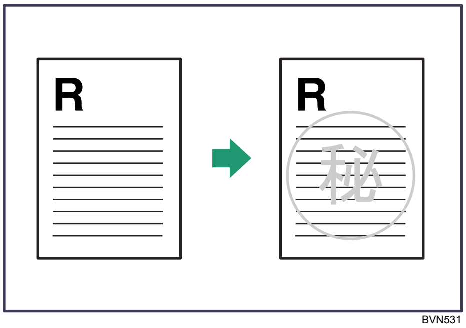
BVN529

- DRAFT

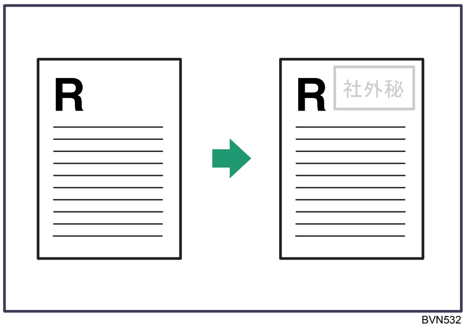


BVN530

- マル秘

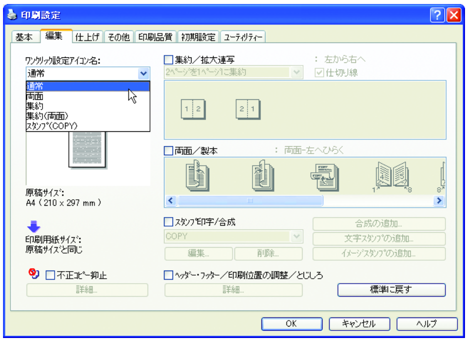


- 社外秘



ワンクリック設定を使用する

プリンタードライバーのワンクリック設定について説明します。
「よく使う印刷」のそれぞれの機能は、[基本] タブの「ワンクリック設定」にあらかじめ登録されています。メニューから設定名を選択するだけで、両面印刷や集約印刷などを指定することができます。
ワンクリック設定を使用するには、[ワンクリック設定アイコン名：] から、適用したい設定名をクリックします。



設定名を選択するだけで登録されている設定内容が反映されるため、印刷するときに何箇所も設定を変更したり、誤って設定して無駄な印刷をしてしまうミスを防ぐことができます。
ワンクリック設定は任意に追加、変更、削除することができます。また、複数のメンバーで同じワンクリック設定を共有して使用することもできます。プリンタードライバーに関する特別な知識がなくても、登録したワンクリック設定を使うだけで、さまざまな機能を活用することができます。
ワンクリック設定の登録や削除、変更については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

便利な機能

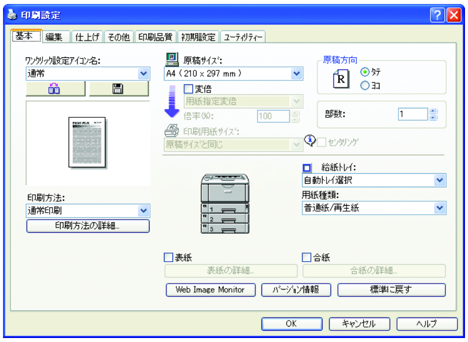
表紙用の用紙への印刷、合紙の挿入、またはソートなどの、便利な印刷機能について説明します。
「よく使う印刷」で使用する機能のほかにも、各タブから印刷に関する機能を設定することができます。

プリンタードライバーのタブについて

[基本]、[仕上げ]、[その他] タブから、便利な印刷機能を設定することができます。ここで説明するそれぞれの機能は、次のタブから設定することができます。

♦ [基本] タブ

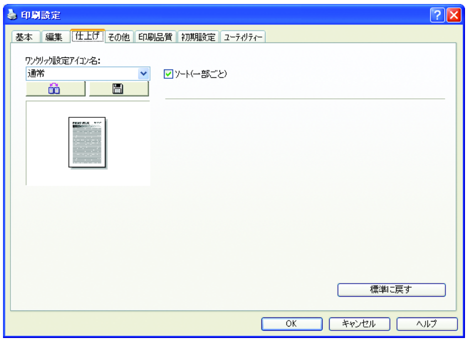
用紙サイズや用紙種類、給紙トレイに関する設定のほかに、表紙や合紙について設定することができます。



- 原稿サイズ、用紙種類
  印刷に使用する原稿サイズ、用紙種類を指定します。本機に設定されている用紙サイズ、用紙種類と一致しない場合でも、手差しトレイから印刷を続けることができます。
  この機能の説明については「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」を参照してください。
- 表紙
  表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。
  表紙には両面印刷することもできます。
  この機能の説明については「表紙を印刷する」を参照してください。
- 合紙
  ページごとに合紙を挿入します。
  この機能の説明については「合紙を挿入する」を参照してください。

♦ ［仕上げ］タブ

ソートついて設定することができます。



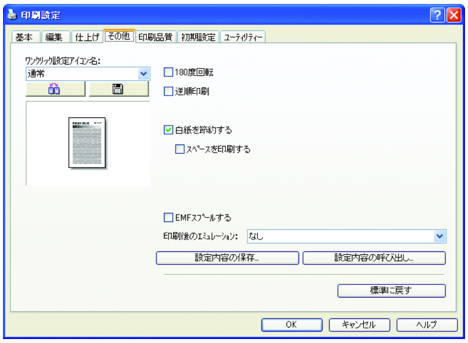
- ソート

  会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。

  この機能の説明については「部単位で印刷する（ソート）」を参照してください。

♦ ［その他］タブ

スプール印刷やその他の印刷オプションを設定することができます。



- スプール印刷

  パソコンから転送される印刷ジョブを一時的に本機に蓄積して印刷する機能です。

  この機能の説明については「スプール印刷について」を参照してください。

補足

- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

参照

- P.71 「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」
- P.73 「表紙を印刷する」
- P.74 「合紙を挿入する」
- P.75 「部単位で印刷する（ソート）」
- P.76 「スプール印刷をする」

プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する

本機の操作部を使って、[印刷設定]の[トレイ設定選択]で、[手差しトレイ]を[全用紙サイズ・用紙種類許可]または[全不定形サイズ・用紙種類許可]に設定しておくと、本機の用紙設定をあらかじめ変更、確認することなく、指定した用紙に印刷することができます。

プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙サイズ、用紙種類が、本機のどのトレイとも一致しない場合、指定した用紙サイズ、用紙種類の設定を手差しトレイに適用し、手差しトレイを使って、そのまま印刷を継続することができます。異なる用紙を頻繁に使用する場合や、普段は使用しない用紙に印刷する場合などに、操作部から用紙の設定を変更しておく必要がありません。

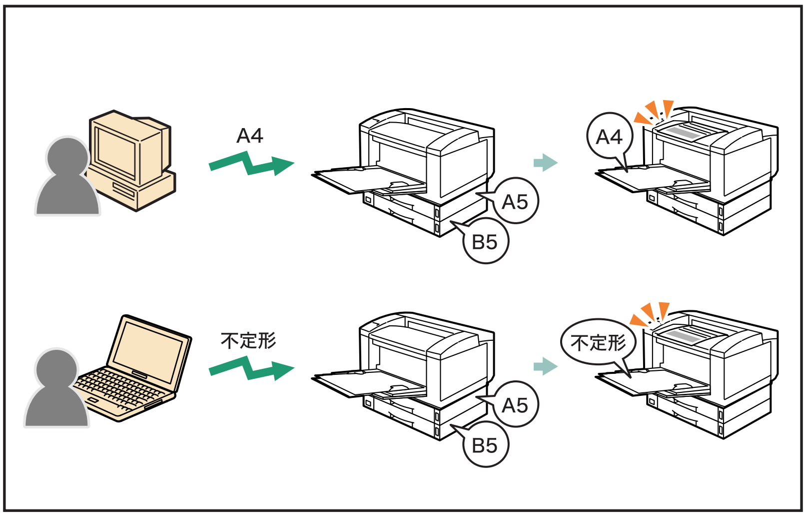
重要

- すべての用紙サイズで手差しトレイからの印刷継続を許可する場合は、[印刷設定]の[トレイ設定選択]で、[手差しトレイ]を[全用紙サイズ・用紙種類許可]に設定してください。不定形サイズの用紙のみを印刷継続の対象とする場合は、[印刷設定]の[トレイ設定選択]で、[手差しトレイ]を[全不定形サイズ・用紙種類許可]に設定してください。各設定項目については、「印刷設定メニューの設定項目」を参照してください。
- プリンタードライバーの[基本]タブで、[給紙トレイ]を[自動トレイ選択]に設定してください。自動トレイ選択でジョブを送ると、[用紙設定]の[優先給紙トレイ]で設定したトレイから順に、ジョブで指定した用紙設定に一致するトレイを検出します。[優先給紙トレイ]を[手差しトレイ]に設定すると、手差しトレイに用紙がセットされている場合は、常に手差しトレイから給紙、印刷します。プリンタードライバーの設定については、「プリンタードライバーのタブについて」を参照してください。[優先給紙トレイ]の設定については、「用紙設定メニューの設定項目」を参照してください。

手差しトレイを[全用紙サイズ・用紙種類許可]または[全不定形サイズ・用紙種類許可]に設定しておくと、下記の例のように給紙、印刷します。

♦ [全用紙サイズ・用紙種類許可]の場合

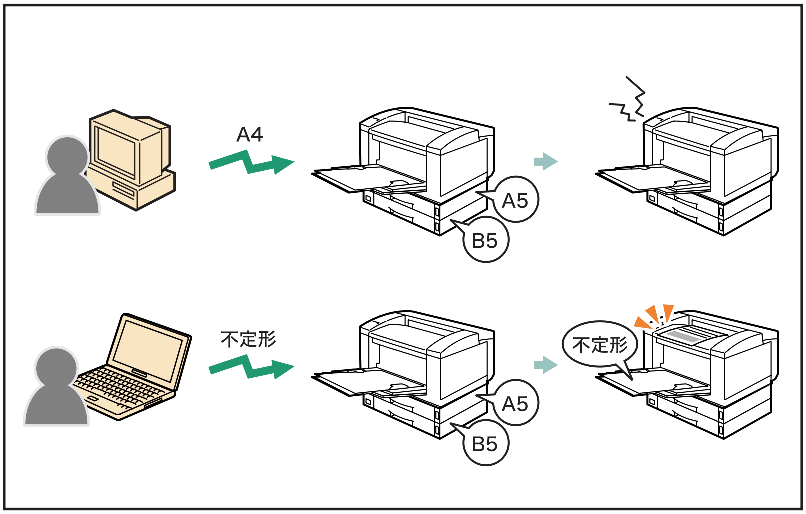
ジョブの用紙設定が本機の用紙設定と一致しない場合、ジョブの用紙設定を手差しトレイに適用して印刷できます。



BVN754

◆［全不定形サイズ・用紙種類許可］の場合

ジョブの用紙設定が本機の用紙設定と一致しない場合、ジョブの用紙設定が不定形サイズである場合に限り、その設定を手差しトレイに適用して印刷できます。



BVN755

補足

- 印刷速度は通常の印刷に比べて遅くなります。
- ジョブを受信したとき、手差しトレイに用紙がセットされていない場合は、用紙の補給を促すメッセージが操作部に表示されます。表示されている用紙サイズ、用紙種類を確認し、印刷したい面を上にして用紙をセットしてください。
- 1 つの文書に用紙サイズの異なるページが混在している場合で、本体トレイに一致する用紙がない場合は、すべてのページを手差しトレイから印刷します。本体トレイに一致するページがある場合は、一致するページのみ本体トレイから印刷します。
- ジョブで指定した用紙サイズと手差しトレイから給紙された用紙サイズが異なるときは、操作部に警告画面が表示されます。対処方法については「手差しトレイからの印刷を継続する」を参照してください。

参照

- P.69 「プリンタードライバーのタブについて」
- P.103 「手差しトレイからの印刷を継続する」
- P.133 「用紙設定メニューの設定項目」
- P.152 「印刷設定メニューの設定項目」

表紙を印刷する

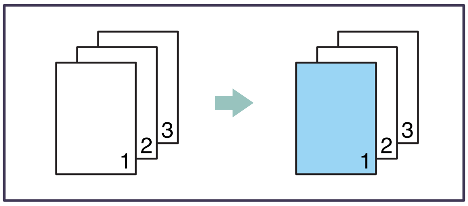
表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。

重要

- ソートの設定が必要です。
- 表紙用の用紙は印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。

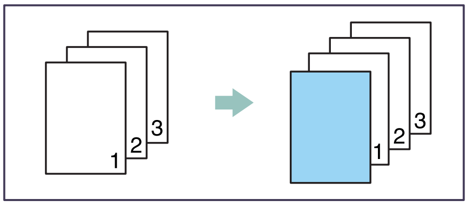
◆ 片面印刷の場合

- 表紙用の用紙に印刷するとき



BVN503

- 表紙用の用紙に印刷しないとき

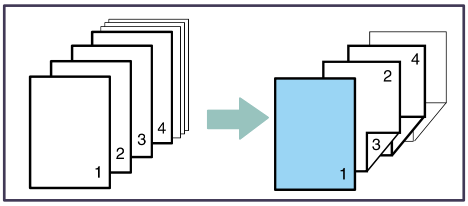


BVN505

◆ 両面印刷の場合

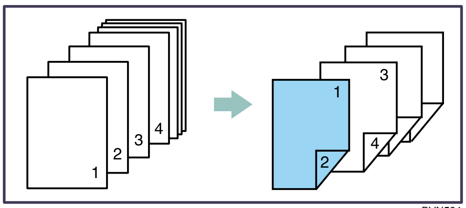
1 ページ目の原稿と最終ページの原稿を、表紙用の用紙に印刷します。

- 表紙用の用紙に片面印刷するとき



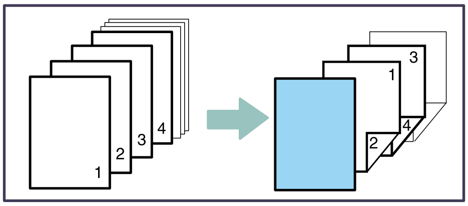
BVN533

- 表紙用の用紙に両面印刷するとき



BVN504

・表紙用の用紙に印刷しないとき


BVN534

補足

・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

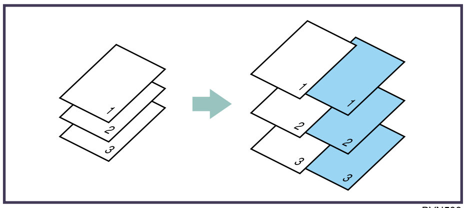
合紙を挿入する

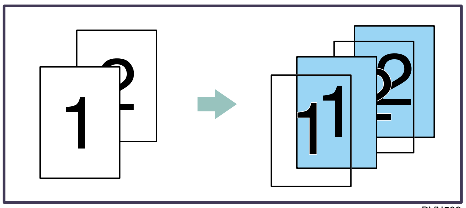
ページごとに合紙を挿入します。

重要

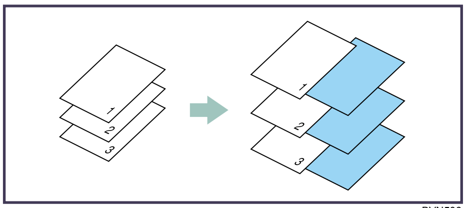
・両面印刷、表紙が指定されているときは、合紙の挿入はできません。

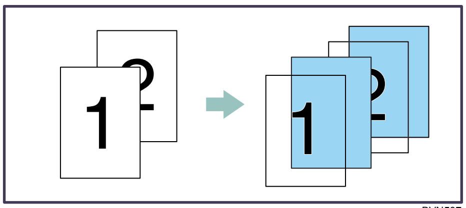
◆ 合紙に印刷する


BVN508


BVN509

◆ 合紙に印刷しない


BVN506


BVN507

補足

- 合紙用の用紙は、印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。
- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

部単位で印刷する（ソート）

会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。この機能を「ソート」といいます。ソートは、パソコンから送信されてきたデータをメモリーに読み込むことによって行います。

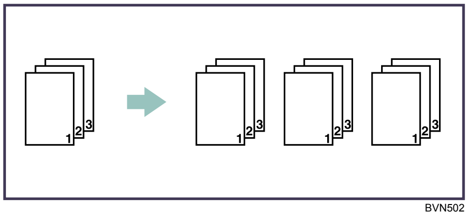
重要

- ソート可能なページ数は、RAM による場合は最大 150 ページ、ハードディスクを増設した場合は最大 1,000 ページです。
- 1 部目でエラースキップや強制印刷が発生した場合は、ソートは解除されます。

♦ ソートの種類について

- ソート

  1 部ずつそろえて印刷します。



補足

- プリンタードライバーでソートの設定をするときは、アプリケーションのソート（部単位印刷設定）が無効になっていることを確認してください。アプリケーションのソート設定を有効にして印刷をすると、意図しない印刷結果になることがあります。
- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

スプール印刷をする

スプール印刷とは、パソコンから転送される印刷ジョブを一時的に本機に蓄積して印刷する機能です。スプール印刷をすると、大容量のデータのとき、パソコンが早く印刷処理から開放されます。

重要

- スプール印刷を行うには、拡張 HDD が必要です。
- スプール印刷中は、拡張 HDD へのアクセスが行われ、データインランプが点滅します。スプール印刷中に本機やパソコンの電源を切ると、拡張 HDD が破損するおそれがあります。スプール印刷中は本機やパソコンの電源を切らないでください。
- BMLinkS、diprint、ftp、IPP、LPR、SMB（TCP/IP（IPv4））、sftp、WSD（Printer）以外のプロトコルで受信したデータは、スプール印刷できません。
- 本機の操作部の画面にはスプールジョブの一覧は表示されません。

♦ スプール印刷を設定する

Web ブラウザーと telnet で設定できます。

- Web ブラウザーの場合
  詳しくは、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- telnet の場合
  「spoolsw spool on」で設定します。詳しくは、「telnet を使う」を参照してください。

♦ Web ブラウザーからスプールジョブを閲覧・削除する

Web ブラウザーを起動し、URL としてプリンターの IP アドレスを指定すると、Web Image Monitor のトップページが表示されます。

補足

- 一度に最大 150 ジョブまでスプールできます。
- スプール印刷をすると、1 ページ目の印刷開始は遅くなります。
- プリンターに蓄積されたスプールジョブは、Web ブラウザーから閲覧・削除することができます。詳しくは、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- スプール印刷の指定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

参照

- P.177 「Web ブラウザーを使う」
- P.201 「telnet を使う」

PDF ファイルを直接印刷する

PDF ファイルを開くアプリケーションを起動することなく、PDF ファイルを本機に直接送信して印刷することができます。
PDF ファイルを直接印刷するには、Ridoc Desk Navigator Lt から印刷する方法と、コマンドを使って印刷する方法があります。

重要

- この機能は、オプションの PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードを装着しているときに使用できます。
- Adobe 純正の PDF のみ可能です。
- 対応している PDF ファイルのバージョンは、1.3、1.4、1.5、1.6、1.7 です。
- PDF バージョン 1.5 の固有機能である Crypt Filter や、8 コンポーネントを超える DeviceN のカラースペースには対応していません。
- PDF バージョン 1.6 の固有機能であるウォーターマーク注釈や、バージョン 1.6 で機能拡張されたオプショナルコンテンツには対応していません。
- PDF バージョン 1.7 の固有機能を使用していない PDF ファイルは印刷できます。
- 透明機能を含むデータを印刷する場合、オプションの SDRAM モジュール 128MB/256MB の増設が必要です。ただし、メモリの容量を最大まで増設した場合でも、印刷するデータによっては印刷できないことがあります。この場合はプリンタードライバーを使用して印刷してください。

補足

- 不定形サイズの用紙に印刷する場合は、用紙サイズエラーが発生することがあります。

参照

- P.177 「Web ブラウザーを使う」
- P.201 「telnet を使う」

Ridoc Desk Navigator Lt を使用する

個人文書管理ソフト Ridoc Desk Navigator Lt に PDF ファイルを登録し、PDF ファイルを直接本機に送って印刷することができます。
PDF ダイレクトプリントの印刷条件は、PDF ダイレクトプリントのプロパティで設定できます。

重要

- Job Binder と連携して文書を印刷、編集するには、ご使用のパソコンに RPCS プリンタードライバーがインストールされている必要があります。
- Ridoc Desk Navigator Lt をご使用の場合は、Port の設定をしてからご使用ください。

補足

- 操作方法の詳細は、Ridoc Desk Navigator Lt のヘルプを参照してください。

参照

- P.78 「Ridoc Desk Navigator Lt のインストール」

Ridoc Desk Navigator Lt のインストール

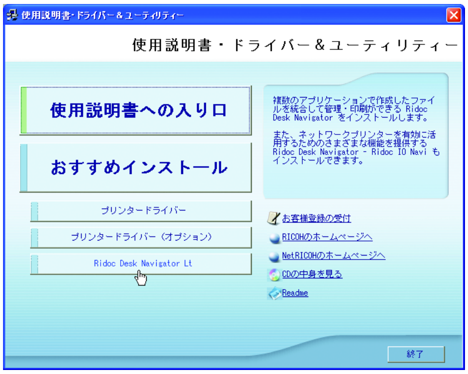
Ridoc Desk Navigator Lt のインストール方法は次のとおりです。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

3 ［Ridoc Desk Navigator Lt］をクリックします。



Ridoc Desk Navigator Lt のインストーラーが起動します。

4 ［Ridoc Desk Navigator Lt］ダイアログが表示されたら、［Ridoc Desk Navigator Lt］をクリックします。

確認の画面が表示されます。

5 ［はい］をクリックします。

6 表示されるメッセージに従って Ridoc Desk Navigator Lt をインストールします。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

インストールが完了すると、完了画面が表示されます。

7 ［完了］をクリックします。

8 ［セットアップ終了］をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

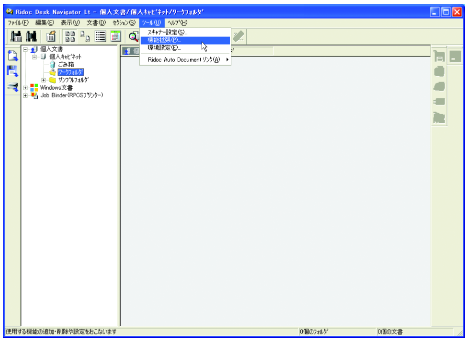
Ridoc Desk Navigator Lt の機能拡張について

Ridoc Desk Navigator Lt の機能拡張について説明します。
Ridoc Desk Navigator Lt では、文書の入力、出力、接続、ツールに関する機能を拡張することができます。PDF ファイルを直接印刷するには、機能拡張から直接印刷の機能を追加してください。

1 Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］、［RICOH Ridoc Desk Navigator］、［Ridoc Desk Navigator］をクリックします。

［機能拡張ウィザード］が起動した場合は［終了］をクリックしてください。
Ridoc Desk Navigator Lt が起動します。

2 ［ツール］メニューから［機能拡張］をクリックします。



機能拡張のダイアログが表示されます。

3 ［分類］のカテゴリーから［出力］を選択します。

4 ［選択できる機能］の欄から拡張したい機能を選択し、［追加］をクリックします。



PDF ダイレクトプリントについては、「PDF ファイルを直接印刷する」を参照してください。

5 追加する機能によってはプロパティが表示されます。[OK]をクリックします。

PDFダイレクトプリントを追加するとプロパティが表示されます。[プリンタ名]から使用する機器を選択し、[OK]をクリックします。

RTIFFダイレクトプリントを追加するとプロパティが表示されます。[使用するプリンターのホスト名またはIPアドレス]に本機のホスト名またはIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。

6 [設定された機能]の欄に追加した機能が表示されます。

7 拡張する機能の設定が終了したら[OK]をクリックします。

8 Ridoc Desk Navigator Ltを終了します。

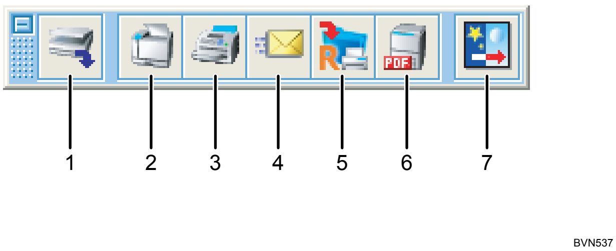
補足

- PDFダイレクトプリントを使用するには、PDFダイレクトプリントカードが必要です。

Ridoc Functionパレットについて

Ridoc Functionパレットについて説明します。

Ridoc Functionパレットとは、Ridoc Desk Navigator Ltの機能拡張で設定した機能をボタン化したものです。Ridoc Desk Navigator Ltを起動することなく、Windowsファイルの印刷、印刷プレビュー、画像変換、文書のスキャナー登録などができます。また、これらの機能はパレットのボタンに対象ファイルをドラッグ＆ドロップするだけで使用することもできます。



1 スキャン（本機のみの環境では使用できません）

2 印刷

3 ファクス送信（本機のみの環境では使用できません）

4 メール送信（本機のみの環境では使用できません）

5 JobBinder保存（本機のみの環境では使用できません）

6 PDFダイレクトプリント

7 画像変換

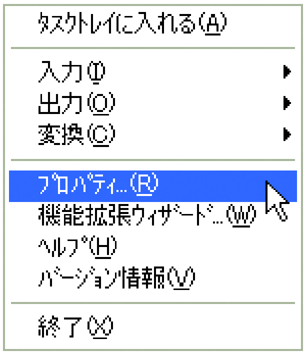
機能拡張を設定した場合は、Ridoc Functionパレットに自動でボタン表示されます。設定した機能のボタンが表示されない場合や、ボタンを非表示にする場合は以下の操作を行ってください。

1 Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］、［RICOH Ridoc Desk Navigator］、［Ridoc Function パレット］をクリックします。

右下のタスクトレイに、Ridoc Function パレットのアイコンが追加されます。



2 タスクトレイに表示されたアイコンを右クリックし、［プロパティ ...］をクリックします。



プロパティが表示されます。

3 ［構成］タブをクリックし、ボタン表示させる機能にはチェックボックスにマークを付け、ボタン表示させない機能にはチェックボックスのマークを外します。



4 ［OK］をクリックし、プロパティを閉じます。

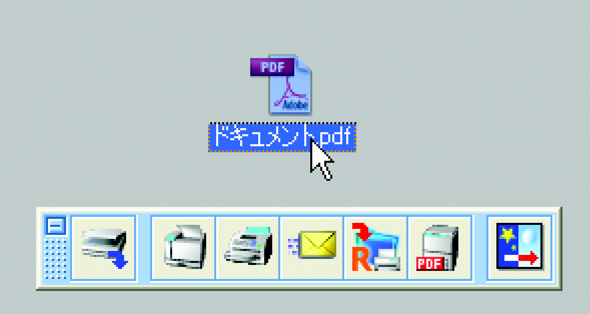
Ridoc Function パレットに設定したボタンが表示されます。

PDF ファイルを直接印刷する

Ridoc Desk Navigator Lt を起動することなく、Ridoc Function パレットから PDF ファイルを印刷する方法について説明します。

2

1 印刷したい PDF ファイルを、パレットの PDF ダイレクトプリントのアイコンにドラック＆ドロップします。



［出力ファイル一覧］画面が表示されます。印刷順序の入れ替えや、印刷するファイルの追加と削除ができます。

2 出力したい PDF ファイルを選択し、反転させて [OK] をクリックします。

PDF ファイルが印刷されます。

PDF パスワード文書を印刷する

パスワードで保護された PDF ファイルを印刷する場合の手順を説明します。

1 **Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］、［RICOH Ridoc Desk Navigator］、［Ridoc Desk Navigator］をクリックします。**

［機能拡張ウィザード］が起動した場合は［終了］をクリックしてください。
Ridoc Desk Navigator Lt が起動します。

2 **［ツール］メニューから［機能拡張］をクリックします。**

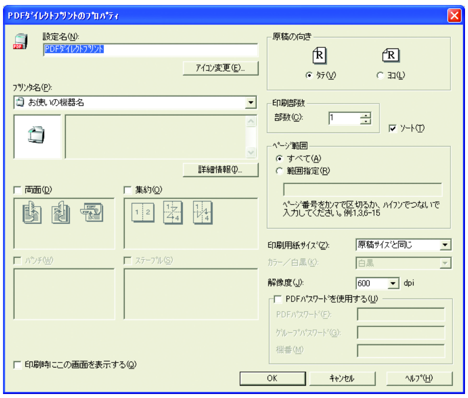
機能拡張のダイアログが表示されます。

3 **［分類］のカテゴリーから［出力］を選択します。**

4 **［設定された機能］の欄から、［PDF ダイレクトプリント］を選択し、［プロパティ ...］をクリックします。**



5 **画面右下の［PDF パスワードを使用する］のチェックボックスにチェックし、［OK］をクリックします。**



印刷時にこのプロパティを表示させ、パスワード入力を行う場合は、［印刷時にこの画面を表示する］のチェックボックスにマークを付けます。

6 ［OK］をクリックします。

7 印刷したい PDF ファイルを、パレットの PDF ダイレクトプリントのアイコンにドラック＆ドロップします。

出力ファイル一覧画面が表示されます。

8 出力したい PDF ファイルを選択して反転表示させ、［OK］をクリックします。

PDF ダイレクトプリントのプロパティが表示されます。

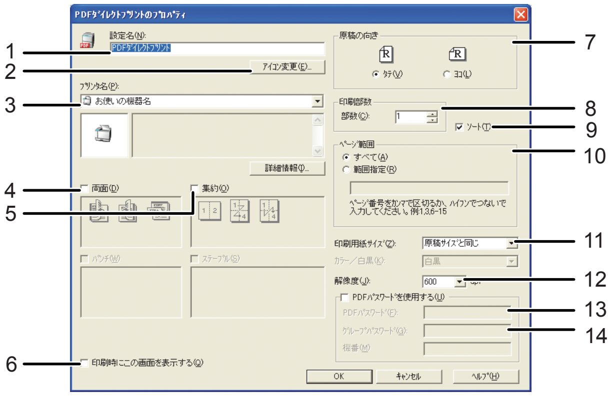
9 右下の［PDF パスワード］に印刷したい PDF のパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

パスワードで保護された PDF ファイルが印刷されます。

補足

- パスワードが設定されている PDF ファイルを印刷する場合、次の 2 つの設定のいずれかが必要です。
  - PDF ダイレクトプリントのプロパティで PDF パスワードを入力します。
  - 本機の［プリンター初期設定］の［PDF 設定］メニューから、［PDF パスワード変更］で PDF パスワードを設定します。
- Ridoc Desk Navigator Lt、または本機の［プリンター初期設定］の［PDF 設定］メニューの［PDF グループパスワード］でグループパスワードを設定している場合は、もう一方にも同様のグループパスワードを設定する必要があります。

PDF ダイレクトプリントのプロパティについて



BVN538

1 設定名
プラグインの設定名を表示します（半角英数字 63 文字までです）。

2 アイコン変更
ツールバーに表示されるアイコンを変更できます。

3 プリンタ名
PDF ダイレクトプリントに対応した RPCS ドライバー一覧が表示されます。

4 両面
両面印刷をする場合は、ここで指定します。

5 集約
集約印刷する場合は、ここで指定します。

6 印刷時にこの画面を表示する
チェックをつけた場合は、PDF ダイレクト印刷時にこの画面が表示されます。

7 原稿の向き
印刷する原稿の向きを指定します。

8 印刷部数
印刷部数を指定します。

9 ソート
ソート印刷をする場合は、ここで指定します。

10 ページ範囲
印刷する範囲をページ指定します。

11 印刷用紙サイズ
印刷する用紙のサイズを選択します。

12 解像度
印刷の解像度を選択します。

13 PDF パスワード
PDF ファイルがパスワードで保護されている場合は、ここにパスワードを入力します。パスワードを入力しないと、印刷できません。

14 グループパスワード
本機にグループパスワードが設定されている場合は、ここにグループパスワードを入力します。本機に設定されているグループパスワードと、ここで設定したグループパスワードが一致しない場合は印刷できません。

コマンドを使用して印刷する

PDF ダイレクトプリントの方法について説明します。
PDF ファイルを本機に送信して直接印刷するには、lpr コマンドを使用します。

補足

・直接印刷や lpr コマンドについて、詳しくは「Windows からのファイル直接印刷」を参照してください。

参照

・P.297 「Windows からのファイル直接印刷」

PDF ファイルを送信する

lpr コマンドで PDF ファイルを送信する方法について説明します。
lpr コマンドでは、プリンターの IP アドレスのほか、PDF ファイル名を指定します。書式は次のとおりです。
`C:¥>lpr -S プリンターの IPアドレス（またはホスト名）[-o l] ¥パス¥ファイル名`

PDF パスワードを設定する

パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷する方法について説明します。
パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷するには、操作部または Web Image Monitor、PJL コマンドのいずれかでパスワードを指定します。PJL コマンドでパスワードを指定した場合は、操作部または Web Image Monitor で指定したパスワードは無視されます。

♦ PJL コマンドを使う
PJL コマンドを使用して PDF ファイルにパスワードを設定するには、以下のコマンドと値を使用します。
・コマンド：SET
・値：PDFPASSWORD
・使用例：@PJL SET PDFPASSWORD = セットしたいパスワードの文字列
PDF パスワードは ASCII 文字（0x20〜0x7E（ただし 0x22 は除く））で、32 文字まで設定できます。

♦ 操作部を使う
操作部を使用して PDF パスワードを設定するには、［印刷設定］の［PDF 設定］で［PDF パスワード］を設定します。

♦ Web Image Monitor を使う
Web Image Monitor を使用して PDF パスワードを設定するには、［設定］の［PDF 一時パスワード］を設定します。

文書の複製を抑止する

本機では、不正コピー抑止用の地紋と文字列を埋め込んで印刷することができます。不正コピー抑止印刷には、「不正コピーガード機能」と「マスクパターン」があります。

★ 重要

- 不正コピー抑止印刷は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。
- 不正コピーガード機能は、トナーセーブモードには対応していません。

2

■不正コピー抑止の詳細ウィンドウを表示する

1 プリンタードライバーの印刷設定を開き、[編集] タブをクリックします。

2 [不正コピー抑止] のチェックボックスにチェックし、[詳細 ...] をクリックします。

不正コピーガード機能

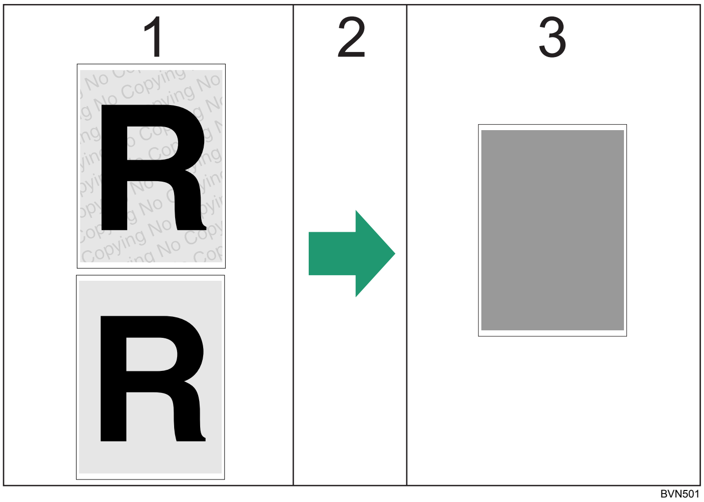
プリンタードライバーで不正コピーガード用の地紋を埋め込んで、印刷することができます。



♦ 必要な設定項目

- ［不正コピーガード］のチェックボックスにチェックを入れます。［文字列］に、不正コピー抑止文字列を入力することもできます。
- ［マスクパターン］を選択することはできません。
- 不正コピーガードでグレー地に印刷するには、本機側での設定もあわせて必要です。設定方法については、管理者に確認してください。

♦ 不正コピーガードを設定した文書を印刷すると



1 不正コピーガードを設定すると、不正コピーガード用の地紋および不正コピー抑止文字列が埋め込まれて印刷されます。

2 当社の不正コピーガードモジュールが搭載された複写機／複合機を使って、コピーを行います。

3 文書内の文字や画像が、グレー地に変換されます。

補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋を埋め込むことはできません。
- 用紙サイズは B5 以上をご使用ください。
- 用紙種類は普通紙、または白色度 70% 以上の再生紙をご使用ください。
- 両面印刷は可能ですが、裏面の文字や模様が透けることにより、機能が正常に動作しないことがあります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 「不正コピー抑止の詳細」画面の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 不正コピーガードモジュールは当社の複合機／複写機用のオプションです。本機には装着できません。

マスクパターン

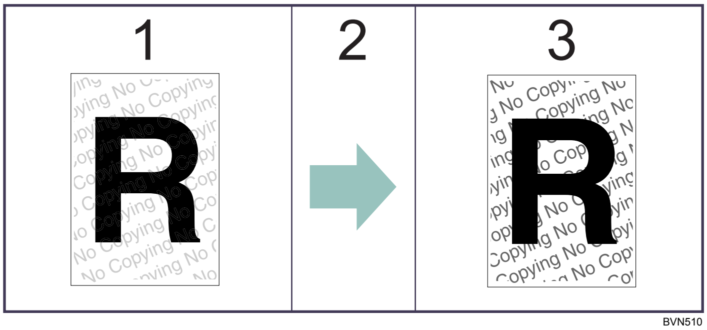
プリンタードライバーで不正コピー抑止地紋と不正コピー抑止文字列を設定し、文書に埋め込んで印刷することができます。

♦ 必要な設定項目



- ［マスクパターン］で不正コピー抑止地紋を選択し、［文字列］で不正コピー抑止文字列を設定します。
- ［文字列］だけを設定することはできますが、［マスクパターン］だけを設定することはできません。

♦「不正コピー抑止印刷」を設定した文書を印刷すると



1 不正コピー抑止印刷を設定した文書を印刷すると、設定した不正コピー抑止地紋および不正コピー抑止文字列が表示されます。

2 本機や他の複写機 / 複合機を使って、コピーやスキャン、ドキュメントボックスへの蓄積を行います。

3 不正コピー抑止文字列が浮き上がります。

補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋と文字列を埋め込むことはできません。
- 地紋効果は、コピー、スキャン、ドキュメントボックスへの蓄積結果をすべて保証しているものではありません。また蓄積結果は、使用する機種とその設定条件により異なります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 不正コピー抑止印刷のための文字列地紋を効果的に浮き上がらせるために、文字列サイズは 70〜80pt（最低 50pt）、文字列角度は 30〜 40 度の範囲内で設定してください。
- 「不正コピー抑止の詳細」の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

おことわり

1) 当社は、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。
2) 不正コピー抑止地紋および不正コピーガード機能を使用または使用できなかったことにより生じた損害については、当社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。

プリントジョブに分類コードを入力する

分類コードが必須の環境で印刷するときは、プリントジョブに分類コードを指定して印刷します。

重要

- 入力した分類コードはプリンタードライバーに保持されます。
- 複数の分類コードを切り替えたい場合は、プリンタードライバーを別の名前で複数インストールし、それぞれに個別の分類コードを設定します。

■RPCS プリンタードライバーの場合

1. 印刷したいアプリケーションから本機の印刷設定画面を開きます。
2. ［基本］タブから［印刷方法の詳細 ...］をクリックします。
   ［印刷方法：］プルダウンメニューで［Job Binder に保存する］を選択した場合、分類コードを入力することはできません。
3. ［分類コード：］ボックスに分類コードを入力します。
   分類コードは半角英数字と -(ハイフン)を合計32文字まで使用することができます。
4. ［OK］をクリックします。

■PCL6 プリンタードライバーの場合

1. 印刷したいアプリケーションから本機の印刷設定画面を開きます。
2. ［項目別設定］タブをクリックします。
3. ［メニュー項目：］から［印刷方法 / 認証］をクリックします。
4. ［分類コード：］ボックスに分類コードを入力します。
   分類コードは半角英数字と -(ハイフン)を合計32文字まで使用することができます。
5. ［OK］をクリックします。

仮想プリンターを使用する

仮想プリンターについて説明します。

仮想プリンターとは、ネットワーク上でのみ認識することができる擬似的なプリンターです。仮想プリンターには、印刷に関するさまざまなオプション（給紙トレイの指定や両面印刷の有無など）を設定しておくことができます。また、割り込み印刷を設定することができます。割り込み印刷とは、印刷中や処理中のジョブを一時停止させて、別のジョブを先に印刷することです。この機能を使うには、拡張 HDD が必要です。UNIX や Solaris などから印刷するときに仮想プリンターを指定すると、コマンドによる印刷オプションの指示ができない場合でも、さまざまな印刷をすることができます。

仮想プリンターを追加する

仮想プリンターを追加する手順について説明します。

重要

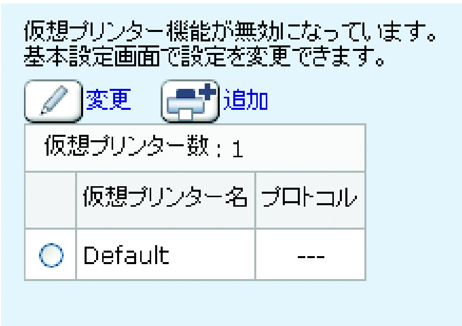
- 仮想プリンターの追加を行うには管理者モードでログインする必要があります。
- 仮想プリンターで使用可能なプロトコルは、［TCP/IP（指定なし・通常）］、［TCP/IP（指定なし・優先）］［TCP/IP（DIPRINT）］、［TCP/IP（RHPP）］、［AppleTalk］です。

1 **Web Image Monitor に管理者モードでログインします。**

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

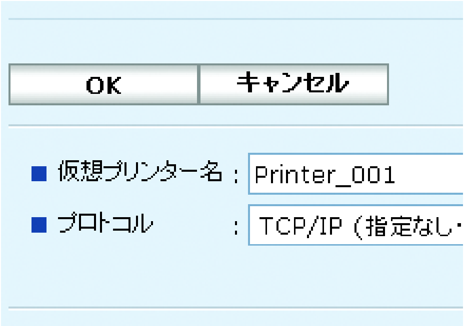
2 **左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。**

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



3 ［追加］をクリックします。

仮想プリンターの追加画面が表示されます。



4 ［仮想プリンター名］に任意のプリンター名を入力し、［プロトコル］を選択してください。

5 ［OK］をクリックします。

仮想プリンターが追加されます。

補足

- ［AppleTalk］は、PS3 カード装着時に表示されます。
- ［プロトコル］で［AppleTalk］を指定した場合、仮想プリンターの名前を任意に設定することはできません。
- 仮想プリンターの名前は、半角英数字と記号で 47 文字まで設定できます。
- 追加できる仮想プリンターの数は 50 個までです。登録されている仮想プリンターが 51 個に達している場合、［追加］ボタンは表示されません。

参照

- P.177 「Web ブラウザーを使う」

2

仮想プリンターの設定を変更する

仮想プリンターの設定を変更する手順について説明します。

重要

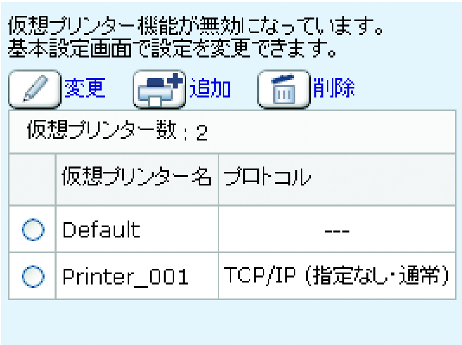
- 仮想プリンターの設定を変更するには管理者モードでログインする必要があります。

1 **Web Image Monitor に管理者モードでログインします。**

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

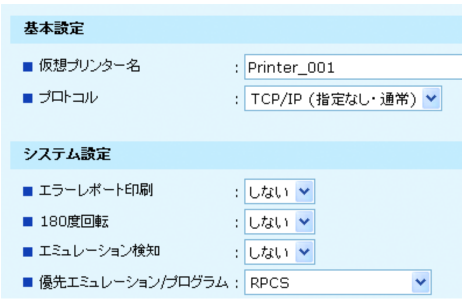
2 **左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。**

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



3 **変更したい仮想プリンターを選択し、［変更］をクリックします。**

変更可能な設定項目の一覧が表示されます。



ここで設定した仮想プリンターを割り込み印刷用の仮想プリンターとして設定する場合は、［プロトコル］で［TCP/IP（指定なし：優先)］を選択します。

4 **各項目の設定内容を任意に変更し、［OK］をクリックします。**

補足

- 設定内容の詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

参照

- P.177 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターの設定内容を確認する

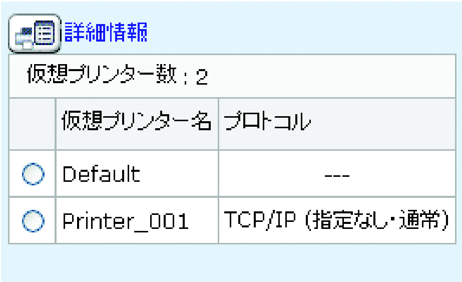
仮想プリンターの設定内容を確認する手順について説明します。

1 **Web Image Monitor を起動します。**

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 **左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。**

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



3 **確認したい仮想プリンターを選択し、［詳細情報］をクリックします。**

設定内容の一覧が表示されます。

補足

- 管理者モードでログインしている場合、［詳細情報］は表示されません。［変更］で現在の設定内容を確認してください。
- ゲストモードでログインしている場合、仮想プリンター機能が無効になっていると仮想プリンターの一覧は表示されません。仮想プリンターを有効にする方法については、「仮想プリンターで印刷する」を参照してください。

参照

- P.97 「仮想プリンターで印刷する」
- P.177 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターを削除する

仮想プリンターを削除する手順について説明します。

重要

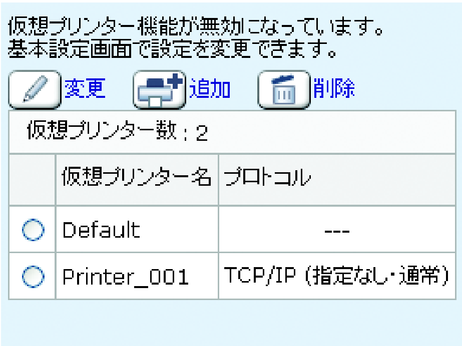
- 仮想プリンターを削除するには管理者モードでログインする必要があります。

1 **Web Image Monitor に管理者モードでログインします。**

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 **左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。**

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



3 **削除したい仮想プリンターを選択し、［削除］をクリックします。**

仮想プリンター削除の確認画面が表示されます。

4 **［OK］をクリックします。**

補足

- Default の仮想プリンターは削除できません。
- Default の仮想プリンターしか登録されていない場合、［削除］ボタンは表示されません。

参照

- P.177 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターで印刷する

仮想プリンターを使って印刷するには、各コマンドのオプションに［仮想プリンター名］を指定します。割り込み印刷をする場合は、割り込み印刷用に設定した仮想プリンターの名前を指定します。最初に印刷を行う前に、仮想プリンターを［有効］に設定してください。

重要

- 仮想プリンターを有効にするには、管理者モードでログインする必要があります。

2

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［プリンター基本設定］をクリックします。

3 [仮想プリンター] の項目から [有効] を選択し、[OK] をクリックします。

4 パソコンから印刷の指示を出します。

♦ **lpr の場合**

`c:> lpr -S` プリンターの `IP` アドレス（またはホスト名 [`-P` 仮想プリンター名] [`-o l`] ￥パス名￥ファイル名

♦ **rcp の場合**

`c:> rcp [-b]` ￥パス名￥ファイル名 [￥パス名￥ファイル名 ...] プリンターのホスト名 : [仮想プリンター名]

♦ **ftp の場合**

`ftp> put` ￥パス名￥ファイル名 [仮想プリンター名]

補足

- 現在印刷中のジョブが下記の条件を満たしている場合、割り込み印刷用に設定した仮想プリンターを印刷しても、割り込み印刷できません。現在のジョブの印刷が終了してから割り込んだジョブの処理が開始されます。
  - 手差しトレイから印刷されている場合
  - 現在のジョブが表紙や合紙の機能を使用している場合
- 現在のジョブで大量のメモリーを消費していたり、大量の印刷をしている場合、割り込んだジョブを処理するメモリーが不足したり、すべてのページが印刷できなかったりします。この場合、蓄積が解除されたり、通常の最大枚数より少ない枚数でソートされる場合があります。

参照

- P.177 「Web ブラウザーを使う」

メモリー容量と用紙サイズ

本機に搭載されているメモリー容量による、印刷可能な解像度と用紙サイズについての説明です。

補足

- 長尺紙についての詳細については、『ハードウェアガイド』「使用できる用紙の種類とサイズ」を参照してください。

片面印刷（600 dpi × 600 dpi）の場合

◆ 256 MB（標準）、384 MB（標準 ＋ 128 MB）、512 MB（標準 ＋ 256 MB）

- A3、B4、A4、B5、A5、はがき、長形 3 号封筒、角形 2 号封筒、11×17、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）、不定形の用紙に印刷できます。
- 長尺は、搭載メモリーが 256MB で「優先メモリー」が「ユーザーメモリー」の場合に限り、ほとんどの画像で印刷が可能です。

片面印刷（1200 dpi × 1200 dpi）の場合

重要

- 長尺紙を使用する場合、片面印刷（1200 dpi × 1200 dpi）の設定で印刷を行うと画像が乱れる場合があります。長尺紙を使用する場合は片面印刷（600 dpi × 600 dpi）での印刷を推奨します。

◆ 256 MB（標準）

- B4、A4、B5、A5、はがき、長形 3 号封筒、角形 2 号封筒、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）の用紙に印刷できます。
- A3、11×17、不定形、長尺の用紙にほとんどの画像で印刷が可能です。

補足

- 「優先メモリー」が「ユーザーメモリー」の場合、B4 はほとんどの画像で印刷が可能です。長尺の用紙は一部の複雑な画像で印刷ができない場合があります。

◆ 384 MB（標準 ＋ 128 MB）

- A3、B4、A4、B5、A5、はがき、長形 3 号封筒、角形 2 号封筒、11×17、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）、不定形の用紙に印刷できます。
- 長尺の用紙にほとんどの画像で印刷が可能です。

補足

- 「優先メモリー」が「ユーザーメモリー」の場合、A3、11×17、不定形はほとんどの画像で印刷が可能です。

◆ 512 MB（標準 ＋ 256 MB）

- A3、B4、A4、B5、A5、はがき、長形 3 号封筒、角形 2 号封筒、11×17、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）、不定形、長尺の用紙に印刷できます。

両面印刷（600 dpi × 600 dpi）の場合

♦ 256 MB（標準）、384 MB（標準 ＋ 128 MB）、512 MB（標準 ＋ 256 MB）

- A3、B4、A4、B5、A5、11×17、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）の用紙に印刷できます。

両面印刷（1200 dpi × 1200 dpi）の場合

♦ 256 MB（標準）

- A5、B5 の用紙に印刷できます。
- A3、B4、A4、11×17、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）の用紙にほとんどの画像で印刷が可能です。

補足

- 「優先メモリー」が「ユーザーメモリー」の場合、B5 はほとんどの画像で印刷が可能です。

♦ 384 MB（標準 ＋ 128 MB）

- A4、A5、B5、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）の用紙に印刷できます。
- A3、B4、11×17 の用紙にほとんどの画像で印刷が可能です。

補足

- 「優先メモリー」が「ユーザーメモリー」の場合、A4、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）はほとんどの画像で印刷が可能です。

♦ 512 MB（標準 ＋ 256 MB）

- A3、B4、A4、A5、B5、11×17、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）の用紙に印刷できます。

用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき

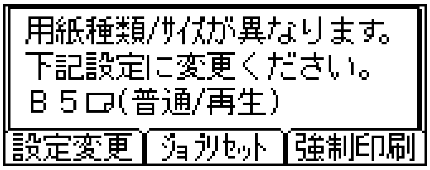
印刷時に指定した用紙サイズ、用紙種類に合致したトレイがないときや手差しトレイから給紙した用紙がジョブの設定と異なる場合は、操作部に警告画面が表示されます。表示された内容に応じて対処してください。

トレイの用紙設定を変更して印刷する

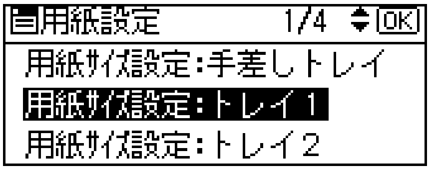
本機の各トレイに設定している用紙サイズ、用紙種類を変更して、印刷を継続する方法について説明します。

1 警告画面で［設定変更］を押します。

［用紙設定］画面が表示されます。



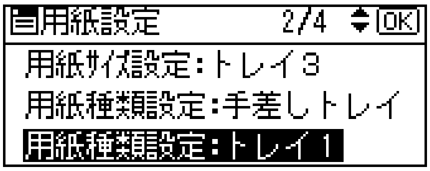
2 [▼][▲] キーを押して用紙サイズを変更したいトレイを選択し、[OK] キーを押します。



3 [▼][▲] キーを押して使用する用紙サイズを選択し、[OK] キーを押します。

［用紙設定］画面が表示されます。

4 [▼][▲] キーを押して用紙種類を変更したいトレイを選択し、[OK] キーを押します。



5 [▼][▲] キーを押して使用する用紙種類を選択し、[OK] キーを押します。

［用紙設定］画面が表示されます。

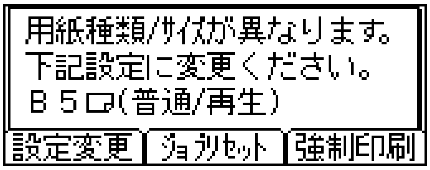
6 ［戻る］キーを押します。

設定した用紙が印刷ジョブに一致した場合、印刷が開始されます。

強制印刷する

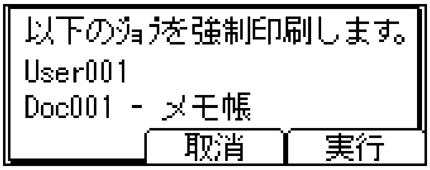
警告画面が表示された場合に、強制印刷する方法について説明します。

1 警告画面で［強制印刷］を押します。



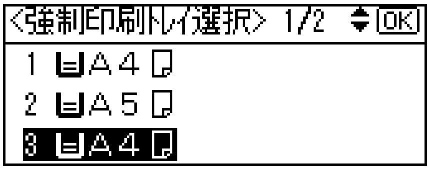
確認画面が表示されます。

2 ［実行］を押します。



強制印刷を取り消す場合は、［取消］を押します。

3 ［▼］［▲］キーを押して使用するトレイを選択し、［OK］キーを押します。



選んだトレイで印刷されます。
用紙を補給して印刷したいときは、正しい用紙をセットしてからトレイを選んでください。

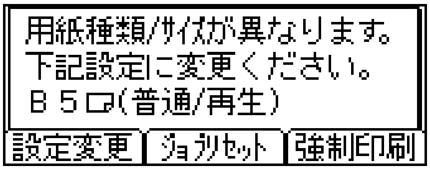
補足

- 用紙サイズが小さいトレイを選択すると、端が切れるなど正しく印刷されないことがあります。
- ソート印刷の 1 部目で強制印刷を実行した場合、1 部のみ指定した給紙トレイから印刷し、ソート印刷は解除されます。
- ソート印刷の 2 部目以降で強制印刷を実行した場合、実行中の部のみ印刷を行います。

印刷を中止する

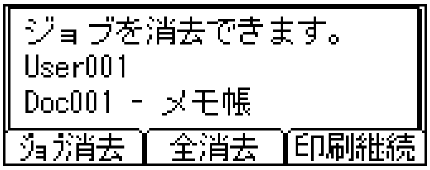
警告画面が表示された場合に、印刷を中止する方法について説明します。

1 警告画面で［ジョブリセット］を押します。



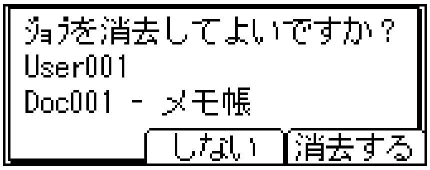
蓄積されている印刷データを消去して印刷を中止します。
確認画面が表示されます。

2 現在のジョブを中止する場合は、［ジョブ消去］を押します。すべてのジョブを中止する場合は、［全消去］を押します。



印刷を継続したい場合は、［印刷継続］を押します。

3 ［消去する］を押します。



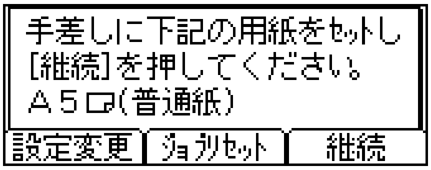
文書が消去されます。
消去を取り消す場合は、［しない］を押します。

補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、［インターフェース設定］の［インターフェース切替時間］を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、［ジョブリセット］を押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

手差しトレイからの印刷を継続する

手差しトレイが［全用紙サイズ・用紙種類許可］または［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定されている場合、ジョブで指定した用紙サイズと異なる用紙が給紙されたときには警告画面が表示されます。



この画面が表示されたときは、セットした用紙のサイズを確認してください。

1 **画面に表示されている用紙を手差しトレイにセットします。**

2 **［継続］を押します。**

エラーが発生したページから印刷が再開されます。

補足

- ［設定変更］から用紙サイズや用紙種類を変更しても、実行中のジョブに対しては適用されません。用紙設定を変更する場合は、ジョブリセットしてから、再度、印刷を実行してください。
- ［全用紙サイズ・用紙種類許可］または［全不定形サイズ・用紙種類許可］については、「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」および「印刷設定メニューの設定項目」を参照してください。

参照

- P.71 「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」
- P.152 「印刷設定メニューの設定項目」

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

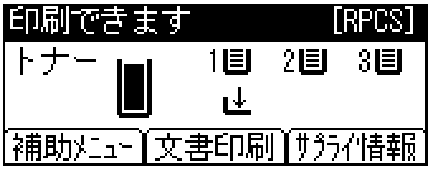
試し印刷、機密印刷、保留文書印刷、保存文書印刷や印刷の中止などの注意事項についての説明です。

文書印刷機能を使用する

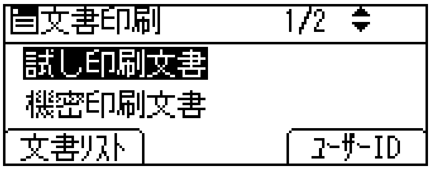
本機に蓄積された文書を印刷する、文書印刷機能の説明です。
文書印刷機能では、あらかじめプリンタードライバーからの印刷指示で本機の拡張 HDD に蓄積された、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書および保存文書の印刷、または削除ができます。
試し印刷文書、機密印刷文書および保留文書は、文書印刷機能で指示された印刷が終了すると蓄積されていた文書は消去されます。保存文書は、印刷が終了しても消去されません。
文書印刷機能を使うためには、拡張 HDD が必要です。

文書印刷画面を表示する

本機に拡張 HDD が装着されている場合、電源を入れたときに以下の初期画面が表示されます。



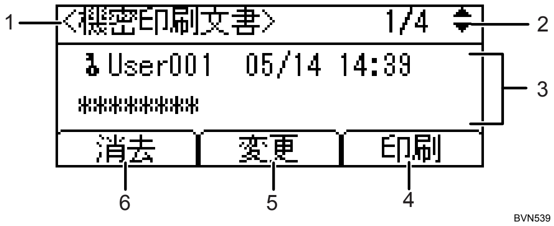
初期画面で［文書印刷］を押すと、文書印刷の種類を選択する画面が表示されます。



文書を選択する画面は、［文書リスト］を押したときに表示される文書一覧画面と、［ユーザー ID］を押したときに表示されるユーザー ID 一覧画面の 2 種類があります。

◆ **文書一覧画面**

プリンター初期画面で［文書印刷］を押して文書印刷の種類を選択し、［文書リスト］を押すと、次の画面が表示されます。



1 文書印刷機能表示

選択した文書印刷の種類を表示します。

2 画面ページ数表示

蓄積されている文書を表示します。［▼］［▲］キーを押すごとに選択した種類の印刷文書を 1 画面ずつ表示します。

3 ユーザー ID ／日時／文書名表示

- ユーザー ID には、プリンタードライバーで設定したユーザー ID が表示されます。
- 日時には、パソコンから印刷を指示した時刻が表示されます。
- 文書名には文書名が表示されますが、機密印刷文書は文書名が「******」と表示されます。

4 ［印刷］

選択している文書を印刷します。

5 ［変更］

保存文書にパスワードを追加したり、パスワードを設定した文書からパスワードを変更または削除できます。パスワードを変更または削除する場合は、［変更］を押して最初に設定したパスワードを入力した後、新しいパスワードを入力するか、削除する場合は新しいパスワードを入力、確認する画面で何も入力せずに［OK］キーを押します。機密印刷文書に対しては、パスワードの変更ができます。

6 ［消去］

選択している文書を消去します。

補足

- パスワードの変更、削除に関しては、最初に設定したパスワードを正しく入力してください。パスワードが一致しない場合、パスワードの変更、削除はできません。
- ［変更］を押してパスワードを追加、削除する機能は保存文書が本機に蓄積されている場合に使用できます。

♦ ユーザー ID 一覧画面

プリンター初期画面で［文書印刷］を押して文書印刷の種類を選択し、［ユーザー ID］を押すと、次の画面が表示されます。



1 文書印刷機能表示

選択した文書印刷の種類を表示します。

2 画面ページ数表示

現在のページ番号を表示します。［▼］［▲］キーを押すごとに画面を切り替えます。

3 ユーザー ID

- 選択した種類の文書を蓄積しているユーザーの ID が表示されます。
- プリンタードライバーで設定したユーザー ID が表示されます。

4 ［全印刷］

選択した ID のユーザーが蓄積した文書をすべて印刷します。

5 ［文書リスト］

文書一覧画面の表示に切り替えます。ここでは、ユーザー ID 画面で選択したユーザーのジョブのみが表示されます。

補足

- 文書の選択を取りやめる場合は、［戻る］キーを押します。
- 文書一覧やユーザー ID 一覧を表示しているときに新たに文書が蓄積された場合、表示は更新されません。表示を更新するには、いったん［戻る］キーをプリンター画面に戻るまで押してから、もう一度［文書印刷］を押してください。
- 本機に多くの文書を蓄積・保存している場合は、お使いの機能によっては機器の反応が一時的に遅くなることがあります。

文書一覧画面から文書を印刷する

試し印刷、機密印刷、保留印刷、保存印刷について説明します。

試し印刷する

複数部数印刷する場合など、最初に 1 部だけ印刷し、その結果を確認した後に操作部を使用して残り部数を印刷できます。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。内容や印刷の指定を間違えたときなどに大量のミスプリントを防ぐことができます。

3

重要

- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
  - 拡張 HDD が装着されていない場合
  - 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
  - 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - エラー履歴の確認方法については、「エラー履歴を確認する」を参照してください。

■1 部目を印刷する

1 試し印刷する文書に印刷指示をします。

2 プリンタードライバーの［印刷設定］の［基本］タブで、［印刷方法］から［試し印刷］を選択します。

ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブをクリックします。

3 ［印刷方法の詳細］をクリックします。

「印刷方法の詳細」画面が表示されます。

4 ［ユーザー ID］を半角英数字 8 文字以内で入力します。

5 ［OK］をクリックします。

6 印刷の指示をします。

1 部目が印刷され、本機に文書が蓄積されます。

7 印刷結果を確認し、操作部から 2 部目以降を印刷するか消去するかを指示します。

補足

- 拡張 HDD が装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 編』、PCL6 プリンタードライバーを使用した場合は、『PCL 編』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された試し印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定] や [保存文書自動消去設定] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。

参照

- P.138 「調整 / 管理メニュー」
- P.175 「エラー履歴を確認する」

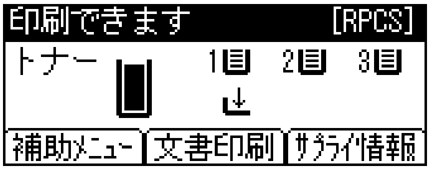
2 部目以降を印刷する

試し印刷で、2 部目以降を印刷する方法について説明します。

重要

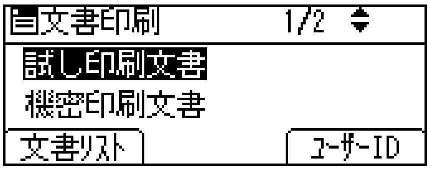
- 印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。



2 [▼][▲]キーを押して[試し印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。

[ユーザー ID] を押すことによっても印刷できます。詳しくは「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



本機に蓄積されている試し印刷文書の一覧が表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



印刷の確認画面が表示されます。印刷部数を変更する場合は、スクロールキーで部数を入力します。最大 999 部が印刷できます。

4 ［印刷］を押します。

2 部目以降が印刷されます。

補足

- 2 部目以降の印刷中に［ジョブリセット］を押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 他のジョブがある場合は、そのジョブの終了後に印刷されます。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

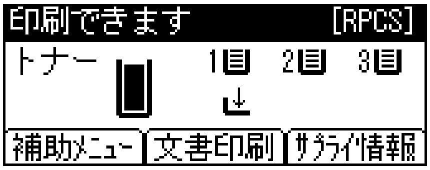
参照

- P.100 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」
- P.121 「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」

試し印刷文書を消去する

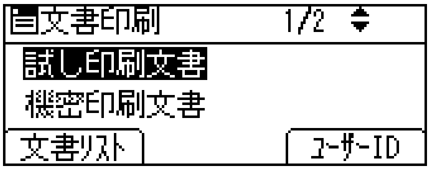
試し印刷の内容を確認し、2 部目以降を印刷しない場合は、本機に蓄積されている文書を消去します。

1 ［文書印刷］を押します。



2 ［▼］［▲］キーを押して［試し印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。



3 ［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。



消去の確認画面が表示されます。

4 ［消去］を押します。

文書が消去されます。

補足

- 消去を取り消す場合は、［取消］を押します。

機密印刷する

ネットワークでプリンターを共有している場合など、他人に見られたくない文書を印刷するときなどに有効な機能です。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。機密印刷を使うと本機の操作部からパスワードを入力しないと印刷できなくなりますので、他人に見られる心配がありません。

重要

- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
  - 拡張 HDD が装着されていない場合
  - 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
  - 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - エラー履歴の確認方法については、「エラー履歴を確認する」を参照してください。

■プリンターに文書データを送る

1 機密印刷する文書に印刷指示をします。

2 プリンタードライバーの［印刷設定］の［基本］タブで、［印刷方法］から［機密印刷］を選択します。

ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブをクリックします。

3 ［印刷方法の詳細］をクリックします。

「印刷方法の詳細」画面が表示されます。

4 ［ユーザー ID］を半角英数字 8 文字以内で入力します。

5 ［パスワード］を半角数字 4 文字以上 8 文字以内で入力します。

6 ［OK］をクリックします。

パスワードの確認画面が表示されます。

7 パスワードを再度入力して、［OK］をクリックします。

8 印刷の指示をします。

本機に文書が蓄積されます。

9 操作部でパスワードを入力し、印刷するか消去するかを指示します。

3

補足

- 拡張 HDD が装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 編』、PCL6 プリンタードライバーを使用した場合は、『PCL 編』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された機密印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定] や [保存文書自動消去設定] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。

参照

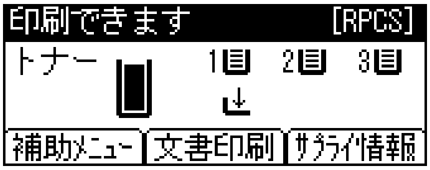
- P.138 「調整 / 管理メニュー」
- P.175 「エラー履歴を確認する」

操作部を使って機密印刷する

重要

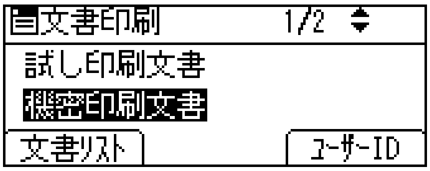
- 印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。



2 [▼] [▲] キーを押して [機密印刷文書] を選択し、[文書リスト] を押します。

[ユーザー ID] を押すことによっても印刷できます。詳しくは「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



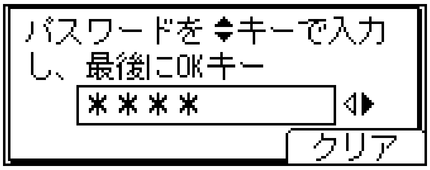
本機に蓄積されている機密印刷文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



パスワード入力画面が表示されます。

4 スクロールキーでパスワードを入力し、[OK] キーを押します。



印刷の確認画面が表示されます。入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されますので［確認］を押して、再度入力します。
パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

5 ［印刷］を押します。

機密印刷文書が印刷されます。

補足

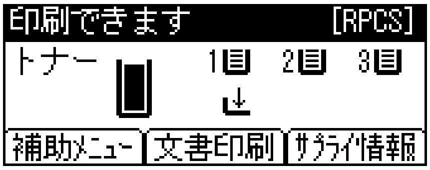
- 印刷開始後に［ジョブリセット］を押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

参照

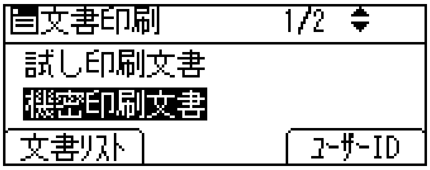
- P.100 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」
- P.121 「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」

機密印刷文書を消去する

1 [文書印刷] を押します。



2 [▼][▲]キーを押して[機密印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。



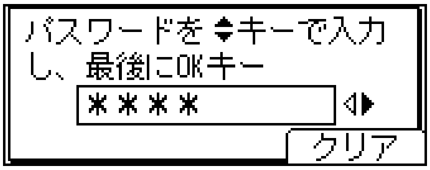
本機に蓄積されている機密印刷文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3 [▼] [▲] キーを押して消去したい文書を選択し、[消去] を押します。



パスワード入力画面が表示されます。

4 スクロールキーでパスワードを入力し、[OK] キーを押します。



消去の確認画面が表示されます。

入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されます。[確認] を押して、再度入力します。パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

5 [消去] を押します。

文書が消去されます。

補足

- 消去を取り消す場合は、[取消] を押します。

保留文書を印刷する

本機に文書を一時的に蓄積し、必要に応じて印刷を行います。複数の文書をまとめて印刷するときなどに有効です。

重要

- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
  - 拡張 HDD が装着されていない場合
  - 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
  - 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - エラー履歴の確認方法については、「エラー履歴を確認する」を参照してください。

■プリンターに文書データを送る

1 保留印刷文書で印刷する文書に印刷指示をします。

2 プリンタードライバーの［印刷設定］の［基本］タブで、［印刷方法］から［保留印刷］を選択します。

ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブをクリックします。

3 ［印刷方法の詳細］をクリックします。

「印刷方法の詳細」画面が表示されます。

4 ［ユーザー ID］を半角英数字 8 文字以内で入力します。

5 印刷の指示をします。

文書が本機に蓄積されます。

補足

- 拡張 HDD が装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 編』、PCL6 プリンタードライバーを使用した場合は、『PCL 編』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された保留印刷文書は消去されずに残りますが、［一時置き文書自動消去設定］や［保存文書自動消去設定］が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。
- 保留文書には文書名を設定できます。ただし、必須ではありません。

参照

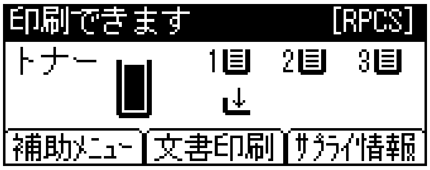
- P.138 「調整 / 管理メニュー」
- P.175 「エラー履歴を確認する」

操作部を使って保留文書を印刷する

重要

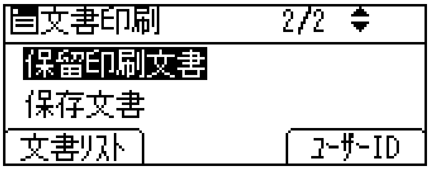
- 印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

1 ［文書印刷］を押します。



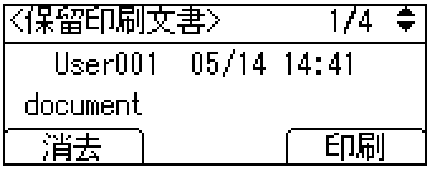
2 [▼][▲]キーを押して[保留印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。

［ユーザー ID］を押すことによっても印刷できます。詳しくは「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



本機に蓄積されている保留印刷文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3 [▼]［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。



印刷の確認画面が表示されます。

4 ［印刷］を押します。

保留文書が印刷されます。

補足

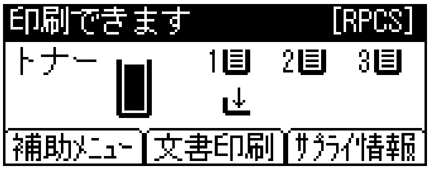
- 保留印刷文書として蓄積された文書を印刷するときに、部数の変更はできません。
- 印刷開始後に［ジョブリセット］を押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

参照

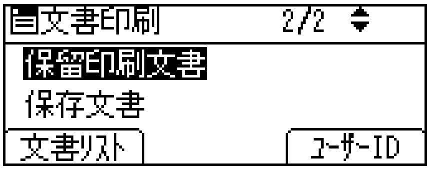
- P.100 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」
- P.121 「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」

保留印刷文書を消去する

1 ［文書印刷］を押します。

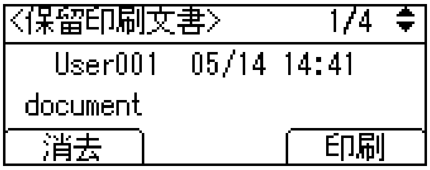


2 [▼][▲]キーを押して[保留印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。



本機に蓄積されている保留印刷文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3 ［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。



消去の確認画面が表示されます。

4 ［消去］を押します。

文書が消去されます。

補足

- 消去を取り消す場合は、［取消］を押します。

保存文書を印刷する

本機に文書を蓄積し、必要に応じて印刷を行います。印刷終了後にも文書が消去されないので、繰り返し印刷するときなどに有効です。

重要

- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
  - 拡張 HDD が装着されていない場合
  - 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
  - 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
  - エラー履歴の確認方法については、「エラー履歴を確認する」を参照してください。

■プリンターに文書データを送る

1 保存文書にする文書に印刷指示をします。

2 プリンタードライバーのプロパティの［基本］タブで、［印刷方法］から［プリンターに保存する］または［プリンターに保存して印刷］を選択します。

- ［プリンターに保存する］を選択した場合は、本機に蓄積のみを行い、後から本機の操作部で印刷します。
- ［プリンターに保存して印刷］を選択した場合は、1 部目をすぐに印刷し、本機にも文書を蓄積します。
- ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブをクリックします。

3 ［印刷方法の詳細］をクリックします。

「印刷方法の詳細」画面が表示されます。

4 ［ユーザー ID］を半角英数字 8 文字以内で入力します。

5 ［OK］をクリックします。

6 印刷の指示をします。

本機に文書が蓄積されます。

補足

- 拡張 HDD が装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。

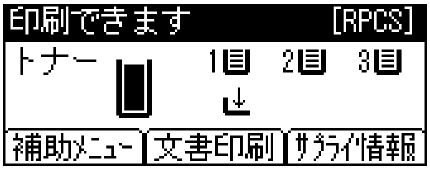
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合の説明については、『PostScript 3 編』、PCL6 プリンタードライバーを使用した場合は、『PCL 編』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された保存印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定]や[保存文書自動消去設定]が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。
- 保存文書には文書名とパスワードを設定できます。ただし、どちらも必須ではありません。

参照

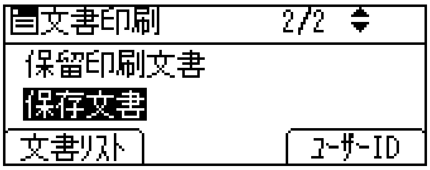
- P.138 「調整 / 管理メニュー」
- P.175 「エラー履歴を確認する」

操作部を使って保存文書を印刷する

1 [文書印刷]を押します。

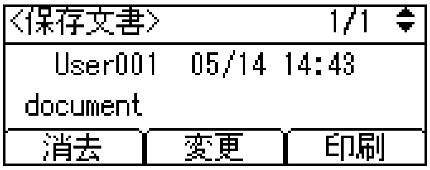


2 [▼][▲]キーを押して[保存文書]を選択し、[文書リスト]を押します。



蓄積されている保存文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。
蓄積されている文書の印刷指示を出した時間やユーザーID、文書名が表示されます。

3 [▼][▲]キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷]を押します。



印刷の確認画面が表示されます。印刷部数を変更する場合は、スクロールキーで部数を入力します。
文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力してください。
パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

4 [印刷]を押します。

保存文書が印刷されます。
印刷が終了しても、保存文書は消去されません。

補足

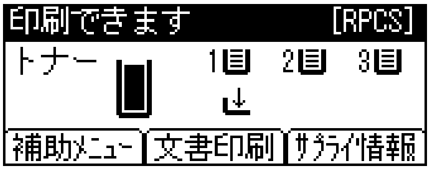
- 印刷開始後に［ジョブリセット］を押すと、印刷を中止することができます。［ジョブリセット］を押しても、保存文書は消去されません。
- 文書にパスワードを追加するには、文書一覧画面で［変更］を押して、パスワードを設定します。
- 文書に設定したパスワードを削除するには、文書一覧画面で［変更］を押して、設定したパスワードを入力して［OK］キーを押し、新しいパスワードを入力、確認する画面で何も入力せずに［OK］キーを押します。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

参照

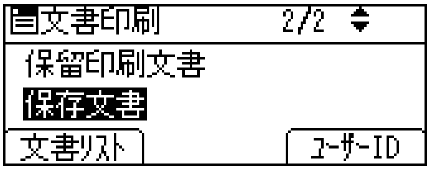
- P.100 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」

保存文書を消去する

1 ［文書印刷］を押します。

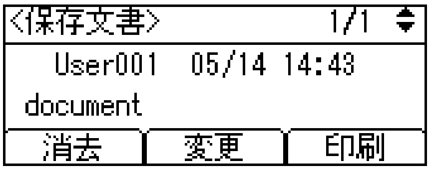


2 ［▼］［▲］キーを押して［保存文書］を選択し、［文書リスト］を押します。



蓄積されている保存文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3 ［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。



消去の確認画面が表示されます。
文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力してください。
パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

4 ［消去］を押します。

文書が消去されます。

補足

- 消去を取り消す場合は、［取消］を押します。

ユーザー ID 一覧から文書を印刷する

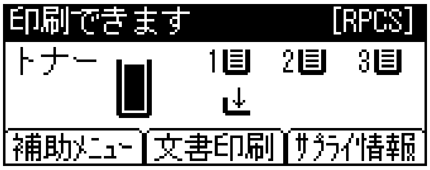
ユーザー ID 一覧から文書を選択し、印刷する方法の説明です。

文書を選択して印刷する場合

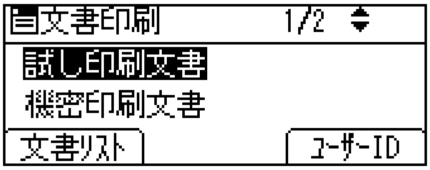
重要

- 印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。

1 ［文書印刷］を押します。

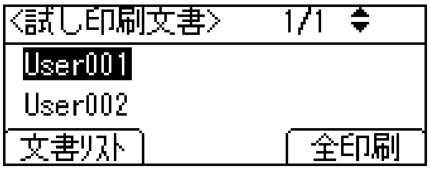


2 ［▼］［▲］キーを押して選択したい文書印刷の種類を選択し、［ユーザー ID］を押します。



選択した種類の印刷文書を蓄積しているユーザー ID 一覧が表示されます。

3 ［▼］［▲］キーを押して選択したいユーザー ID を選択し、［文書リスト］を押します。



選択したユーザー ID が蓄積した文書のみが 1 文書ずつ表示されます。

4 ［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。



印刷の確認画面が表示されます。印刷を取りやめる場合は、［取消］を押します。

5 ［印刷］を押します。

選択した文書が印刷されます。

補足

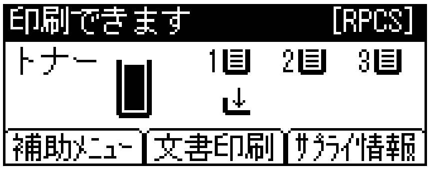
- 手順 4 で［印刷］の代わりに［消去］を押すと、表示されている文書を消去できます。

文書をすべて印刷する場合

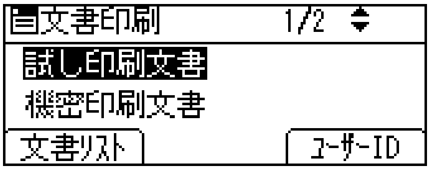
重要

・印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。



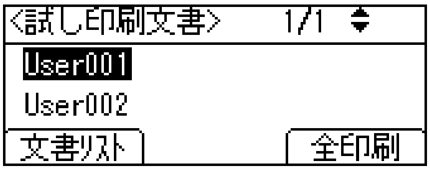
2 [▼] [▲] キーを押して選択したい文書印刷の種類を選択し、[ユーザーID] を押します。



選択した種類の印刷文書を蓄積しているユーザー ID 一覧が表示されます。

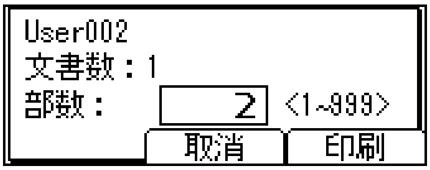
3 [▼] [▲] キーを押して選択したいユーザー ID を選択し、[全印刷] を押します。

選択した種類の文書印刷を蓄積しているユーザー ID の文書をすべて印刷します。選択した種類以外の印刷文書は、同じユーザー ID で本機に蓄積していても、印刷されません。



[機密印刷文書]、[保留印刷文書] を選択した場合は、印刷の確認画面が表示されます。[試し印刷文書]、[保存文書] を選択した場合は、部数を設定する画面が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して印刷部数を設定します。



5 [印刷] を押します。

印刷が実行されます。印刷を中止する場合は [取消] を押します。

補足

- 蓄積されていない種類の文書を選択することはできません。
- 保存文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。選択した種類のすべての文書が、指定した部数で印刷されます。部数を指定しなかった場合は、プリンタードライバーで設定してある部数中もっとも少ない部数で、すべての文書が印刷されます。
- 複数の文書がある試し印刷文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。選択した種類のすべての文書が、指定した部数で印刷されます。確認画面で部数を指定しなかった場合は、プリンタードライバーで設定した中でもっとも少ない部数より 1 部少ない部数で、選択したすべての文書が印刷されます。設定した部数の中でもっとも少ない部数が 1 の場合は、すべての文書が 1 部ずつ印刷されます。
- 機密印刷文書を選択した場合は、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書だけが印刷の対象になります。
- 保存文書を選択した場合、蓄積されている保存文書にパスワードが設定されているときは、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書と、パスワードが設定されていない文書だけが印刷の対象になります。

印刷を中止する

印刷を中止する場合は、本機とパソコン両方から行います。中止する方法は印刷データの状態によって異なりますので、状況を確認し、以下の手順で操作してください。

1 **印刷を中止したいデータが、現在本機から印刷されているか確認します。**

データが印刷されていなくてもデータインランプが点滅 / 点灯していれば、本機はデータを受信しています。

2 **印刷を中止します。**

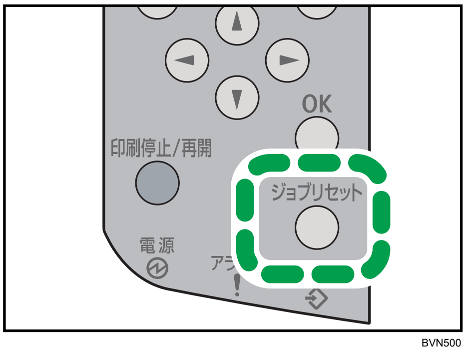
データの印刷状況によって、次のいずれかの操作を行ってください。

3

中止したいデータが印刷されている場合

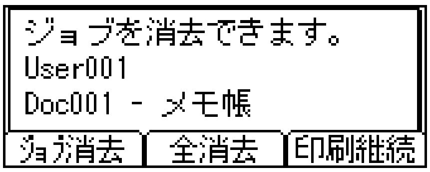
印刷を中止したいデータが印刷されている場合の、操作方法です。

1 **［ジョブリセット］キーを押します。**



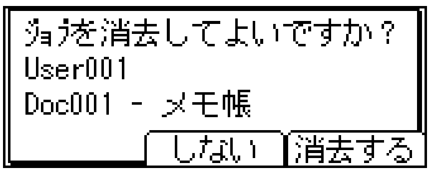
確認画面が表示されます。

2 **［ジョブ消去］を押します。**



印刷を継続したい場合は、［印刷継続］を押します。

3 **［消去する］を押します。**



文書が消去されます。

消去を取り消すときは、［しない］を押します。

補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、［インターフェース設定］の［インターフェース切替時間］を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、［ジョブリセット］キーを押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

中止したいデータが印刷されていない場合

印刷を中止したいデータが、まだ印刷されていない場合の操作方法です。

1 Windows のタスクトレイのプリンターアイコンをダブルクリックします。

印刷中のプリンターのウィンドウが開くので、印刷を中止する文書の状態を確認します。

2 印刷を中止する文書のドキュメント名をクリックして反転表示させます。

3 ［ドキュメント］メニューの［キャンセル］をクリックします。

印刷が中止されます。

補足

- ［プリンタ］メニューの［すべてのドキュメントの取り消し］をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、［すべてのドキュメントの取り消し］を使って印刷を中止するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。
- 印刷の中止を選択したドキュメントの印刷が開始している場合は、プリンターのウィンドウからドキュメント名が消えるまで、多少時間がかかります。

印刷終了後にプリンターのエミュレーションを切り替える

複数のパソコンでプリンターを共有している場合で、その中に DOS または UNIX で印刷しているパソコンがあるときに使用する機能です。
通常、DOS または UNIX から印刷するには、使用するアプリケーションに応じてプリンターのエミュレーションを設定しておく必要があります。印刷後のエミュレーションとして DOS または UNIX から印刷するときのエミュレーション（または、プログラム）を選択しておくと、次の印刷が DOS または UNIX からの場合でもエミュレーションを切り替えずに印刷することができます。

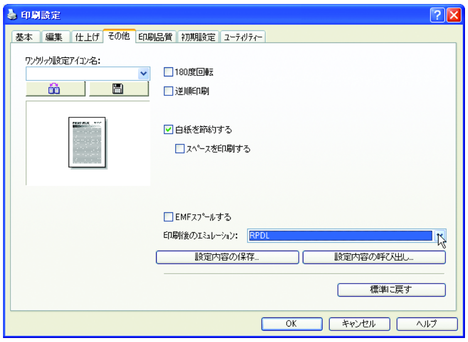
3

1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの設定画面を表示します。

2 ［その他］タブをクリックします。

ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブで［アイコンの変更／新規作成］をクリックし、［その他］タブをクリックします。

3 ［印刷後のエミュレーション：］ボックスからエミュレーションを選択します。



Windows だけでお使いの場合は、［なし］または［直前のエミュレーション］を選択してください。［直前のエミュレーション］を選択すると、印刷前に設定されていたエミュレーションに戻ります。

4 ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［名前をつけて保存］または［上書き保存］をクリックし、設定を保存します。



5 ［OK］をクリックします。

6 アプリケーションから印刷の指示を出します。

4. プリンター本体の設定

本機の操作部に表示されるメニューや、設定項目についての説明です。

[メニュー] キー機能一覧

操作部では、本機を使用するために必要な各種の基本的な設定や調整を行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目一覧を説明します。

♦ メモリー内残存データ状態確認

拡張 HDD が装着されている場合は、メモリー内のデータ状態を確認します。

補足

- メモリー内残存データ状態確認はセキュリティーカード装着時に表示されます。

参照

- P.132 「メモリー内残存データ状態確認メニュー」

♦ 用紙設定

設定項目
用紙サイズ設定：手差しトレイ
用紙サイズ設定：トレイ 1
用紙サイズ設定：トレイ 2
用紙サイズ設定：トレイ 3
用紙サイズ設定：トレイ 4
用紙種類設定：手差しトレイ
用紙種類設定：トレイ 1
用紙種類設定：トレイ 2
用紙種類設定：トレイ 3
用紙種類設定：トレイ 4
両面印刷トレイ
自動トレイ選択
優先給紙トレイ

補足

- 本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

参照

- P.133 「用紙設定メニュー」

♦ 調整 / 管理

設定項目
品質調整
一般管理
時刻タイマー設定
ハードディスク管理
機器設定値エクスポート

補足

- ハードディスク管理は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。

参照

- P.138 「調整 / 管理メニュー」

♦ テスト印刷

設定項目
一括リスト印刷
システム設定リスト
エラー履歴
ネットワークサマリー
サプライ情報リスト
印刷条件リスト
メニューリスト
登録フォームリスト
全文字印刷
フォントリスト
PCL 情報リスト
PS 情報リスト
PDF 情報リスト
ヘキサダンプ

補足

- 上記メニューは、使用するエミュレーションによって表示されないものがあります。

参照

- P.143 「テスト印刷メニュー」

♦ システム設定

設定項目
エラーレポート印刷
エラースキップ
画像エラー処理
エラー表示設定
補助用紙サイズ
省エネモード
エミュレーション検知
圧縮データの解凍印刷
優先エミュレーション / プログラム
優先メモリー
スプール印刷
RAM ディスク
自動メール通知

補足

- 使用するエミュレーションによって表示されないものがあります。
- スプール印刷は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。
- RAM ディスクは、拡張 HDD を装着していると表示されません。

参照

- P.148 「システム設定メニュー」

♦ 印刷設定

設定項目
一般設定
システム設定（EM）
PCL 設定
PS 設定
PDF 設定

補足

- 使用するエミュレーションによって項目が表示されないものがあります。
- RPDL、R16、R55、R98、RPGL/GL2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

参照

- P.152 「印刷設定メニュー」

4

♦ セキュリティー管理

設定項目
拡張認証管理
セキュリティー強化
サービスモード移行禁止設定
ファームウェアバージョン表示
ネットワークセキュリティーレベル
メモリー自動消去設定
メモリー全消去
ログ転送設定
機器データ暗号化設定

補足

- メモリー自動消去設定とメモリー全消去は、セキュリティーカードを装着しているときに表示されます。
- 機器データ暗号化設定は、蓄積文書暗号化カードを装着しているときに表示されます。

参照

- P.161 「セキュリティー管理メニュー」

♦ インターフェース設定

設定項目
受信バッファ
インターフェース切り替え時間
ネットワーク設定
パラレルインターフェース設定
無線 LAN
USB 設定

補足

- 無線 LAN は、拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。
- パラレルインターフェース設定は、拡張 1284 ボードを装着しているときに表示されます。

参照

- P.166 「インターフェース設定メニュー」

◆ シャットダウン

電源スイッチを「Off」にするための準備をします。HDD やメモリーが破損し、誤作動を起こすのを避けるため、操作部からシャットダウンを行った後に電源スイッチを「Off」にしてください。

補足

・シャットダウンの方法は、『ハードウェアガイド』「電源を切る」を参照してください。

◆ 表示言語切替

設定項目
日本語
English

補足

・RPDL、R55、R98、R16、RP-GL/2、RTIFF は英語表示には対応しておりません。

メモリー内残存データ状態確認メニュー

拡張 HDD が装着されている場合は、メモリー内のデータ状態を確認します。

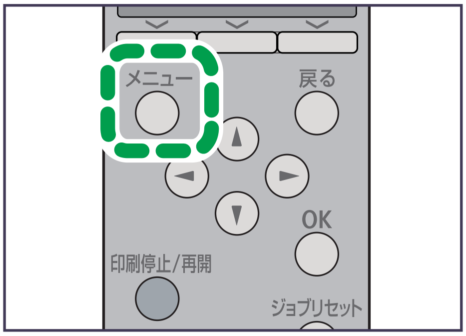
補足

・メモリー内残存データ状態確認はセキュリティーカード装着時に表示されます。

メモリー内のデータ状態を確認する

4

1 操作部の［メニュー］キーを押します。



BVN011

2 [▼] [▲] キーを押して「メモリー内残存データ状態確認」を選択し、[OK] キーを押します。

3 メモリー内にデータが残っている場合は「消去対象残存データあり」、データが残っていない場合は「消去対象残存データなし」と表示されます。

4 ［メニュー］キーを押します。

メニュー画面に戻ります。

用紙設定メニュー

各トレイにセットする用紙のサイズや種類の設定など、用紙設定メニューで設定できる項目の説明です。

用紙設定メニューの設定項目

用紙設定メニューの設定項目の説明です。

◆ **用紙サイズ設定：手差しトレイ**

手差しトレイにセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ **用紙サイズ設定：トレイ 1**

トレイ 1 にセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ **用紙サイズ設定：トレイ 2**

トレイ 2 にセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ **用紙サイズ設定：トレイ 3**

トレイ 3 にセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ **用紙サイズ設定：トレイ 4**

トレイ 4 にセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ **用紙種類設定：手差しトレイ**

手差しトレイにセットする用紙の種類を設定します。
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ **用紙種類設定：トレイ 1**

トレイ 1 にセットする用紙の種類を設定します。
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ **用紙種類設定：トレイ 2**

トレイ 2 にセットする用紙の種類を設定します。
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ 用紙種類設定：トレイ 3
トレイ 3 にセットする用紙の種類を設定します。
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ 用紙種類設定：トレイ 4
トレイ 4 にセットする用紙の種類を設定します。
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ 両面印刷トレイ
「対象にする」を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが**対象にする**になっています。

◆ 自動トレイ選択
「対象にする」を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが**対象にする**になっています。

◆ 優先給紙トレイ
「優先給紙トレイ」とは、本機の電源を入れたときに選択される給紙トレイで、自動トレイ選択やリミットレス給紙のときに一番最初に対象となるトレイです。工場出荷時の設定は**トレイ 1** です。

補足

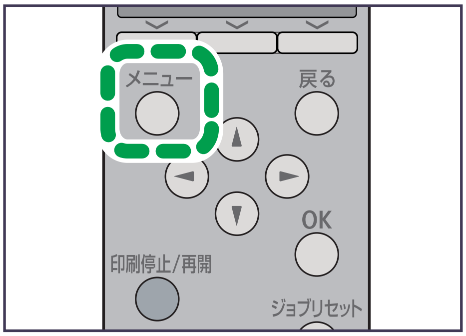
- RPCS プリンタードライバーを使用している場合、A4▯をトレイ 1、A4▭をトレイ 2 にセットし、優先給紙トレイ設定でトレイ 1 を選択しても、用紙はトレイ 1 ではなく▭向きの用紙がセットされたトレイ 2 から優先的に給紙されます。
- 「用紙サイズ設定」と「用紙種類設定」は、本機に装着されているトレイのみ画面に表示されます。

用紙設定メニューの設定を変更する

特定のトレイを自動トレイ選択の対象から外す

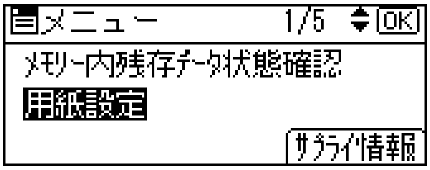
自動トレイ選択の対象としないトレイを設定します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

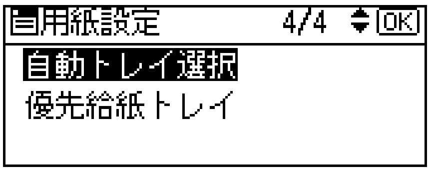


BVN011

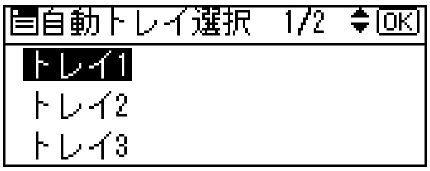
2 ［▼］［▲］キーを押して、「用紙設定」を選択し、［OK］キーを押します。



3 ［▼］［▲］キーを押して、「自動トレイ選択」を選択し、［OK］キーを押します。



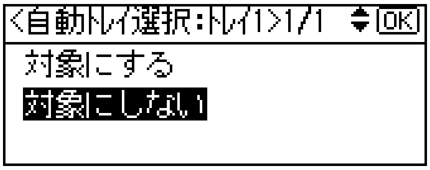
4 ［▼］［▲］キーを押して、自動トレイ選択の対象としないトレイを選択し、［OK］キーを押します。



対象にするかどうかの選択画面が表示されます。

4

5 [▼] [▲] キーを押して、「対象にしない」を選択し、[OK] キーを押します。



設定が確定し、自動トレイ選択メニューに戻ります。

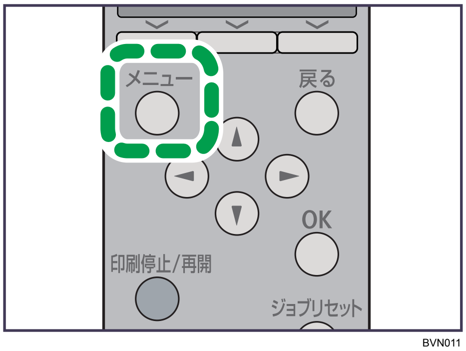
6 [メニュー] キーを押します。

通常の画面が表示されます。

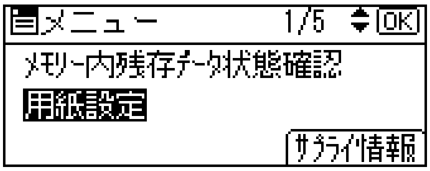
優先給紙トレイを設定する

優先給紙トレイを設定します。

1 操作部の [メニュー] キーを押します



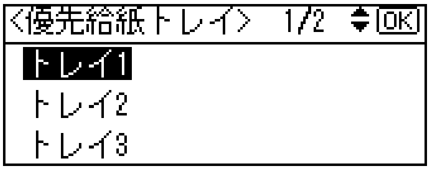
2 [▼] [▲] キーを押して、「用紙設定」を選択し、[OK] キーを押します。



3 [▼] [▲] キーを押して「優先給紙トレイ」を選択し、[OK] キーを押します。



4 【▼】【▲】キーを押して目的のトレイを選択し、【OK】キーを押します。



設定が完了し、1 秒後に用紙設定メニューに戻ります。

5 【メニュー】キーを押します。

通常の画面が表示されます。

調整 / 管理メニュー

調整 / 管理メニューでは、階調や濃度など印刷時の設定調整や、HDD のフォーマットなど本機の管理についての設定ができます。

調整 / 管理メニューの項目

調整管理メニューの設定項目です。

♦ 品質調整

♦ 濃度調整

印刷面にかすれや汚れが出たときなどに印刷濃度を調整します。
ー6 から+3 の範囲で設定します。
工場出荷時の設定は 0 です。

補足

・できるだけ工場出荷時の設定でお使いください。
・濃度調整の手順については『ハードウェアガイド』「印刷濃度を調整する」を参照してください。

♦ 印刷位置調整

トレイごとの印刷位置をあわせるために印刷位置を調整することができます。通常は特に設定する必要はありませんが、オプションの増設給紙トレイや、両面印刷ユニットを取り付けたときに調整します。
印刷位置の調整方法は、『ハードウェアガイド』「印刷位置を調整する」を参照してください。

♦ カール低減

印刷後の用紙の反りを減らしたいときに設定します。
・する
・**しない（工場出荷時の設定）**

♦ 一般管理

各用紙についての詳細は、『ハードウェアガイド』「用紙に関する注意」を参照してください。

♦ サプライ残量表示

待機画面に、トナー残量を表示させるかさせないかを選択します。
・**待機画面に表示する（工場出荷時の設定）**
・表示しない

♦ 封筒レバーメッセージ

待機画面に、封筒レバーの状態を表示させるかさせないかを選択します。
・**表示する（工場出荷時の設定）**
・表示しない

◆ **メニュープロテクト**

メニュープロテクトをするかしないかを設定できます。する場合はそのレベルを選択します。

・レベル 1
・**レベル 2（工場出荷時の設定）**
・しない

補足

・プロテクトの強さを弱めたい場合は、［レベル 1］を選択します。

◆ **テスト印刷禁止**

テスト印刷を禁止するかしないかを設定できます。

・する
・**しない（工場出荷時の設定）**

◆ **ブザー音**

パネルのキーを押したときやプリンターに異状が発生した場合に、音を出すか出さないかを選択します。

・**ON（工場出荷時の設定）**
・OFF

◆ **ウォームアップ通知音**

ウォームアップを音で知らせるかどうかを選択します。

・ON
・**OFF（工場出荷時の設定）**

補足

・［ブザー音］の設定が［ON］の場合にのみ有効です。

◆ **画面コントラスト調整**

画面のコントラストを選択します。

◆ **キーリピート設定**

［▼］［▲］［▶］［◀］キーの長押しで、画面のスクロール、数値を入力するときの数値の増減、文字を選択するときの左右の移動をさせるかさせないかの設定をします。また、させる場合はその長押しの時間を設定できます。

・リピートしない
・**通常（工場出荷時の設定）**
・リピート時間：中
・リピート時間：長

4

♦ 時刻タイマー設定

♦ オートリセット時間設定

一定時間操作を行わなかったとき、設定内容を電源投入直後の状態に戻すかどうかを設定します。また、戻すまでの時間を設定します。

- **する（工場出荷時の設定）**
  オートリセットを設定した場合は、オートリセットするまでの時間を 10〜999 秒（1 秒単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **60 秒**に設定されています。
- しない

♦ 年月日設定

年月日を設定します。

♦ 時刻設定

時刻を設定します。

4

♦ ハードディスク管理

拡張 HDD が装着されているときのメニュー項目です。

♦ 一時置き文書全消去

拡張 HDD に蓄積されている一時置き文書（試し印刷文書、機密印刷文書、保留文書）をすべて消去します。

♦ 保存文書全消去

拡張 HDD に蓄積されている保存文書をすべて消去します。

♦ 一時置き文書自動消去設定

拡張 HDD に蓄積されている一時置き文書（試し印刷文書、機密印刷文書、保留文書）を、自動的に消去するかしないかを設定できます。する場合はその間隔を設定します。

- する
  自動消去する場合は、自動消去する時間を 1〜200 時間（1 時間単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **8 時間**に設定されています。
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ 保存文書自動消去設定

拡張 HDD に蓄積されている保存文書を自動的に消去するかしないかを設定できます。する場合はその間隔を設定します。

- **する（工場出荷時の設定）**
  自動消去する場合は、自動消去する時間を 1〜180 日（1 日単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **3 日間**に設定されています。
- しない

♦ 機器設定値エクスポート

SD カードに本機の設定内容を保存します。保存した内容は、本機や他の弊社製プリンター機に設定を引き継ぐことができます。

保存の対象となるのは、[補助メニュー]、[用紙設定]、[調整 / 管理]、[システム設定]、[印刷設定]、[インターフェース設定］内の各項目です。機種間で共通する設定項目のみ引き継ぐことができます。設定の引き継ぎをするときは、電源が Off の状態で SD カードをスロットに挿入し、[ジョブリセット］キーを押しながら電源を On にしてください。

SD カードの挿入方法やスロットの位置などについては、お使いの機種のハードウェア機能を説明している使用説明書を参照してください。

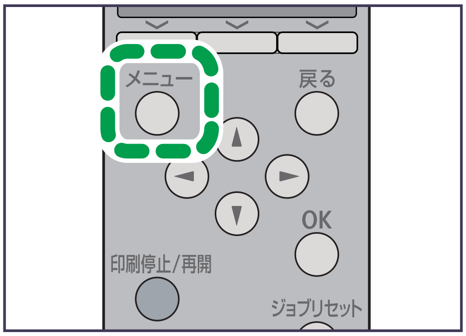
調整 / 管理メニューの設定を変更する

調整 / 管理メニューの変更方法を、例をあげて説明します。

保存文書をすべて消去する

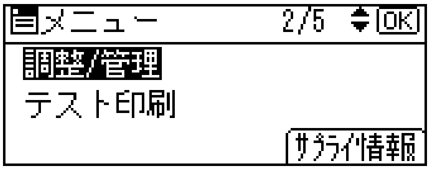
拡張 HDD に蓄積された保存文書を消去する方法の説明です。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

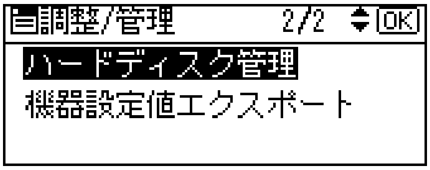


BVN011

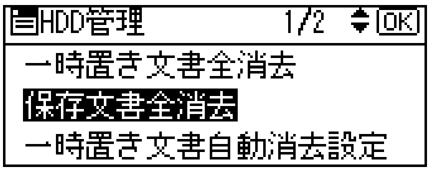
2 ［▼］［▲］キーを押して「調整 / 管理」を選択し、［OK］キーを押します。



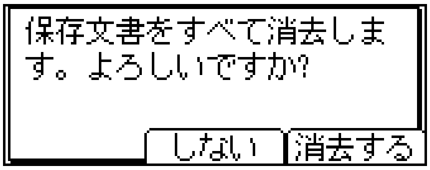
3 ［▼］［▲］キーを押して「ハードディスク管理」を選択し、［OK］キーを押します。



4 ［▼］［▲］キーを押して「保存文書全消去」を選択し、［OK］キーを押します。



5 確認のメッセージが表示されていることを確認し、[消去する] キーを押します。



6 消去終了のメッセージが表示されていることを確認し、[確認]を押します。

ハードディスク管理メニューに戻ります。

テスト印刷メニュー

テスト印刷メニューでは、本機の使用環境や印刷に関する条件の設定状況の一覧表を印刷することができます。
また、印字可能なすべての文字やフォントの種類も印刷して確認できます。

テスト印刷メニューの項目

テスト印刷メニューの設定項目です。

♦ **一括リスト印刷**
システム設定リストとエラー履歴、ネットワークサマリー、サプライ情報リストが印刷されます。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

♦ **システム設定リスト**
本機のシステム構成やシステム設定の設定内容などが印刷されます。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。
詳細は、「システム設定リストの見かた」を参照してください。

♦ **エラー履歴**
エラーになったジョブの履歴が印刷されます。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

♦ **ネットワークサマリー**
ネットワークの設定内容が印刷されます。

♦ **サプライ情報リスト**
サプライ情報が印刷されます。

♦ **印刷条件リスト**
印刷条件の設定内容が印刷されます。
エミュレーションの RPDL、R55、R98、R16、RTIFF、RP-GL/2 が対象となります。

♦ **メニューリスト**
設定できる各項目と設定内容をツリー状に印刷します。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

♦ **登録フォームリスト**
拡張 HDD が装着されているときのメニュー項目です。
登録されているフォームの一覧が印刷されます。
エミュレーションの RPDL、R55 が対象となります。

♦ **全文字印刷**
現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できる全ての文字が印刷されます。
エミュレーションの RPDL、R55、R98、R16 が対象となります。

◆ **フォントリスト**

現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できるフォントの一覧が印刷されます。
エミュレーションの RPDL、R55、R98、R16 が対象となります。

◆ **PCL 情報リスト**

PCL カードが装着されているときのメニュー項目です。PCL のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。
エミュレーションの PCL、PCLXL が対象となります。詳しくは、『PCL 編』を参照してください。

◆ **PS 情報リスト**

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PS3 のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。詳しくは、『PostScript 3 編』を参照してください。

◆ **PDF 情報リスト**

PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときのメニュー項目です。PDF の情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。
エミュレーションの PDF が対象となります。

◆ **ヘキサダンプ**

印刷不良の原因を調べるために、パソコンから送られたデータを 16 進数で印刷するモードに移行します。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

参照

・P.146 「システム設定リストの見かた」

テスト印刷をする

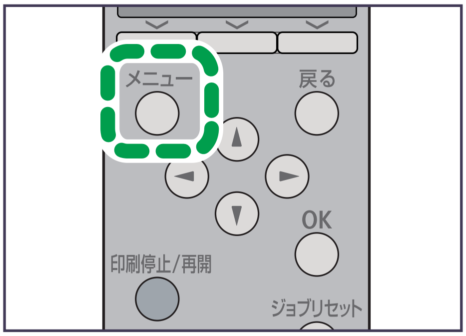
ここでは「システム設定リスト」の印刷手順を説明しますが、基本的な操作方法は他のリストを印刷する場合も同じです。

4

システム設定リストを印刷する

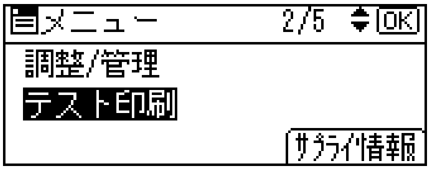
システム設定リストの印刷方法です。

1 [メニュー] キーを押します。

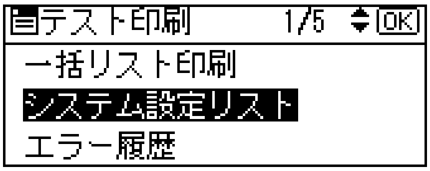


BVN011

2 [▼] [▲] キーを押して「テスト印刷」を表示させ、[OK] キーを押します。



3 [▼] [▲] キーを押して印刷したいリスト名を表示させ、[OK] キーを押します。



印刷終了後、テスト印刷メニューに戻ります。

4 [メニュー] キーを押します。

通常の画面が表示されます。

補足

- システム設定リストは A4 または Letter（8 $^{1}/_{2}$"×11"）で印刷されます。給紙トレイや手差しトレイに A4 または Letter（8 $^{1}/_{2}$"×11"）の用紙をセットしてください。

4

システム設定リストの見かた

システム設定リストの見かたの説明です。



システム設定リスト　お使いの機器名

1 ■システム構成情報

機番	
搭載メモリ	384 MB
トータルカウンター	328
ファームウェアバージョン	プリンター[0.29 / M0475831A]，システム[0.29 / M0475830A]，エンジン[0.20:02 / M0455810]，NIB[9.06 / M0475834A]
接続デバイス	ハードディスク，無線LAN
HDD：フォント／マクロ	空き容量 510438 KB ，最大容量 510446 KB
搭載エミュレーション	R98 [5.21a]，R16 [5.23a]，R55 [5.20a]，RPGL [7.4.t1]，RPGL2 [7.4.t1]，RTIFF [11.109B]，RPDL [7.36b]，BMLinkS [0.01]，Adobe PostScript 3 [0.05]，Adobe PDF [0.05]，RPCS [3.9.3]，PCL 5e Emulation [0.05]，PCL XL Emulation [0.05]，MSIS [7.40.02]，KAN-G [1.03.00]
接続機器	両面ユニット，給紙ユニット

2 ■用紙設定

優先給紙トレイ	トレイ1
手差しトレイ	B5　257.0 x 182.0mm　レターヘッド
トレイ1	A4　297.0 x 210.0mm　普通紙
トレイ2	A4R　210.0 x 297.0mm　普通紙
トレイ3	A3R　297.0 x 420.0mm　普通紙

3 ■調整／管理

濃度調整-濃度調整(厚紙2)	0	濃度調整-濃度調整(厚紙2以外)	0
印刷位置調整-ヨコ：トレイ1	0.0	印刷位置調整-ヨコ：トレイ2	0.0
印刷位置調整-ヨコ：トレイ3	0.0	印刷位置調整-ヨコ：手差しトレイ	0.0
印刷位置調整-ヨコ：両面時裏面	0.0	印刷位置調整-タテ：標準装備給紙トレイ	0.0
印刷位置調整-タテ：オプション給紙トレイ	0.0	印刷位置調整-タテ：手差しトレイ	0.0
印刷位置調整-タテ：両面時裏面	0.0	カール低減	しない
サプライ残量表示	*表示しない	封筒レバーメッセージ	表示する
ブザー音	*OFF	ウォームアップ通知音	OFF
画面コントラスト調整	4	キーリピート設定	通常
オートリセット時間設定	する	リセットまでの時間	60
一時置き文書自動消去設定	しない	消去までの時間	8
保存文書自動消去設定	する	消去までの日数	3

4 ■システム設定　＊マークは設定値が初期値と異なる項目です。

エラーレポート印刷	しない	エラースキップ	しない
画像エラー処理	ジョブリセット	エラー表示設定	すべて表示
補助用紙サイズ	しない	省エネモード移行設定	移行する
省エネモード移行時間	5分	エミュレーション検知	しない
圧縮ﾃﾞｰﾀの解凍印刷	しない	優先ｴﾐｭﾚｰｼｮﾝ/ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	RPCS
優先メモリー	ページメモリー	スプール印刷	しない
自動メール通知	*しない		

5 ■一般設定

印刷枚数	1	180度回転	しない
スムージング	する	トナーセーブ	しない
レターヘッド紙使用設定	使用する（自動判定）	手差しトレイ	*全用紙サイズ/用紙種類許可
トレイ1	機器側設定優先	トレイ2	機器側設定優先
トレイ3	機器側設定優先	トレイ指定時動作切り替え	しない
拡張リミットレス給紙	しない		

6 ■EM設定

白紙排紙	しない	用紙なしエラー	印刷実行時
自動排紙時間	自動排紙しない	マクロキャッシュ	マクロ無し
水平補正初期値	100.00	垂直補正初期値	100.00

7 ■登録プログラム一覧

プログラム番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
エミュレーション名	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

8 ■PCL設定

用紙サイズ	A4	最大領域印刷	しない
両面印刷	しない	印刷方向	タテ
行数	64	フォントソース	内蔵メモリー
フォント番号	0	ポイントサイズ	12.00
フォントピッチ	10.00	シンボルセット	PC-8
クーリエフォント	レギュラー	A4サイズ最大幅印刷	しない
LF設定	LF=LF	白紙排紙	する

9 ■PS設定

ジョブタイムアウト	ドライバー/コマンド優先	ジョブタイムアウト時間（秒）	0
ウェイトタイムアウト	ドライバー/コマンド優先	ウェイトタイムアウト時間（秒）	300
両面印刷	しない	白紙排紙	する
データ形式	バイナリデータ	解像度	600dpi
最大領域印刷	しない	印刷方向自動検知	する

10 ■PDF設定

両面印刷	しない	白紙排紙	する
逆順印刷	しない	解像度	600dpi
最大領域印刷	しない	印刷方向自動検知	する

11 ■インターフェース設定

受信バッファ	128KB	I/F切り替え時間	15秒
DHCP	Off	IPv4アドレス	
サブネットマスク	255.255.255. 0	IPv4ｹﾞｰﾄｳｪｲｱﾄﾞﾚｽ	
IPv6ステートレス設定	有効	IPsec	無効
IPv4	有効	IPv6	無効
SMB	有効	AppleTalk	*無効
イーサネット速度	自動選択	イーサネット用IEEE 802.1X認証	無効
インターフェース選択	イーサネット	通信モード	インフラストラクチャーモード
SSID設定		アドホックチャンネル	11
通信速度	自動設定	セキュリティー方式選択	*WEP
WPA暗号方式	CCMP (AES)	WPA認証方式	WPA-PSK
USB速度	自動設定		

12 ■インターフェース情報

物理アドレス		ホスト名	
ワークグループ名（SMB）	WORKGROUP	ネットワークパス名（SMB）	
物理アドレス（無線LAN）			
無効インターフェース	なし		

13 ■ユーザー用紙種類

1: +ハガキ	厚紙1	2: +Custom 2	普通紙
3: +Custom 3	普通紙	4: +Custom 4	普通紙
5: +Custom 5	普通紙	6: +Custom 6	普通紙
7: +Custom 7	普通紙	8: +Custom 8	普通紙

BVN544

1 システム構成情報
本機のカウンター情報やバージョン情報、オプションの装着状況、搭載エミュレーション、プリンター言語の名称などが印刷されます。

2 用紙設定
現在選択されている優先給紙トレイと各トレイにセットされている用紙のサイズと種類など用紙設定メニューの設定項目が印刷されます。

3 調整／管理
濃度調整や印刷位置設定など、調整／管理メニューの設定項目が印刷されます。

4 システム設定
システム設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

5 一般設定
一般設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

6 EM 設定
マルチエミュレーションカードまたはエミュレーションカードが装着されているときの項目と設定値です。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

7 登録プログラム一覧
登録されているプログラムのエミュレーションが印刷されます。

8 PCL 設定
PCL カードが装着されているときの項目と設定値です。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

9 PS 設定
PS3 カードが装着されているときの項目と設定値です。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

10 PDF 設定
PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときの設定値です。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

11 インターフェース設定
システム初期設定またはプリンター初期設定の、インターフェース設定の項目と設定値です。

12 インターフェース情報
動作モードやプリンター名など、インターフェース設定の情報です。

13 ユーザー用紙種類
ユーザー用紙種類に登録されている用紙名称と用紙種類が印刷されます。

システム設定メニュー

システム設定メニューでは、本機を使用する上で基本的な動作に関わる設定を行うことができます。通常は工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定の内容は電源を切っても保存されます。

システム設定メニューの設定項目

◆ **エラーレポート印刷**

エミュレーションが RPCS、PCLXL、PS3 または PDF のとき、プリンター内部でのデータ処理中にエラーが発生した場合にエラーレポートを印刷するかしないかを設定できます。

- ・する
- **・しない（工場出荷時の設定）**

◆ **エラースキップ**

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種が一致するトレイがなかった場合の本機の動作を設定します。

- **・しない（工場出荷時の設定）**

  プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種のトレイがセットまたは設定されるまで印刷されません。

- ・即時

  用紙サイズ・用紙種類が一致しない場合でもすぐに印刷します。

- ・1 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 1 分間表示し、その後印刷を実行します。

- ・5 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 5 分間表示し、その後印刷を実行します。

- ・10 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 10 分間表示し、その後印刷を実行します。

- ・15 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 15 分間表示し、その後印刷を実行します。

◆ **画像エラー処理**

送信されたデータサイズが大きく、プリンター内部で処理できない場合のプリンターの動作を設定します。

- **・ジョブリセット（工場出荷時の設定）**

  エラーが発生したページでジョブをリセットします。リセットされたページ以降は印刷されません。

- ・エラーシート印刷

  エラーが発生したページはエラー発生直前の画像まで印刷します。エラーが発生したページ以降は印刷されますが、電子ソートの指示は解除されます。ジョブの終わりにエラーシートを印刷します。エラーコードと、エラーによって出力結果が不完全になったページを最大 16 ページ分印刷します。

♦ エラー表示設定
プリンター内部でのデータ処理中に発生したエラーをディスプレイに表示するかしないかを設定できます。
- 簡易表示
- **すべて表示（工場出荷時の設定）**

♦ 補助用紙サイズ
A4 と Letter（8 1/2" × 11"）の切り替えをするかどうかを設定します。
切替を行った場合、A4 と Letter（8 1/2" × 11"）では最大印字領域が異なるので、それぞれの領域を越えた描画は、端部が切れたり、正常に印刷されなかったりします。
- 自動
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ 省エネモード
省エネモードとは、本機の消費電力を節約する機能です。
- 移行設定
  省エネモードに移行するかしないかを選択できます。
  - **移行する（工場出荷時の設定）**
  - 移行しない
- 移行時間
  省エネモードに移行する場合は、移行するまでの時間を設定します。ここで設定した時間の間本機を使用しないと、省エネモードに切り替わります。省エネモード中は本機の起動が遅くなり、印刷が始まるまで多少時間がかかります。
  - **1 分（工場出荷時の設定）**
  - 5 分
  - 15 分
  - 30 分
  - 45 分
  - 60 分

♦ エミュレーション検知
本機に送られたデータを自動的に判断して、エミュレーションを決定することができます。対象となるのは PS3、R55、R16、RP-GL/2、RTIFF です。これら対象エミュレーションが 2 種類以上搭載されている場合に表示されます。それ以外のエミュレーションは、優先エミュレーションで設定されているエミュレーションになります。
- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ 圧縮データの解凍印刷
本機に送られた圧縮データを扱うか扱わないかを選択します。
- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

4

♦ **優先エミュレーション / プログラム**

電源を入れたときに自動的に呼び出されるエミュレーションまたは登録されているプログラムを設定します。

「プログラム 1」～「プログラム 16」に設定すると、その数字と同じ登録番号のプログラムが呼び出されて本機が起動します。

- **RPCS（工場出荷時の設定）**
- RPDL
- R98
- R16
- R55
- RPGL2
- RTIFF
- PCL
- PCLXL
- PS3
- PDF
- BMLinkS
- プログラム 1～16

♦ **優先メモリー**

優先的に使用するメモリー内容を設定します。印刷する用紙サイズ、解像度、エミュレーションなどによって選択してください。

- ユーザーメモリー
  外字やフォントなどのデータを登録するためにメモリーが優先的に使用されます。
- **ページメモリー（工場出荷時の設定）**
  印刷の高速化のためにフレームメモリーとして使用されます。

♦ **スプール印刷**

スプール印刷をするかどうかを設定します。スプール印刷とは、パソコンから転送されるプリントジョブを一時的に本機に蓄積し、印刷する機能です。

拡張 HDD を装着時にのみ表示されます。

「する」を選択すると、最初の印刷に時間がかかります。

- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ **RAM ディスク**

拡張 HDD を装着していないときのみ表示されます。

PDF ダイレクトプリントをする場合で、拡張 HDD を装着していないときに指定します。

2MB 以上の値を指定してください。

- 0MB
- 2MB
- **4MB（工場出荷時の設定）**
- 8MB
- 16MB

♦ **自動メール通知**

本機でエラーが発生したときに、エラーの詳細情報を指定したメールアドレスに通知するかどうかを指定します。

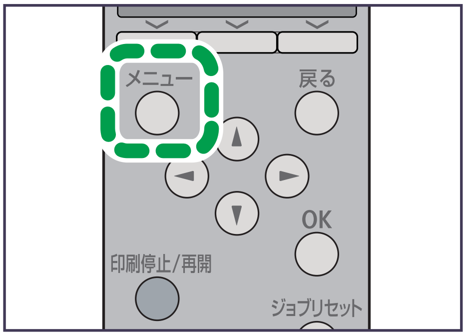
設定を変更したときは、いったん電源を OFF にし、あらためて電源を ON にしてください。

- **する（工場出荷時の設定）**
- しない

システム設定メニューの設定を変更する

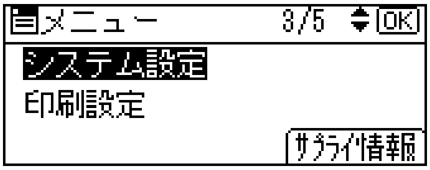
システム設定メニュー「省エネモード」の変更方法を、例として説明します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

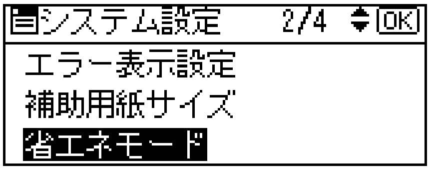


BVN011

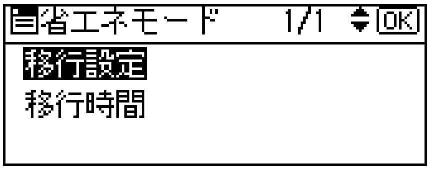
2 [▼] [▲] キーを押して、「システム設定」を選択し、[OK] キーを押します。



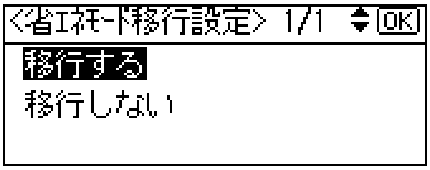
3 [▼] [▲] キーを押して、「省エネモード」を選択し、[OK] キーを押します。



4 [▼] [▲] キーを押して設定を変更する項目を選択し、[OK] キーを押します。



5 [▼] [▲] キーを押して変更する設定値を選択し、[OK] キーを押します。



設定が確定し、省エネモードメニューに戻ります。

6 ［メニュー］キーを押します。

通常の画面が表示されます。

印刷設定メニュー

印刷を行うときの印刷条件を設定します。

印刷設定メニューの設定項目

♦ **一般設定**

♦ **印刷枚数設定**

PCLカード、PS3カード、PDF ダイレクトプリントカードのいずれかが装着されているときのメニュー項目です。印刷枚数を 1~999 枚の間で設定できます。プリンタードライバーで印刷部数を指定した場合は、プリンタードライバーの設定が有効になります。

・**1（工場出荷時の設定）**

4

♦ **180 度回転**

180 度回転印刷をするかしないかを設定できます。

・する

・**しない（工場出荷時の設定）**

♦ **スムージング**

RPCS が選択されているとき、または PCL カード、PS3 カード、PDF ダイレクトプリントカードのいずれかが装着されているときのメニュー項目です。文字や図形の輪郭のギザギザを自動的になめらかにして印刷するかどうかを設定します。

・**する（工場出荷時の設定）**

・しない

♦ **トナーセーブ**

PCL カード、PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードのいずれかが装着されているときのメニュー項目です。薄めに印刷することで、トナーを節約するかどうかを設定します。

・する

・**しない（工場出荷時の設定）**

♦ **レターヘッド紙使用設定**

レターヘッド紙印刷を行うかどうかを設定します。

レターヘッド紙印刷を行うと、両面印刷のとき、奇数ページジョブの最終ページが両面印刷されます。

両面印刷ができない紙サイズの場合、両面印刷は解除されます。

両面印刷を許可しているトレイからソート印刷をすると、1 部目と 2 部目以降で印刷面が異なる場合があります。印刷する面をすべて同一にしたいときは、両面印刷を禁止しているトレイから給紙してください。

レターヘッド紙を使用するときは用紙のセット方向に注意が必要です。

・使用しない

レターヘッド紙印刷を行いません。

・**使用する（自動判定）（工場出荷時の設定）**

レターヘッド紙が指定されたときに行います。

・使用する（常時）

常にレターヘッド紙印刷を行います。

♦ トレイ設定選択

用紙設定（用紙サイズ、用紙種類）を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

♦ 手差しトレイ

手差しトレイの用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- **ドライバー / コマンド優先（工場出荷時の設定）**
  給紙トレイを指定して印刷する場合、本機に設定されている用紙設定にかかわらず、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定を適用して印刷します。
- 機器側設定優先
  本機に設定されている用紙設定で印刷します。プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定と本機の用紙設定が一致しない場合は、エラーになります。
- 全用紙サイズ・用紙種類許可
  プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が本機のどのトレイとも一致しない場合、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定を手差しトレイに適用し、印刷を継続することができます。
- 全不定形サイズ・用紙種類許可
  プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が本機のどのトレイとも一致しない場合、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が不定形サイズである場合に限り、その設定を手差しトレイに適用して印刷を継続することができます。

補足

- ［全用紙サイズ・用紙種類許可］および［全不定形サイズ・用紙種類許可］を設定して蓄積された文書の場合、蓄積後に設定を変更しても蓄積したときの設定で印刷されます。
- ［全用紙サイズ・用紙種類許可］および［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定した場合、手差しトレイも、拡張リミットレス機能の対象となります。

♦ トレイ 1

トレイ 1 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ドライバー / コマンド優先
- **機器側設定優先（工場出荷時の設定）**

♦ トレイ 2

トレイ 2 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ドライバー / コマンド優先
- **機器側設定優先（工場出荷時の設定）**

♦ トレイ 3

トレイ 3 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ドライバー / コマンド優先
- **機器側設定優先（工場出荷時の設定）**

♦ トレイ 4

トレイ 4 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ドライバー / コマンド優先
- **機器側設定優先（工場出荷時の設定）**

補足

- 本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

♦ トレイ指定時動作切り替え

プリンタードライバーから給紙トレイを指定して用紙サイズ・用紙種類を指示した際に、指定した給紙トレイに指示した条件の用紙がなかった場合、自動用紙選択をするかどうかを設定します。

PCL、PS3、PDF のいずれかが搭載されているときのみ設定できます。

- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ 拡張リミットレス給紙

自動用紙選択ではなく、給紙トレイ指定時でもリミットレス給紙をするように設定します。

- する
  ［する］を選択したときは、プリンタードライバーや印刷条件の「リミットレス給紙」の設定に関係なく、リミットレス給紙機能が有効になります。
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ システム設定（EM）

マルチエミュレーションカードまたはエミュレーションカードが装着されているときのメニュー項目です。

RPDL、R16、R55、R98、RPGL/GL2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

♦ 白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- する
- スペース
  排紙コマンドの前にスペースコード（20H、A0H、8140H）があるときは排紙します。
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ 用紙なしエラー

現在選択されているトレイに用紙がセットされていないときのデータ受信を停止するタイミングを設定します。「印刷実行時」に設定すると用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。「用紙なし時」に設定すると用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

- **印刷実行時（工場出荷時の設定）**
  用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。
- 用紙なし時
  用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

♦ 自動排紙時間

一定時間パソコンからデータが送信されない場合に本機内にあるデータを強制的に印刷するかどうかを設定します。「自動排紙しない」に設定するとデータは自動的には印刷されません。自動的に印刷させる場合は、データが送信されなくなってから強制的に印刷するまでの時間を設定します。設定された時間が経過すると送信されてきたデータが 1 ページの途中までであっても強制的に印刷されるため、適切な時間を設定することが重要です。

- **自動排紙しない（工場出荷時の設定）**
- 10 秒
- 15 秒
- 20 秒
- 25 秒
- 60 秒
- 300 秒

♦ マクロキャッシュ

プリンター言語モジュールがマクロキャッシュとして使用するメモリの上限を設定します。

- **マクロ無し（工場出荷時の設定）**
- マクロ 2.1MB
- マクロ 4.3MB
- マクロ 8.4MB

♦ 水平補正初期値

99.00〜101.00%の間で設定できます。エミュレーション の RP-GL/2 搭載しているときのみ設定できます。設定はエミュレーションの RP-GL/2 の印刷条件の初期値になります。すでに登録したプログラムには反映されません。詳細は、『RP-GL/2 編』を参照してください。

- **100.00%（工場出荷時の設定）**

♦ 垂直補正初期値

99.00〜101.00%の間で設定できます。エミュレーション の RP-GL/2 搭載しているときのみ設定できます。設定はエミュレーションの RP-GL/2 の印刷条件の初期値になります。すでに登録したプログラムには反映されません。詳細は、『RP-GL/2 編』を参照してください。

- **100.00%（工場出荷時の設定）**

♦ **PCL 設定**

PCL カードが装着されているときのメニュー項目です。

♦ **用紙サイズ**

・A3
・B4
・**A4（工場出荷時の設定）**
・B5
・A5
・B6
・A6
・11×17
・8 $^1/_2$×14
・8 $^1/_2$×11
・5 $^1/_2$×8$^1/_2$
・往復ハガキ
・ハガキ
・角形 2 号封筒
・長形 3 号封筒
・洋長 3 号
・不定形サイズ

♦ **最大領域印刷**

・する
・**しない（工場出荷時の設定）**

♦ **両面印刷**

オプションの両面ユニットが装着されているときのメニュー項目です。

・**しない（工場出荷時の設定）**
・長辺
・短辺

♦ **印刷方向**

・**タテ（工場出荷時の設定）**
・ヨコ

♦ **行数**

5 〜 128 行まで 1 行ごとに設定できます。

・**64（工場出荷時の設定）**

♦ **フォントソース**

・**内蔵メモリー（工場出荷時の設定）**
・RAM
・HDD
・SD
・SD Font Download

♦ **フォント番号**

フォント読込先のフォント番号を指定します。フォントソースが内蔵メモリーのときは 0 〜 63 の間で設定できます。

フォントソースが内蔵メモリーのときの初期値は 0 で、その他のときの初期値は 1 です。

・**0（工場出荷時の設定）**

4

♦ ポイントサイズ

フォントサイズを設定します。4 ～999.75（0.25 ごと）の間で設定できます。

- **12.00（工場出荷時の設定）**

♦ フォントピッチ

文字間を設定します。0.44～ 99.99（0.01 ごと）の間で設定できます。

- **10.00（工場出荷時の設定）**

♦ シンボルセット

- Roman-8
- ISO L1
- ISO L2
- ISO L5
- **PC-8（工場出荷時の設定）**
- PC-8 D/N
- PC-850
- PC-852
- PC8-TK
- Win L1
- Win L2
- Win L5
- Desktop
- PS Text
- VN Intl
- VN US
- MS Publ
- Math-8
- PS Math
- VN Math
- Pifont
- Legal
- ISO 4
- ISO 6
- ISO 11
- ISO 15
- ISO 17
- ISO 21
- ISO 60
- ISO 69
- Win 3.0

♦ クーリエフォント

- **レギュラー（工場出荷時の設定）**
- ダーク

♦ A4 サイズ最大幅印刷

- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ **LF 設定**
- LF＝CR＋LF
- **LF＝LF（工場出荷時の設定）**

♦ **白紙排紙**
- **する（工場出荷時の設定）**
- しない

♦ **PS 設定**

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。

♦ **ジョブタイムアウト**

ジョブが中断した場合に、現在のジョブを中止するまでの本機の待機時間を設定します。（秒単位）

「0」に設定した場合、ジョブタイムアウトは行われません。
- **ドライバー / コマンド優先（工場出荷時の設定）**
- 機器側設定優先
  ［機器測定優先］を選択した場合、0〜999 の値を入力します。工場出荷時は、0 に設定されています。

♦ **ウェイトタイムアウト**

本機がジョブ終了を検知できない場合に、ジョブ受信を中止するまでの本機の待機時間を設定します。

「0」に設定した場合、ウェイトタイムアウトは行われません。
- **ドライバー / コマンド優先（工場出荷時の設定）**
- 機器側設定優先
  ［機器測定優先］を選択した場合、0〜999 の値を入力します。工場出荷時は、300 に設定されています。

♦ **両面設定**

両面印刷の実行の有無、または方向を設定します。

オプションの両面ユニットが装着されているときのメニュー項目です。
- **しない（工場出荷時の設定）**
- 長辺
- 短辺

♦ **白紙排紙**

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。
- **する（工場出荷時の設定）**
- しない

♦ **データ形式**

データ形式を設定します。
- **バイナリーデータ（工場出荷時の設定）**
- TBCP

♦ **解像度**

解像度を設定します。
- **600dpi（工場出荷時の設定）**
- 1200dpi

4

◆ **最大領域印刷**
用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを設定できます。
・する
・**しない（工場出荷時の設定）**

◆ **印刷方向自動検知**
データの印刷方向を自動検知するかしないかを設定できます。
・**する（工場出荷時の設定）**
・しない

◆ **PDF 設定**
PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときのメニュー項目です。

◆ **PDF パスワード変更**
印刷するPDFファイルに設定されたパスワードを本機に設定したり、変更したりします。

◆ **PDF グループパスワード**
Ridoc Desk Navigator で設定したグループパスワードを設定します。

◆ **両面印刷**
両面印刷をするかしないかを設定できます。する場合はその方向を設定します。
・**しない（工場出荷時の設定）**
・長辺
・短辺

◆ **白紙排紙**
白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。
・**する（工場出荷時の設定）**
・しない

◆ **逆順印刷**
ページ順を逆にし、最終ページから印刷することができます。
・する
・**しない（工場出荷時の設定）**

◆ **解像度**
解像度を設定します。
・**600dpi（工場出荷時の設定）**
・1200dpi

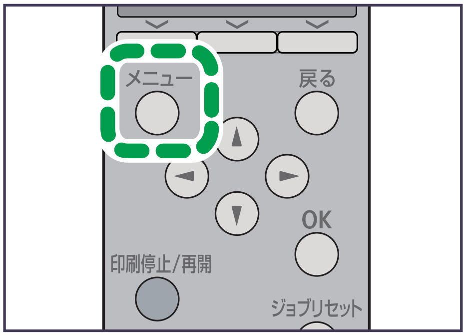
◆ **最大領域印刷**
用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを設定できます。
・する
・**しない（工場出荷時の設定）**

◆ **印刷方向自動検知**
データの印刷方向を自動検知するかしないかを設定できます。
・**する（工場出荷時の設定）**
・しない

印刷設定メニューの設定を変更する

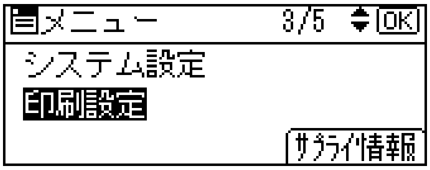
印刷設定メニュー「180 度回転」を有効に設定する方法を、例として説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

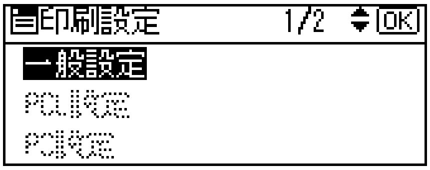


BVN011

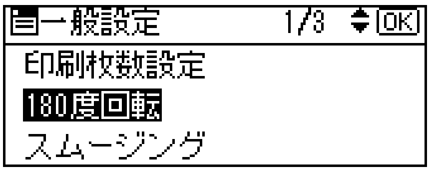
2. ［▼］［▲］キーを押して、「印刷設定」を選択し、［OK］キーを押します。



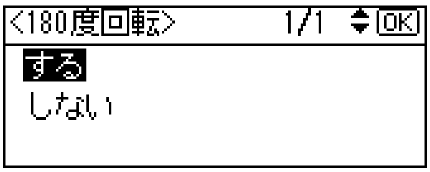
3. ［▼］［▲］キーを押して、「一般設定」を選択し、［OK］キーを押します。



4. ［▼］［▲］キーを押して、「180 度回転」を選択し、［OK］キーを押します。



5. ［▼］［▲］キーを押して「する」を選択し、［OK］キーを押します。



設定が確定し、一般設定メニューに戻ります。

6. ［メニュー］キーを押します。
通常の画面が表示されます。

セキュリティー管理メニュー

セキュリティーに関する設定を行います。

セキュリティー管理メニューの設定項目

◆ **拡張認証管理**

IC カード認証取り付け時に表示されます。

- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

◆ **セキュリティー強化**

◆ **ドライバー暗号鍵**

ユーザー認証を設定しているときに送信するパスワードの暗号化を行います。ドライバー暗号鍵を設定する場合は本機で設定した暗号鍵を印刷するドライバーに入力してください。パスワードの暗号化を行います。

◆ **アドレス帳暗号化**

アドレス帳の暗号化をするかしないかを設定できます。する場合は暗号鍵を設定します。本機のアドレス帳情報を暗号化します。内部の部品が流出したときにも暗号化によりアドレス帳の情報を読み取ることはできません。

- する
  ［暗号鍵］を押し、暗号鍵を設定します。
- **しない（工場出荷時の設定）**

◆ **個人情報表示制限**

ユーザー認証を設定しているときに設定することができます。

個人認証ができない接続方法でジョブ履歴を確認する際に、個人情報を全て「********」表示にすることができます。登録者の情報がわからないため、不特定のユーザーに登録した文書の情報が漏れることを防ぐことができます。

- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

◆ **文書保護強化**

パスワード設定によって、文書の印刷や消去などの操作が制限され、不特定の人による文書アクセスが避けられます。文書保護強化を設定した場合、誤ったパスワードを 10 回入力すると文書はロックされ、アクセスできなくなります。

- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

◆ **SNMPv1, v2 による設定**

SNMPv1、v2 を使った設定を禁止するかしないかを設定できます。

- 禁止する
- **禁止しない（工場出荷時の設定）**

◆ **簡易暗号化使用制限**

高度な暗号化が設定できないときに、簡易暗号化処理（利用制限）を行います。

- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ 実行中ジョブへの認証の実施

ジョブキャンセル等の操作に認証を必要とするかしないかを設定できます。
［ログイン権限］に設定すると認証の許可があるユーザー、および機器管理者が操作可能です。
［アクセス権限］に設定すると印刷を行ったユーザー、および機器管理者が操作可能です。

- ログイン権限
- アクセス権限
- **しない（工場出荷時の設定）**

♦ パスワードポリシー

ベーシック認証が設定されている場合に設定できます。

- 複雑さ設定
  複雑度 1：英大文字、英小文字、10 進数の数字、記号（#など）から 2 種類以上を組み合わせてパスワードを設定します。
  複雑度 2：英大文字、英小文字、10 進数の数字、記号（#など）から 3 種類以上を組み合わせてパスワードを設定します。
  制限しない（工場出荷時の設定）
- 最小文字数（0〜32）
  文字数を制限しない場合は「0」を入力します。

♦ @Remote サービス

@Remote サービスのための HTTPS 通信を禁止するかしないかを設定できます。禁止する場合は、サービス実施店にご相談ください。

- 禁止する
- **禁止しない（工場出荷時の設定）**

♦ ファームウェアアップデート

ファームウェアのアップデートを禁止するかしないかを設定できます。

- 禁止する
- **禁止しない（工場出荷時の設定）**

♦ ファームウェア構成変更

ファームウェアの構成変更を禁止するかしないかを設定できます。

- 禁止する
- **禁止しない（工場出荷時の設定）**

♦ サービスモード移行禁止設定

サービスモードへの移行を禁止するかしないかを設定できます。

- する
- **しない（工場出荷時の設定）**

◆ **ファームウェアバージョン表示**
本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

◆ **ネットワークセキュリティーレベル**
ネットワークセキュリティーのレベルを選択します。
・レベル 0
・レベル 1
・レベル 2

補足

・ネットワークセキュリティーレベルは、工場出荷時には設定されていません。

◆ **メモリー自動消去設定**
セキュリティーカードが装着されているときのメニュー項目です。メモリーの自動消去をするかしないかを設定できます。する場合は消去方式と上書き回数を設定します。
・する
　消去方式
　・NSA 方式
　・DoD 方式
　・乱数方式
　上書き回数（1〜9 回の範囲で設定）
・**しない（工場出荷時の設定）**

◆ **メモリー全消去**
セキュリティーカードが装着されているときのメニュー項目です。メモリー内のデータをすべて消去します。消去方式を選択し、上書き回数を設定します。
・消去方式
　・**NSA 方式（工場出荷時の設定）**
　・DoD 方式
　・乱数方式
　上書き回数（1〜9 回の範囲で設定）

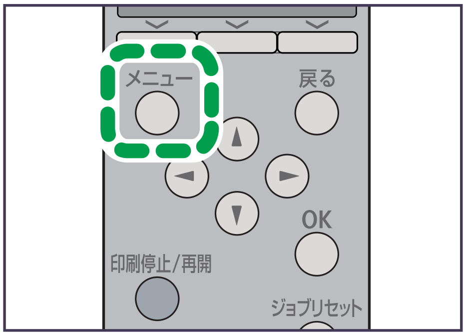
◆ **ログ転送設定**
ログの転送をするかしないかを設定できます。
・する（ログ収集サーバーからのみ設定可能）
・**しない（工場出荷時の設定）**

◆ **機器データ暗号化設定**
蓄積文書暗号化カードが装着されているときのメニュー項目です。拡張 HDD のデータを暗号化します。データを暗号化した場合、操作部の画面に以下のメニューが表示されます。
・**機器データ暗号鍵更新（工場出荷時の設定）**
　暗号鍵を更新します。
・暗号化解除
　暗号設定を解除します。
・機器データ暗号鍵印刷
　暗号鍵を印刷します。

セキュリティー管理メニューの設定を変更する

セキュリティー管理メニュー「アドレス帳暗号化」の初回設定方法を例として説明します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

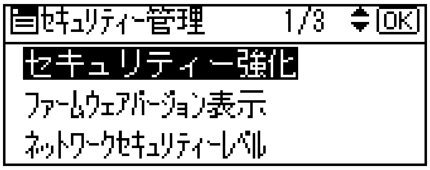


BVN011

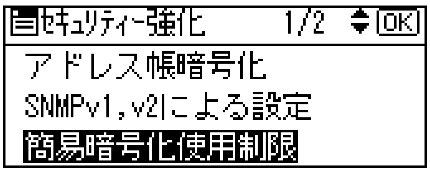
2 ［▼］［▲］キーを押して、「セキュリティー管理」を選択し、［OK］キーを押します。



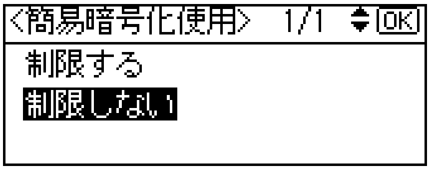
3 ［▼］［▲］キーを押して、「セキュリティー強化」を選択し、［OK］キーを押します。



4 ［▼］［▲］キーを押して、「簡易暗号化使用制限」を選択し、［OK］キーを押します。



5 【▼】【▲】キーを押して、「制限する」「制限しない」を選択し、【OK】キーを押します。



セキュリティー強化メニューに戻ります。

6 【メニュー】キーを押します。

通常画面に戻ります。

4

インターフェース設定メニュー

インターフェース設定メニューでは、ネットワーク接続に関する設定とパソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。変更したインターフェース設定の内容は電源を切っても保持されます。

インターフェース設定メニューの設定項目

♦ **受信バッファ**

受信バッファのメモリーサイズを設定します。通常は変更する必要はありません。

- **128KB（工場出荷時の設定）**
- 256KB

4

♦ **インターフェース切り替え時間**

現在のインターフェースからデータが送信されてこなくなってから、そのインターフェースを有効にしておく時間を設定します。ここで設定した時間を超えるとほかのインターフェースからのデータの受信が可能になります。

設定時間が短すぎると 1 つのデータを受信中にタイムアウトになってしまうことがあります。その結果、ほかのインターフェースからのデータが割り込んで印刷されたり、データの途中からエミュレーション検知が働いて、違うエミュレーションに切り替わったり、印刷を中止したデータが途中から印刷されたりします。

- 10 秒
- **15 秒（工場出荷時の設定）**
- 20 秒
- 25 秒
- 60 秒

♦ **ネットワーク設定**

ネットワーク環境に本機を接続して印刷するための設定をします。詳しい各項目の設定方法については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

- 本体 IPv4 アドレス
  - 自動的に取得（DHCP）
    On
    Off（工場出荷時の設定）
  - 指定
    IP アドレス
    サブネットマスク
    ゲートウェイ
- IPv6 ステートレス設定
  - **有効（工場出荷時の設定）**
  - 無効
- IPsec
  - 有効
  - **無効（工場出荷時の設定）**

- 有効プロトコル
  - IPv4
    有効（工場出荷時の設定）
    無効
  - IPv6
    有効
    無効（工場出荷時の設定）
  - SMB
    有効（工場出荷時の設定）
    無効
  - AppleTalk
    有効
    無効（工場出荷時の設定）
    ［AppleTalk］は、PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードを装着しているときに表示されます。
- イーサネット速度
  イーサネットボードを使ってネットワーク通信するときの通信速度を選択することができます。
  - **自動設定（工場出荷時の設定）**
  - 10Mbps 半二重固定
  - 10Mbps 全二重固定
  - 100Mbps 半二重固定
  - 100Mbps 全二重固定
- イーサネット用 IEEE 802.1X 認証
  イーサネット用の IEEE 802.1X 認証を設定します。
  - 有効
  - **無効（工場出荷時の設定）**

  IEEE 802.1X 認証については『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。
- IEEE 802.1X 認証初期化
  IEEE 802.1X 認証の設定値を初期化します。
- インターフェース選択
  - **イーサネット（工場出荷時の設定）**
  - 無線 LAN

補足

- インターフェース選択は、拡張無線LANボードを装着しているときに表示されます。

4

♦ パラレルインターフェース設定

パソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。拡張1284 ボード装着時に表示されます。

・パラレルタイミング

パラレルインターフェースのタイミングを設定します。

・ACK inside

・ACK outside（工場出荷時の設定）

・STB down

・パラレル通信速度

パラレル通信で DMA 転送を使用して受信を行うかどうかを設定します。

・高速（工場出荷時の設定）

・標準

・セレクト状態

パラレルインターフェースのセレクト信号のレベルを設定します。

・HIGH（工場出荷時の設定）

・LOW

・インプットプライム

インプットプライム信号が送られてきたとき、プライム信号を有効にするかどうかを設定します。通常は変更する必要はありません。

・有効

・無効（工場出荷時の設定）

・双方向通信

パラレルインターフェースで使用しているとき、状態取得要求に対するプリンターの返答モードを設定します。市販のプリントボックスなどに接続して問題が発生したときは、「OFF」に設定します。

・ON（工場出荷時の設定）

・OFF

♦ 無線 LAN 設定

無線 LAN を使用するときに必要な項目を設定します。拡張無線 LAN ボード装着時に表示されます。

♦ 通信モード

無線 LAN の通信モードを設定します。

通信モードは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

・802.11 アドホックモード

・インフラストラクチャーモード（工場出荷時の設定）

♦ SSID 設定

SSID を設定します。設定した SSID を確認することもできます。

SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 文字列 0x20〜0x7e）で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。

SSID は、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

♦ アドホックチャネル

アドホックモード選択時に使用するチャネルを設定します。使用できるチャネルは、以下のとおりです。

・IEEE 802.11a：
1〜14、36、40、44、48

・IEEE 802.11b：
1〜14

・IEEE 802.11g：
1〜13

- **セキュリティー方式選択**

  無線 LAN の暗号化をするかしないかを設定できます。する場合はその方式を選択し、キーを設定します。
  - **しない（工場出荷時の設定）**
  - WEP

    ［詳細設定］キーを押し、WEP キーを入力します。WEP キーは、16 進数または ASCII 文字列で入力します。

    64bit WEP を使用する場合、16 進数では 10 桁、ASCII 文字列では 5 桁の文字列が使用できます。128bit WEP を使用する場合、16 進数では 26 桁、ASCII 文字列では 13 桁の文字列が使用できます。

    WEP キーは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。
  - WPA

    ［詳細設定］キーを押し、暗号方式または認証方式を選択します。

    暗号方式：TKIP/CCMP（AES）

    認証方式：WPA-PSK（ASCII 文字列で 8 桁の文字が使用できます）/WPA/WPA2-PSK/WPA2（この方式を選択した場合は、別途 Web Image Monitor にて証明書を導入してください）

- **電波状態**

  無線 LAN の電波状態を確認します。

- **設定値初期化**

  無線 LAN の設定を初期化します。

- **USB 設定**

  USB の速度設定を選択します。
  - USB 速度
    - **自動設定（工場出荷時の設定）**
    - フルスピード
  - USB ポート固定
    - レベル 1
    - レベル 2
    - **しない（工場出荷時の設定）**

補足

- Web Image Monitor からの設定方法について詳しくは「Web ブラウザーを使う」、および Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

参照

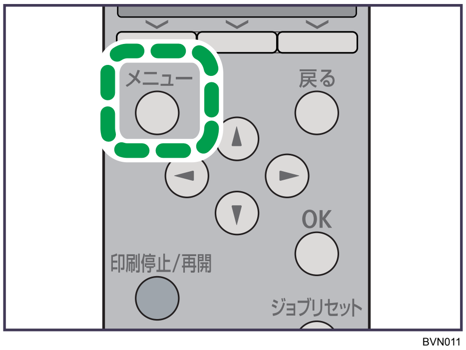
- P.177 「Web ブラウザーを使う」

4

インターフェース設定メニューの設定を変更する

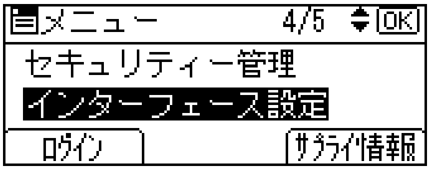
インターフェース設定メニュー「ネットワーク設定」で、IPv4 アドレスを自動的に取得する（DHCP）ように変更する方法を、例として説明します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します



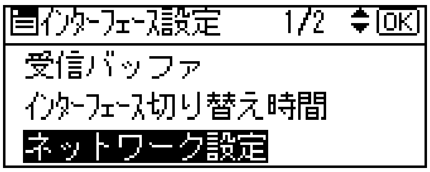
メニュー画面が表示されます。

2 ［▼］［▲］キーを押して、［インターフェース設定］を選択し、［OK］キーを押します。

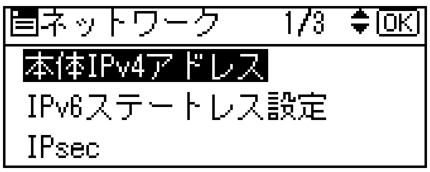


インターフェース設定画面が表示されます。

3 ［▼］［▲］キーを押して、［ネットワーク設定］を選択し、［OK］キーを押します。



4 ［▼］［▲］キーを押して［本体 IPv4 アドレス］を選択し、［OK］キーを押します。



5 ［▼］［▲］キーを押して［自動的に取得（DHCP）］を選択し、［OK］キーを押します。



約 2 秒後にネットワーク設定画面に戻ります。

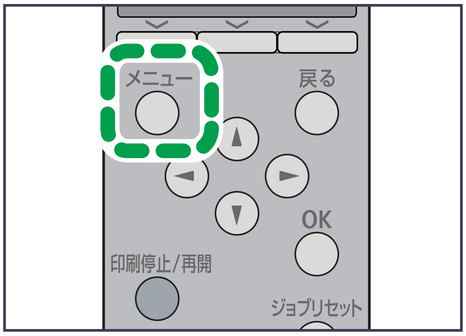
6 ［メニュー］キーを押します。

通常の画面が表示されます。

表示言語切替

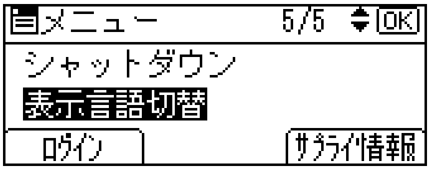
操作部の画面に表示する言語として、日本語と英語を選択できます。工場出荷時は、日本語に設定されています。
ここでは、日本語から英語に切り替える場合を例に説明します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

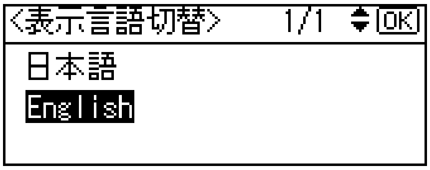


BVN011

2 [▼] [▲] キーを押して「表示言語切替」を選択し、[OK] キーを押します。



3 [▼]［▲］キーを押して「English」を選択し、[OK］キーを押します。



画面に表示される言語が英語になります。

4 [メニュー］キーを押します。

通常の画面が表示されます。

4

補助メニュー

補助メニューでは、強制排紙やエラー履歴、エミュレーションの設定などを行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目の一覧を説明します。

補助メニューの項目

補助メニューの設定項目です。

♦ **強制排紙**

改行コードがないなどの理由で印刷できないデータを印刷します。

♦ **エラー履歴表示**

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラーの履歴が残り、操作部で確認することができます。

- すべて
- 試し印刷文書
- 機密印刷文書
- 保留印刷文書
- 保存文書

♦ **給紙トレイ**

印刷する給紙トレイを切り替えます。

- **トレイ 1（工場出荷時の設定）**
- トレイ 2
- トレイ 3
- トレイ 4
- 手差しトレイ

補足

- RPDL、R16、R55、R98、RTIFF、RP-GL/2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。
- 本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

♦ **エミュレーション呼び出し**

エミュレーションやプログラムを切り替えるときに使用します。

- **RPCS（工場出荷時の設定）**
- RPDL
- R98
- R16
- R55
- RPGL2
- RTIFF
- PCL
- PCLXL
- PS3
- PDF
- BMLinks
- プログラム 1〜16

4

補足

- 搭載されているエミュレーションか登録されているプログラムを選択できます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

◆ 印刷条件

アプリケーションやパソコンに合わせて印刷条件を設定します。

補足

- RPDL、R16、R55、R98、RTIFF、RP-GL/2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

◆ 印刷部数

印刷部数を設定します。

補足

- RTIFF または RP-GL/2 をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

◆ プログラム登録／消去

設定した印刷条件を登録します。

- プログラム登録
- プログラム消去
- プログラム内容印刷

補足

- RPDL、R16、R55、R98、RTIFF、RP-GL/2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

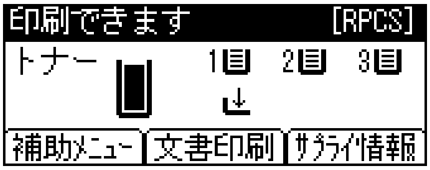
エラー履歴を確認する

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラー履歴が残り、操作部で確認することができます。

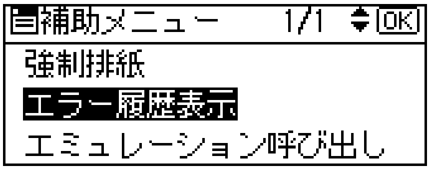
重要

- エラー履歴には最新の 30 件が蓄積されます。すでに 30 件が蓄積されているときに新たなエラーが加わると、最も古い履歴が消去されます。ただし最も古い履歴が次の文書の場合は消去されずに、蓄積エラーとして 30 件まで別に蓄積されます。エラー履歴として、どちらの履歴も確認することができます。
  - 試し印刷文書
  - 機密印刷文書
  - 保留印刷文書
  - 保存文書
- 本体の電源を「Off」にすると、それまでの履歴は消去されます。

1 **［補助メニュー］を押します。**

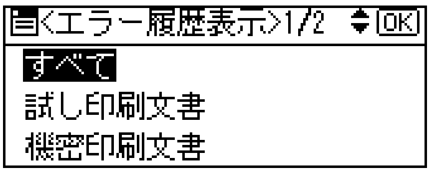


2 **[▼] [▲] キーを押して [エラー履歴表示] を選択し、[OK] キーを押します。**



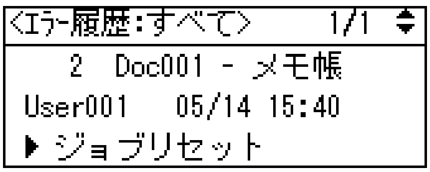
エラー履歴が表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべてのエラー履歴が表示されない場合があります。

3 **[▼] [▲] キーを押してエラー履歴の種類を選択し、[OK] キーを押します。**



［すべて］、［試し印刷文書］、［機密印刷文書］、［保留印刷文書］、［保存文書］から選択することができます。

4 **[▼] [▲] キーを押して確認したいエラー履歴を選択し、[戻る] キーを押します。**



エラー履歴の詳細が表示されます。

確認し終わったら［メニュー］キーを押します。

5. 機器の監視

Web ブラウザーやソフトウェアを使った、機器の監視や設定についての説明です。

Web ブラウザーを使う

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

Web Image Monitor について

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上からできる機能です。

5

♦ どんなことができるのか？

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- 機器の状態／設定の表示
- ジョブの状態／履歴の確認
- 印刷中ジョブの中止
- 本機のリセット
- アドレス帳の管理
- 本機の各種設定
- メール通知機能の設定
- ネットワークプロトコルに関する設定
- セキュリティーの設定

♦ 本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

♦ 推奨ブラウザー

- Windows 環境：
  Internet Explorer 5.5 SP2 以降
  Firefox 1.0 以降
- Macintosh 環境：
  Firefox 1.0 以降
  Safari 1.0、1.2、2.0（412.2）以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダに対応しています。推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- 推奨するアプリケーション
  95Reader Ver.6.0 (XPReader) 以降
- 動作環境
  Windows 環境：Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降

補足

- 使用するブラウザーのバージョンが推奨ブラウザーより低い場合や、使用するブラウザーの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくは管理者に確認してください。
- ブラウザーの［戻る］で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの［更新］または［再読み込み］をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された［最新の情報に更新］をクリックしてください。
- Mac OS 10.4.1 の Safari はご使用になれません。
- Firefox をご使用の場合、テーブルがくずれる、フォントや色が異なるなどの可能性があります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- IPv6 環境下で Internet Explorer 7.0 を使用する場合、ブラウザーのアドレスバーには IP アドレスの代わりに本機のホスト名を入力してください。hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法については、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。

参照

- P.298 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

トップページを表示する

Web Image Monitor の表示方法とトップページの説明です。

1 **Web ブラウザーを起動します。**

2 **Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。
DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。
サーバー証明を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしている場合は、「https://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力します。
Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。
Web Image Monitor のトップページが表示されます。



1 ヘッダーエリア
ヘルプ、RICOH Homepage へのリンクや、キーワード検索用のダイアログが表示されます。

2 メニューエリア
ゲストモードと管理者モードとの切り替えのためのログイン / ログアウトボタンが表示され、それぞれのモードのメニュー項目が表示されます。
メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示、またはサブメニューを表示します。

3 ヘルプ
ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。

4 ワークエリア
トップページでは、現在の機器の状態を表示します。
また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。
ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の［最新の情報に更新］をクリックしてください。なお、Web ブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの［更新］をクリックしてください。

補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

ユーザー認証が設定されているとき

Web Image Monitor からのログインのしかた

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログインします。

1 ［ログイン］をクリックします。

2 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

補足

- ユーザーコード認証のときは、ユーザー名にユーザーコードを入力して、[OK] をクリックします。
- ご使用の Web ブラウザーにより操作は異なります。

Web Image Monitor からのログアウトのしかた

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログアウトするときは、［ログアウト］をクリックします。

補足

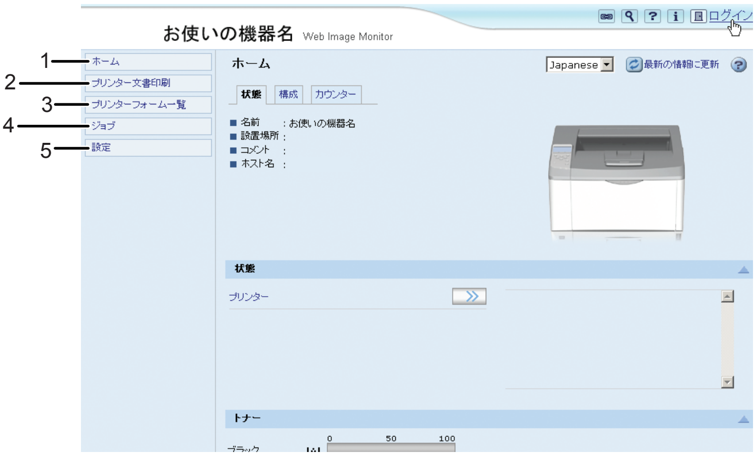
- ログインをした場合、操作が完了したら、必ず［ログアウト］をクリックしてログアウトしてください。

メニュー構成とモード

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。
また、お使いの機種により表示される項目が異なります。

♦ ゲストモード

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。



BVN542

1 ホーム

給紙トレイ、排紙トレイとトナー残量の状態表示、本機の機能、システム情報とカウンターの表示、および搭載されているエミュレーションが表示されます。

2 プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

3 プリンターフォーム一覧

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4 ジョブ

スプール印刷ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴の一覧表示、および試し印刷／機密印刷の一覧表示ができます。

5 設定

現在の本機の設定内容およびネットワーク設定の内容が表示されます。
また、ヘルプファイルのダウンロードをすることができます。

◆ 管理者モード

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。



BVN543

1 ホーム
［状態］タブ、［消耗品］タブ、［構成］タブ、［カウンター］タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

2 プリンター文書印刷
試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

3 プリンターフォーム一覧
イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4 ジョブ
各ジョブの一覧を表示することができます。

5 アドレス帳
本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

6 設定
本機のシステム設定やインターフェースの設定、ネットワーク設定、およびセキュリティーの設定ができます。

7 リセット
トップページの［リセット］ボタンをクリックすると、実行中のジョブが終了次第、本機のプリンター機能をリセットします。

8 プリンタージョブリセット
トップページの［プリンタージョブリセット］ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

補足

- 表示や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

Web Image Monitor のヘルプについて

Web Image Monitor のヘルプを表示する方法です。

Web Image Monitor のヘルプをはじめてご使用になる場合、ヘッダーエリアに表示された、またはワークエリアに表示されたをクリックすると設定画面が表示され、2 種類の方法で Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。



♦ インターネットの Web Image Monitor のヘルプを見る

最新の Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

♦ Web Image Monitor のヘルプをダウンロードして見る

Web Image Monitor のヘルプをお使いのパソコンのローカルディスクへダウンロードして見ることができます。ヘルプの URL にローカルディスクのパスを指定すると、インターネットへ接続せずにヘルプを見ることができます。

補足

- ヘッダーエリアに表示されたをクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示されたをクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

ヘルプのダウンロード

1. 使用している OS をドロップダウンメニューから選択します。



2. 使用している言語をドロップダウンメニューから選択します。
3. [ダウンロード] をクリックします。
4. 表示されるメッセージに従って、ヘルプファイルをダウンロードします。
5. ダウンロードした圧縮ファイルを任意の場所に保存し、解凍します。

   ダウンロードした Web Image Monitor のヘルプを見る場合は、解凍した場所のパスを設定してください。

5

ヘルプへのアドレス（URL）リンク

パソコンまたは Web サーバーのヘルプファイルに、ヘッダーエリアに表示された?のアドレス（URL）を次の手順でリンクすることができます。

1 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします。

2 左フレーム内の［設定］をクリックします。



3 ［Webpage］メニューの［Webpage 設定］をクリックします。



4 「ヘルプリンク先設定」の［URL］にヘルプファイルへのパスを入力します。



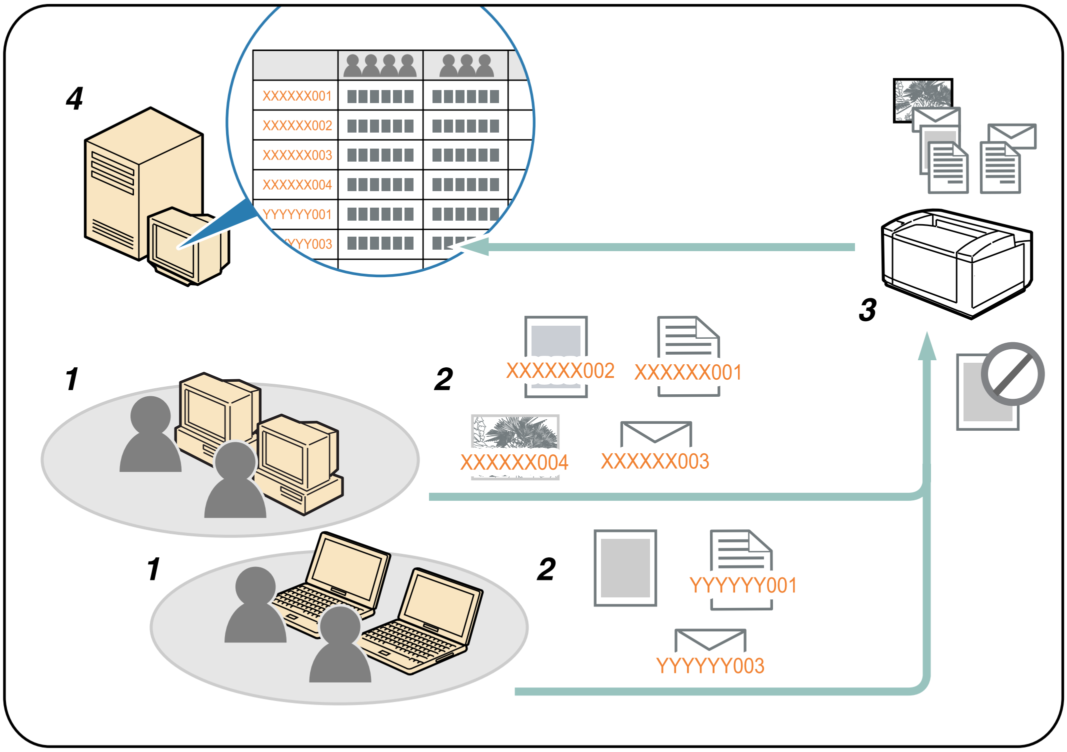
例えば、C:¥HELP¥JA にヘルプファイルをコピーしていた場合、「file:///C:/HELP/」と入力します。また、Web サーバー上にファイルをコピーしていて URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

5 ［OK］をクリックします。

分類コードを登録する

分類コードについて説明します。

分類コードを登録しておくと、分類コードごとの印刷枚数がプリンターに記録されます。この機能を使い、たとえば利用目的や個人ごとに分類コードを設定しておくと、印刷枚数を利用目的や個人ごとに集計して確認することができます。勘定科目ごとの集計やクライアントごとの課金管理などに適しています。



1 管理する部や課、プロジェクトチーム、ユーザーなど

2 利用目的に応じて、分類コードをプリントジョブに入力

3 印刷

4 外部ログ収集システムで分類コードを管理、集計

補足

- 分類コードを入力する方法については、「プリントジョブに分類コードを入力する」を参照してください。
- 分類コードが必須の環境では、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷されません。詳しくは、「分類コードの設定」を参照してください。

参照

- P.91 「プリントジョブに分類コードを入力する」

分類コードの設定

プリントジョブに分類コードを必須とするか任意とするかを、Web Image Monitor で設定します。

重要

- 分類コードを必須に設定した場合、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷できません。
- 分類コードを必須に設定した場合でも、システム設定リストは印刷できます。
- 初期状態は任意に設定されています。

1 **Web Image Monitor に管理者モードでログインします。**

ログイン方法については、「Web Image Monitor からのログインのしかた」を参照してください。

2 **左フレームのメニューから［設定］をクリックします。**

3 **［機器］メニューの中の［ログ］をクリックします。**

4 **［共通設定］カテゴリーの中の［分類コード］をクリックし、［必須］か［任意］をクリックします。**

5 **［OK］をクリックします。**

6 **［ログアウト］をクリックします。**

7 **Web Image Monitor を終了します。**

参照

- P.180 「Web Image Monitor からのログインのしかた」

アドレス帳をバックアップする

Web Image Monitor で、本機のアドレス帳データを保存する方法を説明します。

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web Image Monitor からのログインのしかた」を参照してください。

2 ［アドレス帳］をクリックします。



3 ［メンテナンス］をクリックします。

［メンテナンス］画面が表示されます。

4 暗号鍵を入力し、［バックアップ］をクリックします。

暗号鍵は、アドレス帳暗号化で設定されている暗号鍵を入力します。



詳細は、管理者にお問い合わせください。

5 ［保存］をクリックします。

表示されるメッセージに従って、ファイルを保存します。

6 ［戻る］をクリックします。

7 管理者モードからログアウトします。

8 Web Image Monitor を終了します。

補足

- アドレス帳のバックアップについての詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

参照

- P.177 「Web ブラウザーを使う」

アドレス帳をリストアする

Web Image Monitor で、本機に保存したアドレス帳データを復元する方法を説明します。

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 [アドレス帳] をクリックします。



3 [メンテナンス] をクリックします。

4 [リストア設定] をクリックします。

5 表示されるメッセージに従って、リストアするファイルを指定します。

6 [OK] をクリックします。

アドレス帳のリストアが開始されます。

7 メッセージを確認し、[OK] をクリックします。

8 [戻る] をクリックします。

9 管理者モードからログアウトします。

10 Web Image Monitor を終了します。

補足

- リストアすると、機器に保存されているアドレス帳はリストアするデータで上書きさます。また、ユーザー別のカウンターがクリアされます。
- アドレス帳のリストアについての詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

参照

- P.177 「Web ブラウザーを使う」

5

Ridoc IO Analyzer Lt を使う

Ridoc IO Analyzer Lt はプロトコルを使ってネットワーク上の機器を監視するソフトウェアです。ネットワーク上の複数の機器の管理が可能です。管理者の方がお使いになることをお勧めします。

Ridoc IO Analyzer Lt は、リコーのホームページからダウンロードできます。

http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/related_goods/analyzer/

Ridoc IO Analyzer Lt については、Ridoc IO Analyzer の説明書を参照してください。

重要

- Ridoc IO Admin がインストール済みの環境では、Ridoc IO Analyzer Lt は Ridoc IO Admin に対する上書きアップデートとしてインストールされます。

5

Ridoc IO Navi を使う

Ridoc IO Navi を使って機器を監視する方法の説明です。

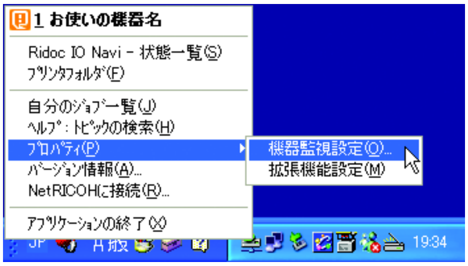
重要

・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

監視する機器を設定する

Ridoc IO Navi で監視する機器を設定する方法の説明です。

1 タスクトレイの Ridoc IO Navi アイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューの［プロパティ］-［機器監視設定］をクリックします。



2 ［Ridoc IO Navi- 設定］ダイアログが表示されます。

3 監視するプリンターをクリックして反転表示させ、［設定］の［監視対象にする］にチェックを付けます。



［タスクバーアイコンに表示する］にチェックを付けると、タスクトレイの Ridoc IO Navi アイコンにプリンターの状態がアイコンで表示されるようになります。

4 ［OK］をクリックします。

ダイアログが閉じ、設定したプリンターが監視の対象に含まれます。

補足

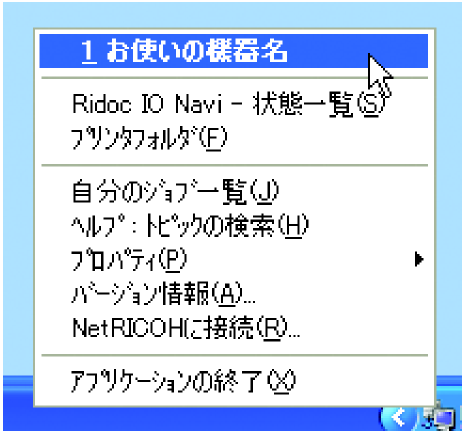
・状態アイコンの詳細についてはヘルプを参照してください。

5

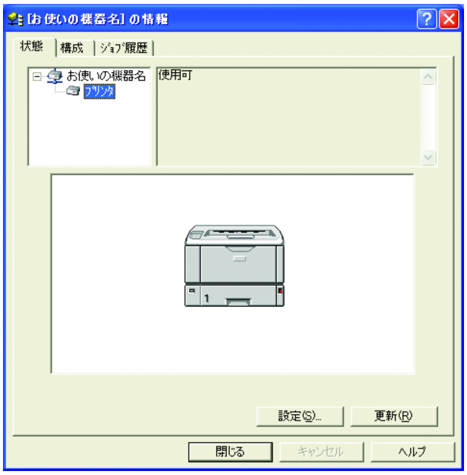
機器の状態を表示する

Ridoc IO Navi で機器の状態を表示する方法の説明です。

1 タスクトレイの右端の Ridoc IO Navi アイコンをマウスの右ボタンでクリックし、状態を知りたい機器をクリックします。



機器の状態が、ダイアログに表示されます。



補足

・ダイアログの各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。

5

Ridoc IO Navi で IPP を使用する場合

Ridoc IO Navi で IPP を使用する際の注意事項です。

- 本機が受け付ける Ridoc IO Navi からの印刷ジョブは、1 件のみです。本機が印刷中のとき、他のユーザーが Ridoc IO Navi を使用して続けて接続しようとしても、先に行っている印刷が完了するまでは接続できません。この場合、後から接続しようとしたユーザーの Ridoc IO Navi は、リトライ設定時間経過ごとに接続を試みます。
- Ridoc IO Navi が本機に接続できずにタイムアウトになると、印刷ジョブが削除されます。この場合、印刷の操作をやり直す必要があります。
- 他のパソコンから出された印刷ジョブは、プロトコルにかかわらず、プリンターのアイコンをダブルクリックして開くウィンドウに表示されません。
- 複数のユーザーが Ridoc IO Navi を使用して印刷しようとした場合、本機に接続しようとした順に印刷が始まらない場合があります。
- IPP の印刷ポート名に IP アドレスは使用できません。Ridoc IO Navi がポート名として IP アドレスを使用するため、ポートの競合が発生します。
- SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。
- 本機にアクセスするとき、[セキュリティの警告] が表示された場合、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、[証明書のインポートウィザード] で証明書ストアの場所は、[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択し、[信頼されたルート] の [ローカルコンピュータ] を選択します。

補足

- SSL（暗号化通信）について詳しくは、管理者にお問い合わせください。

5

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態を通知することができます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

重要

- メールソフトによっては、メールを受信したときに、フィッシングの警告が出る可能性があります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照の上、送信者を警告対象外に設定してください。
- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

本機のメール通知機能は次の２種類です。

♦ 自動メール通知

あらかじめ設定したメールアドレスに、機器の状態などをメールで自動通知する機能です。

♦ 要求時メール通知

管理者からの要求に応じて、機器の状態などをメールで通知する機能です。

アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。

自動メール通知で設定できるものは、以下の通りです。

- サービスコールが発生した場合
- 紙づまりがおきた場合
- カバーオープンが検知された場合
- 紙がなくなった場合
- 紙の残りがわずかになった場合
- 給紙トレイでエラーが発生した場合
- 排紙トレイが満杯になった場合
- ユニットの接続にエラーが発生した場合
- 拡張 HDD の文書保存領域が満杯に近づいた場合
- ログエラーになった場合
- アクセス攻撃を受けた場合
- ユニットの交換時期になった場合
- ユニットの交換時期が近づいた場合
- カートリッジの交換時期になった場合
- カートリッジの交換時期が近づいた場合

1 **本機の操作部を使用して、［システム設定］メニューの［自動メール通知］を［する］に設定します（工場出荷時は［する］に設定されています）。**

2 **Web ブラウザーを起動し、アドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力します。

Web Image Monitor のトップページが表示されます。

3 Web Image Monitor のトップページで、［ログイン］をクリックします。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

5 画面左のメニューから［設定］をクリックし、［機器］エリアの［メール］をクリックします。

6 設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。

- 管理者メールアドレス：機器に問題が発生した場合や消耗品の交換が必要な場合に、メール通知をする宛先の設定を行います。
- 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
  SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「メールの認証について」を参照してください。
- POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
  POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「メールの認証について」を参照してください。
- POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- メール受信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- メール通知アカウント欄の各項目：要求時メール通知を使用する場合は設定を行います。

7 ［OK］をクリックします。

メール通知用アカウントの設定

メール通知用アカウントの設定について説明します。
「自動メール通知」と「要求時メール通知」を使用するためには、あらかじめメール通知用アカウントを設定する必要があります。Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1 ［機器］メニューの［メール］をクリックします。

2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
- メール通知ユーザー名：メールの送信者として管理者のユーザー名を入力します。
- メール通知パスワード：メール通知ユーザーのパスワードを設定します。

3 ［OK］をクリックします。

4 ［ログアウト］をクリックします。

5 Web Image Monitor を終了します。

補足

- メール通知用アカウントでは、ファクスメールアカウントと同じユーザー名とメールアドレスが使えません。

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

♦ **SMTP 認証の場合**

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

1) Web Image Monitor に管理者としてログインし、左フレーム内の［設定］をクリックし、［機器］メニューの［メール］をクリックします。
2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
   - SMTP サーバー名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。
   - SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で用いられるポート番号は「25」です。
   - SMTP 認証：SMTP 認証のする／しないを指定します。
   - SMTP　認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
   - SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に@ realmID の形式で追加してください。
   - SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
   - SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。
     ［自動選択］：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
     ［有効］：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
     ［無効］：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。
3) ［OK］をクリックします。
4) ［ログアウト］をクリックします。
5) Web Image Monitor を終了します。

♦ **POP before SMTP 認証の場合**

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

1) 左フレーム内の［設定］をクリックし、［機器］メニューの［メール］をクリックします。
2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
   - POP before SMTP: POP before SMTP 認証のする／しないを設定します。
   - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
   - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
   - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
   - POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。
3) ［OK］をクリックします。
4) ［ログアウト］をクリックします。
5) Web Image Monitor を終了します。

「自動メール通知」の設定

「自動メール通知」の設定について説明します。

1 Web Image Monitor に管理者としてログインします。

2 左フレーム内の［設定］をクリックし、［機器］メニューの［自動メール通知］をクリックします。

通知項目に関する設定画面が表示されます。



3 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 通知先グループの各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
- 項目ごとの通知先の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。
  項目の詳細を設定する場合は、［各項目の詳細設定］の［編集］をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して［OK］をクリックします。

4 ［OK］をクリックします。

5 ［ログアウト］をクリックします。

6 Web Image Monitor を終了します。

補足

- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

「要求時メール通知」の設定

「要求時メール通知」の設定について説明します。

1 **Web Image Monitor に管理者としてログインします。**

2 **左フレーム内の［設定］をクリックし、［機器］メニューの［要求時メール通知］をクリックします。**

通知項目に関する設定画面が表示されます。



3 **設定画面に示された項目を設定します。**

- 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 機器状態情報通知の制限 ： 機器の設定内容や状態などの情報へのアクセスを制限するかどうか選択します。
  「有効」を選択すると、要求があっても返信メールを送信しません。
  「無効」を選択すると、要求があれば返信メールを送信します。
- 受信可能メールアドレス／ドメイン設定の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。

4 **［OK］をクリックします。**

5 **［ログアウト］をクリックします。**

6 **Web Image Monitor を終了します。**

補足

- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

5

要求メールの書式について

要求メールの書式について説明します。
要求時メール通知機能を使用するためには、定められた書式の要求メールを本機に対して送信する必要があります。
要求メールは、お使いのメールソフトにて以下の書式で記述してください。

項目	記述内容
Subject（メールソフトでは「件名」などと表示される部分）	requeststatus
From（メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分）	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

補足

- Subject の記述では、アルファベットの大文字・小文字を区別しません。
- 要求メールの本文には意味がありません。記述した内容はすべて無視されます。
- 要求メールの大きさは最大 1MB です。

telnet を使う

telnet を使ってプリンターの状態や設定内容を確認や、各種の設定を行うことができます。

重要

- リモートメンテナンス（mshell）はセキュリティーを確保するため、パスワードを設定して運用してください。
- パスワードは Web ブラウザーによる設定（Web Image Monitor）で使用するパスワードと共通です。mshell 上でパスワードを変更すると、他のパスワードも変更されます。

操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順についての説明です。

重要

- リモートメンテナンスを同時に複数のユーザーが使用することはできません。
- Windows Vista をご使用の場合は、telnet クライアントおよび telnet サーバーを有効にしてからお使いください。

5

1 本機の IP アドレス（またはホスト名）を引数にして telnet を起動します。

```
% telnet 本機のIPアドレス（またはホスト名）
```

2 ログイン名とパスワードを入力します。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ログイン名にはログインユーザー名を、パスワードにはログインパスワードを入力してログインします。

3 コマンドを入力します。

4 telnet を終了します。

```
msh> logout
```

設定が変更されていると変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5 変更内容を保存するときは「yes」と入力し、[Enter] キーを押します。

変更内容を保存しないときは「no」と入力し、[Enter] キーを押します。コマンド入力を続けるときは「return」と入力し、[Enter] キーを押します。

補足

- 「Can not write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されていません。もう一度操作し直してください。
- 変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェースボードがリセットされます。
- リセットしても Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。

8021x

IEEE 802.1x 関連パラメータの表示、設定は 8021x コマンドを使用します。

♦ 関連パラメーターの設定一覧（カレント値）の表示

```
msh> 8021x
```

♦ EAP タイプ及びフェイズ 2 メソッドの指定

```
msh> 8021x eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}
```

- 最後の引数は､その前の引数で[ttls]を指定した場合には[chap][mschap][mschapv2][pap][md5]が、[peap] を指定した場合には [mschapv2][tls] が指定できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

♦ ユーザー名の指定

```
msh> 8021x usename ユーザー名
```

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

♦ フェイズ 2 ユーザー名の指定

```
msh> 8021x username2 ユーザー名
```

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

♦ ドメイン名の指定

```
msh> 8021x domain ドメイン名
```

- ドメイン名は、[@] と [¥] をのぞいた半角英数と表示可能な半角記号で最大 64 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

♦ パスワードの指定

```
msh> 8021x password パスワード
```

- パスワードは、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

♦ サーバー証明書の認証を設定

```
msh> 8021x srvcert {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

♦ サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可を指定

```
msh> 8021x imca {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

♦ サーバー ID の指定

```
msh> 8021x srvid サーバー ID
```

- サーバー ID は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

♦ サブドメイン許可の指定

```
msh> 8021x subdomain {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

♦ ユーザー名の消去

```
msh> 8021x clear username
```

♦ **フェイズ 2 ユーザー名の消去**

```
msh> 8021x clear username2
```

♦ **ドメイン名の消去**

```
msh> 8021x clear domain
```

♦ **パスワードの消去**

```
msh> 8021x clear password
```

♦ **サーバー ID の消去**

```
msh> 8021x clear srvid
```

♦ **IEEE 802.1X 関連パラメーターの初期化**

```
msh> 8021x clear all
```

- 初期化しても IEEE 802.1X 認証有効化設定（イーサネット、無線 LAN 共に）は消去されません。

access

アクセスコントロールの表示と設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

♦ **現在の設定の表示**

```
msh> access
```

♦ **IPv4 アクセスレンジの表示（エントリ番号指定）**

```
msh> access 対象 ID range
```

♦ **IPv6 アクセスレンジの表示（エントリ番号指定）**

```
msh> access 対象 ID range6
```

♦ **IPv6 アクセスマスクの表示（エントリ番号指定）**

```
msh> access 対象 ID mask6
```

♦ **IPv4 のアクセスレンジの設定**

```
msh> access 対象 ID range 開始アドレス　終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

```
msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

♦ **IPv6 のアクセスレンジの設定**

```
msh> access 対象 ID range6 開始アドレス　終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

```
msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

♦ **IPv6 のアクセスマスクの設定**

```
msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
```

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

```
msh> access 1 mask6 2001:DB8:: 32
```

♦ **アクセスコントロールの初期化**

```
msh> access flush
```

・アクセスコントロールの初期化は、全てのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻してください。IPv4 環境では「0.0.0.0」、IPv6 環境では「::」となります。

補足

- IPv6 の各エントリは、レンジ方式かマスク方式のいずれかで設定でき、レンジ指定方式の場合は、" 始点アドレス - 終点アドレス "、マスク指定方式の場合は、" 基準アドレス / マスク長 " という形式で表示されます。
- アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使って制限するためのものです。印刷を制限する必要がない場合は、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きい場合、設定は無効となります。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1〜5 の 5 件が設定できます。
- IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- IPv6 のマスク長は 1〜128 の範囲で指定できます。
- 制限された IP アドレスからは、印刷の送信、および Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

5

authfree

認証限定制御の情報表示、設定は authfree コマンドを使用します。

♦ **現在の認証限定情報を表示**

```
msh> authfree
```

♦ **IPv4 ／ IPv6 の認証限定情報を表示**

```
msh> authfree 対象 ID
```

♦ **IPv4 のアクセスレンジの認証限定情報を表示**

```
msh> authfree 対象 ID range アドレス 1 range アドレス 2
```

♦ **IPv6 のアクセスレンジの認証限定情報を表示**

```
msh> authfree 対象 ID range6 アドレス 1 range6 アドレス 2
```

♦ **IPv6 のアクセスマスクの認証限定情報を表示**

```
msh> authfree 対象 ID mask6 アドレス masklen
```

♦ **認証限定となる IPv4 アドレスの範囲を設定**

```
msh> authfree 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv4 アドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

♦ **認証限定となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定**

```
msh> authfree 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

♦ 認証限定となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定

`msh> authfree 対象ID mask6 基準アドレス マスク長`

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

`msh> authfree 対象ID mask6 基準アドレス 2001:DB8:: 32`

♦ IEEE1284 ／ USB の認証限定を設定

`msh> authfree {parallel|usb} {on|off}`

- 認証しない場合は「on」を、する場合は「off」を指定します。
- 工場出荷時の設定は「off」です。

♦ 認証限定の初期化

`msh> authfree flush`

- 認証限定の初期化は、認証限定に関するすべての設定値を工場出荷時に戻します。

補足

- authfree コマンドはプリンタージョブ認証が「認証限定」に設定されている時のみ実行可能です。

autonet

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

`msh> autonet`

♦ AutoNet 機能の設定

`msh> autonet {on|off}`

- AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

♦ 現在のインターフェース優先順位の表示

`msh> autonet priority`

♦ インターフェースの優先設定

`msh> autonet priority インターフェース`

- AutoNet パラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定することができます。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
- 工場出荷時の初期値は「ether」です。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

補足

- 現在のインターフェース優先順位の表示は、複数のインターフェース装着の有無に関わらず、現在の優先順位が表示されます。

bmlinks

BMLinkS の表示や設定は、bmlinks コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> bmlinks
```

♦ BMLinkS の設定

```
msh> bmlinks パラメーター
```

パラメーター	設定される項目
plainonly {on|off}	平文通信強制の設定 デフォルトは off に設定されています。[*1]
paused {always|selectable|none}	Paused Print（機密印刷）の動作方式 デフォルトは selectable に設定されています。[*2]
timeout [30〜65535]	印刷データ受信タイムアウト時間（秒）を設定 デフォルトは 900 に設定されています。
devicename	ネットワーク共通名を表示、設定します。
country 文字列	国名情報を設定します。 デフォルトは JP です。
orgnz 文字列	会社／組織名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
branch 文字列	支店名情報を設定します。 デフォルトでは off に設定されています。
building 文字列	ビル名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
floor 文字列	階数情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
block 文字列	ブロック名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
clear country	国名をクリアします。
clear orgnz	会社／組織名をクリアします。
clear branch	部門名をクリアします。
clear building	ビル名をクリアします。
clear floor	階数をクリアします。
clear block	ブロック名をクリアします。

[*1] 機器共通設定の「SSL/TLS」が有効で、「暗号化通信モード」が暗号化優先あるいは暗号化／平文の場合のみこの設定が機能します。

[*2] 動作方式は「always：機密印刷のみ可能」、「none：通常印刷のみ可能」、「selectable：機密印刷と通常印刷の両方が可能」です。

bonjour

Bonjour 関連の表示と設定は、bonjour コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> bonjour
```

♦ サービス名の設定

```
msh> bonjour cname 文字列
```

・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

♦ 設置場所情報の設定

```
msh> bonjour location 文字列
```

・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

♦ プロトコルごとの優先順位の設定

```
msh> bonjour diprint [0～99]
msh> bonjour lpr [0～99]
msh> bonjour ipp [0～99]
```

・diprint、lpr、ipp それぞれの優先度を設定します。数字が小さいほど優先度が高くなります。初期値は diprint 10、lpr 20、ipp 30 です。

♦ IP TTL 値の設定

```
msh> bonjour ipttl [1～255]
```

・IP TTL 値（越えられるルーターの数）を設定します。初期値は 255 です。

♦ サービス名と設置場所情報のリセット

```
msh> bonjour clear {cname|location}
```

・cname を指定するとコンピューター名をリセットします。本機を再起動すると、コンピューター名の表示は初期値になります。
・location を指定すると設置場所情報をリセットします。設置場所情報の表示は空欄になります。

♦ インターフェースの設定

```
msh> bonjour linklocal インターフェース名
```

・インターフェース名を省略した場合は、現在の設定値を表示します。
・複数のインターフェースが装着されている場合に、linklocal アドレスとの通信を行うインターフェースを設定します。
・この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

♦ IPP Advertising Port 番号の選択

```
msh>bonjour ippport {ipp|ssl}
```

・ssl の場合は、_ipp._tcp のポート番号を 443 として広告します。
・ipp の場合は、_ipp._tcp のポート番号を 631 として広告します。

5

devicename

本体名の表示や設定は、devicename コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> devicename
```

♦ 本体名の設定

```
msh> devicename name 文字列
```

・本体名は 31 バイト以下で指定します。

・1 台の機器に複数の本体名を設定することはできません。

♦ 本体名の初期化

```
msh> devicename clear name
```

・本体名を工場出荷時の設定に戻します。

5

dhcp

DHCP の設定は、dhcp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> dhcp
```

♦ DHCP 機能の設定

```
msh> dhcp インターフェース {on|off}
```

・DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

・DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得する場合、必ず「on」に設定してください。

・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

♦ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> dhcp priority
```

♦ インターフェースの優先設定

```
msh> dhcp priority インターフェース
```

・DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して利用するかを設定します。

・優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

♦ DNS サーバーアドレスの選択

```
msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}
```

・DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。

・DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

♦ **ドメイン名の選択**
```
msh> dhcp domainname {dhcp|static}
```
・ドメイン名をDHCPサーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
・ドメイン名を DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

参照

・P.210 「dns」
・P.211 「domainname」
・P.304 「DHCPを使用する」

dhcp6

dhcp6関連パラメーターの表示、設定は、dhcp6コマンドを使用します。

♦ **dhcp6情報の表示**
```
msh> dhcp6
```

♦ **dhcp6-liteの有効・無効の設定と表示**
```
msh> dhcp6 インターフェース名 lite {on|off}
```

♦ **DNSサーバーアドレスの選択（dhcp6サーバーからの取得値・ユーザー設定値）の設定と表示**
```
msh> dhcp6 dnsaddr {dhcp|static}
```

♦ **DUID（dhcpユニークID）の削除と表示**
```
msh> dhcp6 duid clear
```

♦ **dhcp6で取得したパラメーターを再度取得するまでの時間の設定と表示**
```
msh> dhcp6 option lifetime [0～65535]
```
・設定範囲は0から65535分です。
・初期値は60分です。
・0をセットすると再取得することができません。

diprint

コンピュータから直接印刷を行うことができるダイレクトプリントポートの表示と設定は、diprintコマンドを使用します。

♦ **現在の設定の表示**
```
msh> diprint
```
次の設定値が表示されます。
```
port 9100
timeout = 300 (sec)
bidirect on
conn multi
apl async
```
・「port」使用するポート番号が表示されます。
・「bidirect」ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

5

♦ タイムアウトの設定

```
msh> diprint timeout [30～65535]
```

・ネットワークからデータを受信する際のタイムアウト時間を設定できます。
・工場出荷時の設定値は「300（秒）」です。
・lpr コマンドにおいても、ここで設定した時間が使用されます。

♦ 同時接続数の設定

```
msh> diprint conn {multi|single}
```

・diprint の同時接続数を multi（複数）か single（1）か設定します。
・工場出荷時の設定値は「multi」です。

dns

DNS（Domain Name System）の表示や設定は、dns コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> dns
```

5

♦ IPv4 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象ID server アドレス
```

・IPv4 による DNS サーバーアドレスを設定します。
・対象 ID は 1～3 までです。3 件まで登録できます。
・「255.255.255.255」は設定できません。

♦ IPv6 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象ID server6 アドレス
```

・IPv6 による DNS サーバーアドレスを設定します。
・対象 ID は 1～3 までです。3 件まで登録できます。

♦ ダイナミック DNS 機能の設定

```
msh> dns  インターフェース ddns {on|off}
```

・ダイナミック DNS 機能の有効／無効を指定します。
・ダイナミック DNS 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

♦ レコード重複時の動作指定

```
msh> dns overlap {update|add}
```

・レコードが重複したときの動作を指定します。
・update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
・add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
・CNAME の重複の場合は、設定にかかわらず更新を行います。

♦ CNAME の登録

```
msh> dns cname {on|off}
```

- CNAME を登録するかどうかを指定します。
- CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- 登録される CNAME は RNP からはじまるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

♦ A レコードの登録

```
msh> dns arecord {dhcp|own}
```

- dhcp は本機を代行して、DHCP サーバーが DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。
- own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。登録には、「DHCP」で指定した「DNS サーバーアドレスの選択」および「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

♦ レコードの更新間隔の設定

```
msh> dns interval 更新間隔時間
```

- ダイナミックDNS機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。
- 更新間隔を 1 時間単位で指定します。1〜255 の間で指定します。
- 初期値は「24」です。

♦ resolv.conf の表示

```
msh> dns resolv
```

- resolv.conf の表示を行います。

♦ デュアルスタック時に名前解決の問い合わせに利用するプロトコルの設定

```
msh> dns resolv protocol {ipv4|ipv6}
```

- デュアルスタック時のみ表示されます。

5

domainname

ドメイン名の表示や設定は、domainname コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> domainname
```

♦ 現在の各インターフェースのドメイン名表示

```
msh> domainname インターフェース
```

♦ 各インターフェースのドメイン名設定

```
msh> domainname インターフェース name ドメイン名
```

- ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- イーサネットインターフェースと拡張無線 LAN ボードは同じドメイン名になります。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

♦ 各インターフェースのドメイン名削除

```
msh> domainname インターフェース clear name
```

etherauth

Ethernet での認証関連パラメーターの表示は、etherauth コマンドを使用します。

♦ **認証関連パラメーターの表示**

```
msh> etherauth 8021x {on|off}
```

etherconfig

イーサネットインターフェース速度の表示と設定の変更はetherconfigコマンドを使用します。

♦ **現在の設定値の表示**

```
msh> etherconfig
```

♦ **イーサネットインターフェース速度の設定**

```
msh> etherconfig speed {auto|10f|10h|100f|100h}
```

・auto = 自動
・10f = 10 Mbps 全二重
・10h = 10 Mbps 半二重
・100f = 100 Mbps 全二重
・100h = 100 Mbps 半二重

初期値は auto です。

help

使用できるコマンドの一覧および使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

♦ **コマンド一覧の表示**

```
msh> help
```

♦ **コマンド使用方法の表示**

```
msh> help コマンド名
```

hostname

ホスト名を表示、変更するには、hostname コマンドを使用します。

♦ **現在の設定の表示**

```
msh> hostname
```

♦ **現在の各インターフェースのホスト名表示**

```
msh> hostname インターフェース
```

◆ **各インターフェースのホスト名の設定**

```
msh> hostname インターフェース name ホスト名
```

・ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
・RNP ではじまる名前は、大文字、小文字が混ざった場合でも設定できません。
・イーサネットインターフェースと拡張無線 LAN ボードは同じホスト名になります。
・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
・インターフェース名を省略した場合、イーサネットのインターフェース名が設定されます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

◆ **各インターフェースのホスト名の初期化**

```
msh> hostname インターフェース clear name
```

5

ifconfig

TCP/IP の、IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスの表示と設定、およびデフォルトゲートウェイアドレスの表示は、ifconfig コマンドを使用します。

◆ **現在の設定値の表示**

```
msh> ifconfig
```

◆ **IPv4 アドレスの設定**

```
msh> ifconfig インターフェース アドレス
```

・この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

（例）イーサネットインターフェースの IP アドレスを 192.168.15.16 に設定する

```
msh> ifconfig ether 192.168.15.16
```

◆ **IPv6 アドレスの設定**

```
msh>ifconfig インターフェース名 inet6 アドレス プレフィックス長
```

（例）イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

```
msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64
```

◆ **ネットマスクの設定**

```
msh> ifconfig インターフェース名 netmask アドレス
```

（例）イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

```
msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0
```

♦ **ブロードキャストアドレスの設定**

```
msh> ifconfig インターフェース名 broadcast アドレス
```

♦ **インターフェース切り替え**

```
msh> ifconfig インターフェース名 up
```

（例）接続時にイーサネットを使用する

```
msh> ifconfig ether up
```

- 拡張無線 LAN ボード接続時に、イーサネットと無線 LAN のどちらを使用するか指定することができます。

補足

- 設定するアドレスは管理者に確認してください。
- 設定するアドレスがわからないときは、工場出荷時の設定のままご使用ください。
- IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスはイーサネットインターフェース、拡張無線 LAN ボード共通です。
- TCP/IP の設定はイーサネットインターフェースと拡張無線 LAN ボードで共通です。インターフェースの切り替えを行った場合、設定は切り替えたインターフェースが引き継ぎます。
- IPv4 アドレスを 16 進形式で設定する場合は先頭に「0x」を付けてください。

5

info

給紙トレイ、排紙トレイ、およびエミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

♦ **機器情報の表示**

```
msh> info
```

参照

- P.237 「ネットワーク経由で確認できる情報」

ipp

IPP の使用環境の表示、設定は、IPP コマンドを使用します。

♦ **現在の設定値の表示**

```
msh> ipp
```

♦ **タイムアウトの設定**

```
msh> ipp timeout [30〜65535]
```

- 印刷データが途切れた場合に、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30〜65535 秒です。

♦ **IPP ユーザー認証方式の設定**

```
msh> ipp auth {basic|digest|off}
```

- IPP ユーザー認証を行って、IPP を使って印刷できるユーザーを制限することができます。工場出荷時はユーザー設定を行わない設定になっています。
- basic または digest で、認証を行います。
- ユーザー認証を行うように指定した場合、ユーザー名の登録を行ってください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

♦ **IPP ユーザー名の登録**

```
msh> ipp user
```

メッセージにしたがって設定します。

```
msh> Input user number (1 to 10) :
```

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

```
msh> IPP user name:user1
msh> IPP password:*******
```

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

```
User configuration changed
```


ipsec

IPsec 関連パラメーターの表示と設定は、ipsec コマンドを使用します。

♦ **関連パラメーターの表示**

```
msh> ipsec
```

♦ **手動 SA モードの表示／設定**

```
msh> ipsec manual_mode
```

♦ **IPsec の対象から除外するプロトコルの表示／設定**

```
msh> ipsec exclude
```

♦ **手動 SA のパラメーターの表示／設定**

```
msh> ipsec manual
```

♦ **IKE パラメーターの表示／設定**

```
msh> ipsec ike
```

♦ **IPsec 関連のすべてのパラメーターの初期化**

```
msh> ipsec clear_init
```

ipv6

IPv6 の使用環境の表示、設定は、ipv6 コマンドを使用します。

♦ **現在の設定の表示**

```
msh> ipv6
```

♦ **ステートレスアドレスの有効／無効設定**

```
msh> ipv6 stateless {on|off}
```

logout

telnet を終了します。

♦ telnet の終了

```
msh> logout
```

確認メッセージが表示されます。

```
{yes|no|return}
```

[yes][no][return] のいずれかをフルスペルで入力してください。

- [yes] と入力すると、telnet が終了します。
- [no] と入力すると、telnet が続行します。
- [return] と入力すると、logout の再設定になります。

lpr

LPR の使用環境の表示、設定は、lpr コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> lpr
```

♦ ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効／無効設定

```
msh> lpr chkhost {on|off}
```

- on に設定すると、ジョブを送信した IP アドレスと、ジョブの削除を要求している IP アドレスが一致するかどうかを判定します。一致しなかった場合はジョブの削除要求を受け付けません。
- 工場出荷時の設定値は「on」です。

♦ プリンターエラー検知機能対応の有効 / 無効設定

```
msh> lpr prnerrchk {on|off}
```

- プリンターエラーなどで本機が印刷できない状態のとき、バイトカウントが有効になっていると、TCP ウィンドウサイズより小さなデータサイズのジョブや、host からの転送待ちデータサイズが TCP ウィンドウサイズ以下のジョブを重複して受信してしまうことがあります。on に設定すると、本機が印刷できる状態になるまでジョブを受信しません（PCFAX の送信も行えなくなります）。
- 工場出荷時の設定値は「off」です。

passwd

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

♦ パスワードの変更

```
msh> passwd
```

- [Old password:] が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

♦ スーパーバイザーによる各管理者のパスワード変更

```
msh> passwd 管理者ID
```

- [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

補足

- パスワードは控えを取るなどして忘れないようにしてください。
- 入力できるのは半角英数字と表示可能な半角記号で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。

pathmtu

PathMTU Discovery サービス機能の表示、設定は、pathmtu コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> pathmtu
```

♦ PathMTU Discovery サービス有効 / 無効の切替設定

```
msh> pathmtu {on|off}
```

- 工場出荷時は「ON」になっています。
- 送信データの MTU サイズが、ルーターの MTU より大きいと、ルーターから通過不可と通知され、送信に失敗することがあります。「ON」に設定をしていると、MTU サイズを最適化してデータ送信の失敗を避けることができます。
- 環境によってはルーターからの通知が得られず、データ送信に失敗することがあります。その場合は設定を「OFF」にして、PathMTU Discovery サービスを無効にしてください。

prnlog

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

♦ プリントログ情報の表示

```
msh> prnlog
```

- これまでに印刷したプリントログ情報が表示されます。

```
msh> prnlog ID番号
```

- 表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

参照

- P.237 「ネットワーク経由で確認できる情報」

5

rhpp

rhpp プロトコル情報の表示、設定は rhpp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> rhpp
```

♦ 使用するポート番号の変更

```
msh> rhpp [1024～65535]
```

デフォルト値は 59100 です。

♦ タイムアウトの設定（秒）

```
msh> rhpp timeout [30～65535]
```

デフォルト値は 300（秒）です。

補足

- rhpp は RICOH Host Printing Protocol の略で、リコー独自のプロトコルです。

route

TCP/IP ルーティングテーブルの表示と設定は、route コマンドを使用します。

♦ IPv4 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get {destination}
```

- destination は IPv4 のアドレスを指定します。
  destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。

♦ 指定された IPv4 の destination の有効／無効の切り替え設定

```
msh> route active {host|net} destination {on|off}
```

- {host|net} 省略時は host 設定となります。

♦ IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add {host|net} destination gateway
```

- destination で表される host(または network)ルートおよび gateway で表される gateway アドレスをテーブルに追加します。
- destination および gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
- {host|net} 省略時は host 設定となります。
- destination が 0.0.0.0 のレコードは登録できません。

♦ IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add default gateway
```

♦ IPv4 のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete {host|net} destination
```

- {host|net} 省略時は host 設定となります。
- destination は IPv4 のアドレスを指定します。

♦ IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add6 default gateway
```

♦ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add6 destination prefixlen [1~128] gateway
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。
- 宛先は prefixlen が 1～127 の場合はネットワーク指定、128 の場合はホスト指定となります。
- destination と prefixlen の両方が登録済みレコードと一致する場合は登録できません。
- destinationが::(0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000)のレコードは登録できません。

♦ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete6 {destination} prefixlen
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

♦ IPv6 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get6 {destination}
```

- destination は IPv6 のアドレスを指定します。

♦ 指定された IPv6 の destination の有効／無効の切り替え設定

```
msh> route active6 destination prefixlen {on|off}
```

♦ 全 route 情報の削除設定

```
msh> route flush
```

補足

- IPv4 のルーティングテーブルの最大値は 16 です。
- IPv6 のルーティングテーブルの最大値は 2 です。
- ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
- ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通になります。
- Prefixlen は 1～128 の 10 進数です。

5

set

プロトコルの情報の表示、有効／無効の設定は、set コマンドを使用します。

♦ デバイスの情報（有効／無効）の表示

```
msh> set parallel
msh> set usb
```

♦ プロトコルの情報（有効／無効）の表示

```
msh> set ipv4
msh> set ipv6
msh> set ipsec
msh> set appletalk
msh> set smb
msh> set protocol
```

・protocol を指定すると、ipv4、ipv6、appletalk、smb、ipsec の情報を表示します。

```
msh> set lpr
msh> set lpr6
msh> set ftp
msh> set ftp6
msh> set rsh
msh> set rsh6
msh> set diprint
msh> set diprint6
msh> set web
msh> set snmp
msh> set ssl
msh> set ssl6
msh> set nrs
msh> set rfu
msh> set rfu6
msh> set ipp
msh> set ipp6
msh> set http
msh> set http6
msh> set bonjour
msh> set bonjour6
msh> set nbt
msh> set ssdp
msh> set bmlinks
msh> set ssh
msh> set sftp
msh> set sftp6
msh> set wsdev
msh> set wsdev6
msh> set wsprn
msh> set rhpp
msh> set rhpp6
```

◆ **プロトコルの有効／無効の設定**

・プロトコルを有効にするには upを、無効にするには downを指定します。

```
msh> set ipv4 {up|down}
```

・IPv4 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。

・IPv4を無効にするとlpr、ftp、sftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、ipp、http、bonjour、wsdevも使用できなくなります。

```
msh> set ipv6 {up|down}
```

・IPv6 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。

・IPv6　を無効にした場合、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、sftp6、bonjour6、wsdev6も使用できなくなります。

```
msh> set ipsec {up|down}
msh> set appletalk {up|down}
msh> set smb {up|down}
msh> set lpr {up|down}
msh> set lpr6 {up|down}
msh> set ftp {up|down}
msh> set ftp6 {up|down}
msh> set rsh {up|down}
msh> set rsh6 {up|down}
msh> set diprint {up|down}
msh> set diprint6 {up|down}
msh> set web {up|down}
msh> set snmp {up|down}
msh> set ssl {up|down}
msh> set ssl6 {up|down}
```

- 本機に SSL（暗号化通信）の機能が無い場合は、有効に設定しても SSL（暗号化通信）を使用することはできません。

```
msh> set nrs {up|down}
msh> set rfu {up|down}
msh> set rfu6 {up|down}
msh> set ipp {up|down}
msh> set ipp6 {up|down}
msh> set http {up|down}
msh> set http6 {up|down}
msh> set bonjour {up|down}
msh> set bonjour6 {up|down}
msh> set ssh {up|down}
msh> set ssdp {up|down}
msh> set bmlinks {up|down}
msh> set nbt {up|down}
msh> set sftp {up|down}
msh> set sftp6 {up|down}
msh> set wsdev {up|down}
msh> set wsdev6 {up|down}
```

- wsdev と wsdev6 が共に有効の場合、プロトコル情報の表示では共に「up」と表示されますが、WSD （Device）と WSD （Printer）は IPv4 で動作します。

```
msh> set wsprn {up|down}
msh> set rhpp {up|down}
msh> set rhpp6 {up|down}
```

補足

- WSD （Printer）と WSD （Device）を IPv6 で動作させたい場合は、"wsdev down""wsdev6 up" と設定します。

show

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> show
```

- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- SMB　プロトコルでコンピュータ名、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

参照

- P.244 「ネットワークインターフェースボードの情報」

smb

コンピュータ名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定、削除は、smb コマンドを使用します。

♦ コンピュータ名の設定

`msh> smb comp コンピュータ名`

・半角英数 15 文字以下で設定します。

・RNP または rnp ではじまる名前は、大文字小文字が混ざった場合でも設定できません。

♦ ワークグループ名の設定

`msh> smb group ワークグループ名`

・半角英数 15 文字以下で設定します。

♦ コメントの設定

`msh> smb comment コメント`

・半角英数 31 文字以下で設定します。

♦ 印刷完了通知の設定

`msh> smb notif {on|off}`

・印刷完了通知をする場合は on、通知をしない場合は off を指定します。

♦ コンピュータ名の削除

`msh> smb clear comp`

♦ グループ名の削除

`msh> smb clear group`

♦ コメントの削除

`msh> smb clear comment`

♦ プロトコルの表示

`msh> smb protocol`

snmp

コミュニティ名など SNMP に関する表示、設定は、snmp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

`msh> snmp`

・登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。

コミュニティ名：public
IPv4 アドレス：0.0.0.0
IPv6 アドレス：::
アクセスタイプ：read-only
有効プロトコル：IPv4/IPv6

5

・登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
コミュニティ名：ricoh
IPv4 アドレス：0.0.0.0
IPv6 アドレス：::
アクセスタイプ：read-write
有効プロトコル：IPv4/IPv6
・-p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
・登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティ設定内容を表示します。

♦ SNMP 情報と使用可能なプロトコルの表示

```
msh> snmp ?
```

♦ コミュニティ名の設定

```
msh> snmp 登録番号 name コミュニティ名
```

・設定できる登録番号は 1〜10 です。
・コミュニティ名は英数半角 15 文字以下で設定します。

♦ コミュニティ名の削除


```
msh> snmp 登録番号 clear name
```

♦ アクセスタイプの設定

```
msh> snmp 登録番号 type アクセスタイプ
```

アクセスタイプ	設定される内容
no	アクセスできません（not accessible）
read	情報の読み出しのみ可能（read-only）
write	情報の読み出しと書き込みが可能（read-write）
trap	エラー情報を通知（trap）

♦ プロトコルの設定

```
msh> snmp {ipv4|ipv6} {on|off}
```

・使用可能なプロトコルを選択します。
・プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
・すべてのプロトコルを同時に Off にすることはできません

♦ 登録番号ごとのプロトコルの設定

```
msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6} {on|off}
```

・登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

♦ アクセス設定

```
msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6} アドレス
```

・使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。
・「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定したときは、IPv4、IPv6 の場合、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
・「アクセスタイプ」を「trap」に設定したときは、IPv4、IPv6 の場合、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
・IPv4 を使用するときはアドレスとして IPv4 アドレスを、IPv6 を使用するときは IPv6 アドレスを入力します。

◆ sysLocationの設定

```
msh> snmp location 文字列
```

◆ sysLocationの削除

```
msh> snmp clear location
```

◆ sysContactの設定

```
msh> snmp contact 文字列
```

◆ sysContactの削除

```
msh> snmp clear contact
```

◆ SNMP v1v2機能の設定

```
msh> snmp v1v2 {on|off}
```

・有効にする場合はon、無効にする場合はoffを指定します。

◆ SNMP v3機能の設定

```
msh> snmp v3 {on|off}
```

・有効にする場合はon、無効にする場合はoffを指定します。

◆ SNMP TRAPの設定

```
msh> snmp trap {v1|v2|v3} {on|off}
```

・有効にする場合はon、無効にする場合はoffを指定します。

◆ リモート設定許可の設定

```
msh> snmp remote {on|off}
```

・SNMP v1, v2での設定を有効にする場合はon、無効にする場合はoffを指定します。

◆ SNMP v3 TRAPの設定値の表示

```
msh> snmp v3trap
msh> snmp v3trap [1~5]
```

・1~5までの数字を設定すると、その番号の設定値のみ表示します。

◆ SNMP v3 TRAP送信先アドレスの設定

```
msh> snmp v3trap [1~5] {ipv4|ipv6} アドレス
```

◆ SNMP v3 TRAP送信プロトコルの設定

```
msh> snmp v3trap [1~5] active {ipv4|ipv6} {on|off}
```

◆ SNMP v3 TRAPユーザーアカウントの設定

```
msh> snmp v3trap [1~5] account アカウント名
```

・アカウント名は英数半角32文字以下で設定します。

◆ SNMP v3 TRAPユーザーアカウントの削除

```
msh> snmp v3trap [1~5] clear account
```

◆ SNMP v3暗号アルゴリズムの設定

```
msh> snmp v3auth {md5|sha1}
```

◆ SNMP v3暗号化の設定

```
msh> snmp v3priv {auto|on}
```

・autoを設定すると、暗号化可能な場合に暗号化されます。
・onを設定すると、平文通信は不可能となり、暗号化可能な場合のみ通信ができます。

補足

・暗号化可能な場合とは、本機に暗号パスワードが設定されている状態を指します。

5

sntp

SNTP の表示、設定は、sntp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> sntp
```

♦ NTP サーバーの IPv4 アドレスの設定

```
msh> sntp server アドレス
```

♦ NTP サーバーのホスト名の設定

```
msh> sntp server ホスト名
```

♦ NTP サーバーの設定のクリア

```
msh> sntp server clear
```

♦ インターバルの設定

```
msh> sntp interval インターバル値
```

- 設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は「60（分）」です。
- 設定できる値は 0、15〜10080（分）です。
- 0 を設定した場合には、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。

♦ タイムゾーンの設定

```
msh> sntp timezone +/−時間
```

- NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値は−12:00〜+13：00 です。

補足

- ntp サーバーには IPv4 アドレスまたはホスト名のどちらか一方のみ設定できます。

5

spoolsw

スプール印刷の表示、設定は、spoolsw コマンドを使用します。スプール印刷設定は diprint、lpr、ipp、SMB（TCP/IP(IPv4)）、BMLinkS、WSD （Printer）、ftp、および sftp プロトコルに対応しています。

♦ **現在の設定の表示**

```
msh> spoolsw
```

♦ **スプール印刷機能の設定**

```
msh> spoolsw spool {on|off}
```

・スプール印刷機能を有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
工場出荷時の設定は「off」です。

♦ **ジョブの初期化の設定**

```
msh> spoolsw clearjob {on|off}
```

・スプールされたジョブの印刷中に本機の電源が切られた場合、本機の電源を再投入したときに、それまでスプールしていたジョブを初期化するかどうか指定します。off の場合はジョブを初期化せずに印刷を再開します。
・工場出荷時の設定値は「off」です。

♦ **プロトコルの設定**

```
msh> spoolsw diprint {on|off}
msh> spoolsw lpr {on|off}
msh> spoolsw ipp {on|off}
msh> spoolsw smb {on|off}
msh> spoolsw bmlinks {on|off}
msh> spoolsw ftp {on|off}
msh> spoolsw sftp {on|off}
msh> spoolsw wsprn {on|off}
```

・プロトコルごとにスプール印刷機能の有効、無効を設定します。
・工場出荷時の設定値は全て「on」です。

ssdp

SSDP 関連パラメーターの表示、設定は、ssdp コマンドを使用します。

♦ **現在の設定の表示**

```
msh> ssdp
```

♦ **有効時間の設定**

```
msh> ssdp profile [1801〜86400]
```

・工場出荷時の設定値は「10800（秒）」です。

♦ **Advertise パケットの TTL の設定**

```
msh> ssdp ttl [1〜255]
```

・工場出荷時の設定値は「4」です。

5

ssh

SSH および SFTP 関連パラメーターの表示と設定は、ssh コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の一覧表示

```
msh> ssh
```

♦ データ圧縮通信の設定

```
msh> ssh compression {on|off}
```

- 工場出荷時の設定値は「on」です。

♦ ssh ／ sftp で通信するポートの設定

```
msh> ssh port [22,1024〜65535]
```

- 工場出荷時の設定値は「22」です。

♦ ssh ／ sftp で通信する際のタイムアウト確認（生存確認）の時間設定

```
msh> ssh timeout [0〜65535]
```

- 工場出荷時の設定値は「300」です。

♦ ssh ／ sftp で通信する際のログインタイムアウトの時間設定

```
msh> ssh logintimeout [0〜65535]
```

- 工場出荷時の設定値は「300」です。

♦ ssh ／ sftp で通信する際の公開鍵、公開鍵鍵長（Keylength）の作成

```
msh> ssh genkey {512|768|1024} 複雑化文字列（Salt）
```

- 工場出荷時の設定値は公開鍵鍵長（Keylength）が「1024」、複雑化文字列は「NULL（無）」です。
- 使用できる文字列は、ASCII（0x20〜0x7e）文字列です。
- パラメーター省略時は初期値で公開鍵を作成します。

♦ ssh ／ sftp で通信する際の公開鍵の削除

```
msh> ssh delkey
```

補足

- 設定値を省略した場合は、現在の設定を表示します。
- ssh を使用できるのは sftp のみです。

status

本機の状態（ステータス）と印刷ジョブの情報（プリントジョブ情報）の表示は、status コマンドを使用します。

♦ 表示

```
msh> status
```

参照

- P.237 「ネットワーク経由で確認できる情報」

syslog

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

◆ メッセージの表示

```
msh> syslog
```

参照

・P.251 「メッセージ一覧」

upnp

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示、設定は、upnp コマンドを使用します。

◆ 公開 URL の表示

```
msh> upnp
```

◆ 公開 URL の設定

```
msh> upnp url URL
```

・「URL」にはリンク先の URL を入力します。

web

Web Image Monitor 関連の表示、設定は、web コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> web
```

◆ リンク先として登録する URL の設定

```
msh> web x url URL
```

・x は対象 ID の 1~2 を指定します。2 件まで登録できます。
・「URL」にはリンク先の URL を入力します。

◆ リンク先として登録されている URL を削除する

```
msh> web x clear url
```

・x は対象 ID の 1~2 を指定します。

◆ リンク先として登録する URL のリンク名の設定

```
msh> web x name リンク名
```

・x は対象番号の 1~2 を指定します。

◆ リンク先として登録されている URL のリンク名を削除する

```
msh> web x clear リンク名
```

・x は対象 ID の 1~2 を指定します。

◆ ヘルプの参照先 URL の設定

```
msh> web help URL
```

・「URL」にはリンク先の URL を入力します。

◆ ヘルプの参照先 URL を削除する

```
msh> web clear help
```

wiconfig

無線 LAN の表示、設定は、wiconfig コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> wiconfig
```

♦ 拡張無線 LAN ボードの情報の表示

```
msh> wiconfig cardinfo
```

- 拡張無線 LAN ボードが有効になっていない場合、拡張無線 LAN ボードの情報は表示できません。

♦ 設定

```
msh> wiconfig パラメーター
```

パラメーター	設定される項目
connectinfo	コネクト情報を取得します。
clear { 各コマンド 1 つ ｜ all}	指定されたコマンドの設定値を初期化します。allを指定するとすべての設定値を初期化します。
mode {ap|802.11adhoc}	インフラストラクチャーモード（ap）または 802.11 アドホックモード（802.11 adhoc）の設定ができます。デフォルトはインフラストラクチャーモードです。
ssid 文字列	インフラストラクチャーモード時の SSID を設定できます。SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。空白の場合には自動で近くのアクセスポイントに接続します。デフォルトは空白です。
channel frequency チャンネル番号	802.11 ad hoc モードで使用するチャンネルは、1 〜 14、36、40、44、48 の間で設定できます。使用する機器間で同じチャンネルを使用してください。デフォルトは 11 です。

5

パラメーター	設定される項目
key 文字列 val {1|2|3|4}	WEPキーを16進数で入力する場合に指定します。64-bit WEP を使用する場合は、16 進数 10 桁の文字列が使用できます。128-bit WEP を使用する場合には、16 進数 26 桁の文字列が使用できます。WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 key で WEP キーを指定すると、keyphrase で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。なお、入力する WEP キーの先頭に 0x をつけます。val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。
keyphrase 文字列 val {1|2|3|4}	WEP キーを ACSII 入力する場合に指定します。64-bit WEP を使用する場合は、5 文字までの半角英数字、128-bit WEP を使用する場合には、13 文字までの半角英数字が使用できます。 WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 keyphrase で WEP キーを指定すると、key で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。
encval {1|2|3|4}	4 つの WEP キーのどれを使用してパケットを暗号化するかを指定します。 番号を指定しない場合は 1 が設定されます。
wepauth {open|shared}	WEP 使用時の認証モードを設定できます。指定値と認証モードは次のとおりです。 open：オープンシステム認証（デフォルト） shared：シェアードキー認証
security {none|wep|wpa}	セキュリティー方式を設定できます。 設定値と認証方式は次のとおりです。 none: 暗号化なし（デフォルト） wep:WEP 暗号化方式 wpa:WPA 暗号化方式

5

パラメーター	設定される項目
wpaenc {tkip|ccmp}	WPA 使用時の WPA 暗号を選択できます。 設定値は次のとおりです。 tkip:TKIP ccmp:CCMP(AES)（デフォルト）
wpaauth {wpapsk|wpa|wpa2psk|wpa2}	WPA 使用時の認証モードを設定できます。 設定値は次のとおりです。 wpapsk：WPA-PSK 認証（デフォルト） wpa：WPA 認証 wpapsk2：WPA2-PSK 認証 wpa2 ：WPA2 認証
psk 文字列	Pre-Shared key を設定できます。 Pre-Shared key での入力できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 8 文字から 63 文字までです。デフォルトは空白です。
eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}	EAP 認証タイプを設定できます。 tls :EAP-TLS （デフォルト） ttls：EAP-TTLS leap：LEAP peap：PEAP {chap、mschap、mschapv2、pap、md5、tls} はフェイズ 2 メソッドの設定となっており、EAP-TTLS、PEAP を選択する時に同時に指定する必要があります。また、その他の EAP 認証タイプでは省略する必要があります。「EAP-TTLS」を選択した場合は、chap、mschap、mschapv2、pap、および md5 が指定できます。「PEAP」を選択した場合は、mschapv2、および tls が指定できます。
username 文字列	Radius サーバーへのログインユーザ名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 31 文字までです。 デフォルトは空白となります。
username2 文字列	EAP-TTLS/PEAP のフェイズ 2 認証で使用するフェイズ 2 ユーザ名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 31 文字までです。 デフォルトは空白です。

パラメーター	設定される項目
domain 文字列	Radius サーバーへのログインドメインを設定できます。 使用できる文字は半角英数字と"@"と"¥"(0x5C:バックスラッシュ)以外の表示可能な半角記号(ASCII 0x20〜0x7e)で31文字までです。デフォルトは空白です。
password 文字列	Radius サーバーへのログインパスワードを設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号(ASCII 0x20〜0x7e)で128文字までです。デフォルトは空白です。
srvcert {on|off}	サーバー証明書の認証を設定します。 デフォルトはoffです。
imca {on|off}	サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可の設定ができます。 デフォルトはoffです。
srvid 文字列	認証サーバーをサーバーID 及びサブドメインで設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号(ASCII 0x20〜0x7e)で128文字までです。デフォルトは空白です。
miccheck [on|off] *1	MICチェックを有効にするかどうかを設定します。 デフォルトはonです。 offに設定すると改ざん検出が一切できなくなります。onの設定で使用することお勧めします。

*1 拡張無線LANボードの装着されている場合にのみ、使用可能です。

5

wins

WINS サーバーの設定は、wins コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> wins
```

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。

♦ WINS 機能の設定

```
msh> wins インターフェース {on|off}
```

- WINS 機能を有効するには on を、無効にするときは off を指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

♦ WINS サーバーのアドレス設定

```
msh> wins インターフェース名 {primary|secondary} IPv4 アドレス
```

- primary でプライマリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

♦ NBT（NetBIOS over TCP/IP）スコープ ID の設定

```
msh> wins インターフェース scope スコープ ID
```

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

wsmfp

WSD (Device)、WSD (Printer) の設定と表示は、wsmfp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> wsmfp
```

♦ コメントの設定

```
msh> wsmfp comments 文字列
```

・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

♦ ロケーションの設定

```
msh> wsmfp location 文字列
```

・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

♦ プレゼンテーション URL の設定

```
msh> wsmfp url URL
```

・「URL」にはリンク先の URL を入力します。

♦ WSD (Device) の TCP ポートの設定

```
msh> wsmfp devport [1024-65535]
```

・初期値は 53000 です。

♦ WSD (Printer) の TCP ポートの設定

```
msh> wsmfp prnport [1024-65535]
```

・初期値は 53001 です。

♦ WSD (Printer) の受信タイムアウト（秒）の設定

```
msh> wsmfp prntimeout タイムアウト値 [30～65535]
```

・工場出荷時の設定値は「900（秒）」です。

♦ コメントを初期化する

```
msh> wsmfp clear comments
```

♦ ロケーションを初期化する

```
msh> wsmfp clear location
```

♦ プレゼンテーション URL を初期化する

```
msh> wsmfp clear url
```

5

SNMP

SNMP を使って本機の情報を取得する方法の説明です。
本機内蔵のイーサネットインターフェース、およびオプションの拡張無線 LAN ボードでは UDP と IPX 上で動作する SNMP（Simple Network Management Protocol）エージェントが組み込まれています。
また、本機はユーザー認証、データの暗号化、アクセス制御のセキュリティー面が強化されている SNMPv3 にも対応しています。
SNMPv3 の暗号化通信を使用するためには、本機に暗号パスワードが設定されていることが必要です。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- 本機のコミュニティー名を工場出荷時から変更した場合、Ridoc IO Analyzer Lt に同梱されている SNMP コミュニティ名設定ツールを使用して接続するパソコンの設定を変更してください。詳しくは「SNMP コミュニティ名設定ツール」のヘルプを参照してください。

5

工場出荷時のコミュニティー名には「public」と「ricoh」が設定されています。このコミュニティー名で MIB 情報を取得することができます。

♦ SNMP コミュニティ名設定ツールの起動

- Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [プログラム] から [Ridoc IO Analyzer Lt] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。
- Windows XP/Vista, Windows Server 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [すべてのプログラム] から [Ridoc IO Analyzer Lt] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。

ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目の詳細です。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種やオプションによっては、表示されないステータスがあります。

- UNIX の場合
  lpq コマンド、rsh、rcp、ftp の stat パラメータを使います。
  Windows Vista、Windows Server 2008 では、rsh/rcp が使用できません。
- mshell の場合
  status コマンドを使います。

ステータス	意味
Adjusting...	初期設定中です。
Call Service Center	エンジン部、またはコントローラー部に異常が発生しました。サービスに連絡してください。
Canceling Job...	ジョブリセット中です。
Cannot Eject Original Through	原稿を排紙できません。
Cannot multi-install: SD Card	SD カードが他機器にインストール済みです。
Configuring...	設定変更中です。
Cover Open: Duplex Unit	両面ユニットのカバーが開いています。
Cover Open: Exit/Rear Cover	本体排紙口または背面部のカバーが開いています。
Cover Open: Front Cover	本体前カバーが開いています。
Cover Open: Paper Exit Cover	排紙口カバーが開いています。
Current Job Suspended	印刷が停止しています。
Energy Saver Mode	省エネモード中です。
Envelope Setting Error: None	封筒レバーが上がった状態で封筒以外の用紙を指定して印刷が実行されました。
Envelope Setting Error: Others	封筒レバーが下がった状態で封筒を指定して印刷が実行されました。

ステータス	意味
Error: DIMM Value	メモリーエラーが発生しました。
Error: Ethernet Board	イーサーネットボードに異常が発生しました。
Error: HDD Board	拡張 HDD にエラーが発生しました。
Error: Media Link Board	データ変換ボードに異常が発生しています。
Error: Optional Font	プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。
Error: Optional RAM	オプションの SDRAM モジュールにエラーが発生しました。
Error: Parallel I/F Board	パラレルインターフェースにエラーが発生しました。
Error: PDL	ページ記述言語にエラーが発生しました。
Error: Rem. Certificate Renewal	証明書の自動更新中にエラーが発生しました。
Error: USB Board	USB ホストボードで異常が発生しています。
Error: USB Interface	USBインターフェースにエラーが発生しました。
Error: Wireless Board	拡張無線 LAN ボードにエラーが発生しました。
Full: Log Data Capacity	ログデータがもうすぐ満杯です。
Full: Standard Tray	本体排紙トレイが満杯です。
Hex Dump Mode	ヘキサダンプモード中です。
Independent-supplier Toner	純正でないトナーがセットされています。
In Use: Input Tray	給紙トレイが使用中です。
Jobs Suspended	一時停止中です。
Log Data Transfer failed	ログデータの転送に失敗しました。
Malfunction: Output Tray	排紙トレイのシフト機能に異常が発生しました。
Mismatch: Paper Size	選択された給紙トレイのサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Size and Type	選択された給紙トレイの用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。 または、自動トレイ選択を指定しているとき、指定の用紙種類とサイズがありません。
Mismatch: Paper Size/Image Size	トレイから給紙された紙のサイズが画像サイズと異なります。
Mismatch: Paper Type	選択された給紙トレイの用紙種類が、指定されたものと異なります。

5

ステータス	意味
Near Replacing: Develop. Unit K	現像ユニット（ブラック）の交換時期が間近になりました。
Near Replacing: Fusing Unit	定着ユニットの交換時期が間近になりました。
Near Replacing: Int. Transfer	中間転写ユニットの交換時期が間近になりました。
Near Replacing: Print Cartridge	トナーカートリッジの交換時期が間近になりました。
Nearly Full: Log Data Capacity	ログデータがもうすぐ満杯です。
No Paper: Selected Tray	指定されたトレイに用紙がありません。
No Paper: Tray 1	トレイ 1 に用紙がありません。
No Paper: Tray 2	トレイ 2 に用紙がありません。
No Paper: Tray 3	トレイ 3 に用紙がありません。
No Paper: Tray 4	トレイ 4 に用紙がありません。
Not Detected: B2 Lever	B2 レバーが正しくセットされていません。
Not Detected: Duplex Feed Unit	両面搬送ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Duplex Unit	両面ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Fusing Unit	定着ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Input Tray	給紙トレイが正しくセットされていません。
Not Detected: Print Cartridge	AOI が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 1	トレイ 1 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 2	トレイ 2 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 3	トレイ 3 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 4	トレイ 4 が正しくセットされていません。
Offline	プリンターがオフライン状態です。
Operating Thermo-range Error	使用可能温度の範囲外です。
Paper Misfeed: Duplex Unit	両面ユニットで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Input Tray	給紙トレイで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Internal/Output	本体内部で紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Output Tray	本体排紙部で紙づまりが発生しました。
Printing...	印刷中またはデータ受信中です。
Proxy Address/Port Incorrect	プロキシアドレス、またはポート番号が不正です。
Proxy User/Password Incorrect	プロキシユーザー名またはパスワードが不正です。

ステータス	意味
RC Gate Connection Error	RC Gate との接続に失敗しました。
Readjusting...	再調整中です。
Ready	使用可能です。
Renewing Remote Certificate	リモートビス証明書を更新中です。
Replace Charger Kit	チャージャーキットの交換時期です。
Replace Cleaning Web	クリーニングフェルトは残りわずかです。
Replace Develop. Unit (Black)	現像ユニット（ブラック）の交換時期です。
Replace Fusing Unit	定着ユニットの交換時期です。
Replace Int. Transfer Unit	中間転写ユニットの交換時期です。
Replace Maintenance Kit	メンテナンスキットの交換時期です。
Replace PCU	ドラムユニットの交換時期です。
Replace Print Cartridge	トナーカートリッジの交換時期です。
Reset IPDS fonts	IPDS フォントにエラーが発生しました。
SD Card Authentication failed	SD カードからの認証に失敗しました。
SD Card not inserted	SD カードがセットされていません。
Supplies Order Call failed	消耗品発注コールに失敗しました。
Tray Error: Chaptering	章区切り紙に本文と同じトレイを指定しているため、給紙トレイ指定エラーが発生しました。
Tray Error: Duplex Printing	両面禁止トレイに両面印刷を指定したため、両面印刷設定トレイエラーが発生しました。
Unit Code Start	ユニットコードの開始位置です。

補足

- エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷される場合があります。あわせてご確認ください。印刷方法については、「テスト印刷メニュー」を参照してください。

参照

- P.143 「テスト印刷メニュー」
- P.214 「info」
- P.290 「本機の状態表示」

5

機器情報

機器の給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報の確認方法と、項目の説明です。

- UNIX の場合
  rsh、rcp、ftp、sftp の info パラメータを使います。
- mshell の場合
  info コマンドを使います。

Input Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ名称が表示されます。
Page Size	ご使用の機器に装着されている給紙トレイに設定されている用紙サイズが表示されます。
Status	給紙トレイの状態が表示されます。 ・Normal：正常 ・NoInputTray：トレイなし ・PaperEnd：用紙なし

Output Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ名称が表示されます。
Status	排紙トレイの状態が表示されます。 ・Normal：正常 ・PaperExist：用紙あり ・OverFlow：用紙が満杯 ・Error：その他エラー

Emulation

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。
Version	ご使用の機器に装備されている、各エミュレーションのバージョンが表示されます。

参照

- P.214 「info」
- P.290 「本機の状態表示」

取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得することができる情報の詳細です。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
  lpq コマンド、rsh、rcp、ftp、sftp の stat パラメーターを使います。
- mshell の場合
  status コマンドを使います。

項目名	意味
Rank	印刷ジョブの状態が表示されます。 ・Active 印刷中、または印刷処理待ち状態 ・1st、2nd、3rd、4th... プリンターへのファイル転送待ち状態
Owner	印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。
Job	印刷要求番号が表示されます。
Files	ファイル名が表示されます。
Total Size	印刷ジョブのデータサイズが表示されます。*1

*1 複数のファイルを 1 ジョブとして投入した場合は、先頭ファイルのサイズが表示されます。

参照

- P.228 「status」
- P.290 「本機の状態表示」

プリントログ情報

これまでに印刷した過去20件分のジョブの記録の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
  rsh、rcp、ftp、sftp の prnlog パラメーターを使います。
- mshell の場合
  prnlog コマンドを使います。

項目名	意味
ID	印刷要求番号が表示されます。
User	印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。
Page	印刷したページ数が表示されます。
Result	通信結果が表示されます。 ・Finished 通信上、印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していない場合があります。 ・Failed 印刷が正常に終了しませんでした。 ・Canceled rcp、rsh、lpr コマンドの印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生する場合があります。ftp、sftp、rprinter では発生しません。
Time	印刷要求受け付け時間が表示されます。

参照

- P.217 「prnlog」
- P.290 「本機の状態表示」

5

ネットワークインターフェースボードの情報

ネットワークインターフェースボードの設定内容の確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種によっては、表示されない項目があます。

- mshell の場合
  show コマンドを使います。

項目名	意味
Common	
Mode	
Protocol Up/Down	プロトコル利用設定
AppleTalk	
IPv4	
IPv6	
IPsec	
SMB	
Device Up/Down	デバイス利用設定
Parallel	
USB	
Ethernet interface	
Syslog priority	
NVRAM version	
Device name	
Comment	
Location	
Contact	
Soft switch	
AppleTalk Mode Net Object Type Zone	AppleTalk 関連設定
TCP/IP Mode(IPv4) Mode(IPv6) ftp lpr rsh	TCP/IP のポートアドレスなどの設定

5

項目名	意味
diprint	
web	
http	
ftpc	
snmp	
ipp	
autonet	
Bonjour	
ssl	
nrs	
rfu	
nbt	
ssdp	
bmlinks	
ssh	
sftp	
WSD (Device)	
WSD (Printer)	
rhpp	
IPv4	
DHCP	
Address	
Netmask	
Broadcast	
Gateway	
IPv6	
Stateless	
Manual	
Gateway	
DHCPv6-lite	
DUID	
DHCPv6 option lifetime	
IPsec	
Manual Mode	
Excluded Protocol	
https	
dns	

項目名	意味
dhcp	
wins	
EncapType	
Host name	
DNS Domain	
Access Control	アクセス制限設定
IPv4	
Access Entry [X]	X は 1~5 まで設定できます。
IPv6	
Access Entry [X]	X は 1~5 まで設定できます。
SNTP Server	時刻関連設定
Time Zone	
SNTP Server polling time	
SYSLOG server	Websys 関連の設定
Home page URL1	
Home page link name1	
Home page URL2	
Home page link name2	
Help page URL	
RHPP Port	
RHPP timeout	
SMB Switch Mode Direct print Notification Workgroup name Computer name Comment Share name[1] Protocol	SMB 動作／設定
Wireless LAN Host Name Communication Mode SSID Channel	IEEE 802.11 インターフェース動作／設定

項目名	意味
Security WEP Authentication WEP Encryption key number WEP Encryption keys [X] WPA Encryption WPA Authentication Pre-Shared Key User name Domain name EAP Type Password Phase 2 user name Phase 2 Method TTLS Phase 2 Method PEAP Server cert. Intermediate CA Server ID Sub domain MIC check	 X は 1〜4 まで設定できます。
Ethernet 802.1X Authentication	
DNS IPv4 Server[X] Selected IPv4 DNS Server IPv6 Server[X] Selected IPv6 Dns Server Resolver Protocol Domain Name ether wlan DDNS ether wlan WINS	DNS 動作／設定 X は 1〜3 まで設定できます。 X は 1〜3 まで設定できます。 WINS 動作／設定

5

項目名	意味
ether Primary WINS Secondary WINS wlan Primary WINS Secondary WINS	
SSDP UUID Profile TTL	SSDP 動作／設定
BMLinkS Plain Only Paused Print Timeout Device Name Country Organization Branch Building Floor Block	BMLinkS 動作／設定
UPnP URL	UPnP 動作／設定
Bonjour Computer Name(cname) Local Hostname (ether) Local Hostname (wlan) Location Priority (diprint) Priority (lpr) Priority (ipp) IP TTL LinkLocal Route for Multi I/F IPP Port	Bonjour（Rendezvous）動作／設定
SNMP SNMPv1v2	SNMP 動作／設定

項目名	意味
SNMPv3 protocol v1Trap v2Trap v3Trap SNMPv1v2 Remote Setting SNMPv3 Privacy	
ssh Compression Port TimeOut LoginTimeOut	ssh 動作／設定
AuthFree IPv4 AuthFree Entry[X] IPv6 AuthFree Entry[X] Parallel USB	認証除外動作／設定 X は 1～5 まで設定できます。 X は 1～5 まで設定できます。
LPR lprm check host lpr prnerrchk	
Certificate Verification	
WS-MFP Network Device Name Comments Location Presentation URL WSD (Device) TCP Port WSD (Printer) TCP Port WSD (Printer) Job Timeout MetadataVersion UUID	

項目名	意味
IEEE 802.1X User Name Domain name EAP Type Password Phase 2 user name Phase 2 Method TTLS Phase 2 Method PEAP Server cert Intermediate CA Server ID Sub domain	IEEE 802.1X 関連の設定
Shell mode	リモートメンテナンスツールのモード

5

メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティーやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

システムログ情報

システムログ情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
  rsh、rcp、ftp、sftp の syslog パラメーターを使います。
- mshell の場合
  syslog コマンドを使います。

account is unavailable: same account name be used.

一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください

account is unavailable: The authentication password is not set up.

認証パスワードが設定されてなく、暗号パスワードのみ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。

account is unavailable: encryption is impossible.

暗号化できないため、アカウントが無効になりました。

add_sess_IPv4:bad trap addr:<IPv4 **アドレス** >, community:< **コミュニティ名** >

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPv6:bad trap addr:<IPv6 **アドレス** >, community:< **コミュニティ名** >

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv6 のアドレス [: :] は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPv4: community < **コミュニティ名** > already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

add_sess_IPv6: community < **コミュニティ名** > already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

adjust time server <NTP **サーバー** > offset:XX sec.

ncsdがNTPサーバーとの時刻同期時に、システム時刻の修正結果を知らせます。
NTP サーバー：NTP サーバー名
offset：遅らせた秒数（マイナスの場合は進めた秒数）

authenticating

サプリカントが、アクセスポイントとの認証処理（EAP または WPA）中です。

authentication mode mismatch

アクセスポイントの認証モードが、サプリカントが利用したいものと違います。
サプリカントとアクセスポイントの認証モードを同じにしてください。

authenticated

サプリカントは認証されました。
認証が成功した場合は、常にこのメッセージが最後に表示されます。

centrod is disabled.

セキュリティモード設定で centrod（パラレル）が無効に設定されている場合、centrod（パラレル）起動後に出力されます。この場合、パラレル通信はできません。セキュリティモード設定で centrod（パラレル）を有効にしてください。

child process exec error !（プロセス名）

ネットワーク関連のプロセス起動に失敗しました。電源を再投入しても回復しない場合は、サービスマンにご連絡ください。

cipher suite mismatch

アクセスポイントのユニキャスト / マルチキャスト暗号化スイート（TKIP/AES/WEP）が、サプリカントが利用したいものと違います。

client EAP method rejected

RADIUS サーバが、サプリカントによって選択された EAP メソッドを拒絶しました。

Client password rejected

ユーザー名またはパスワードが正しくありません。ユーザー名とパスワードを確認してください。

Client TLS certificate rejected

クライアントの TLS において、証明書が拒否されました。証明書を確認してください。

Connected DHCP Server （<DHCP サーバアドレス >）.

DHCP サーバからの IP アドレス取得に成功しました。

connecting

サプリカントが、アクセスポイントとの無線接続待ちです。

Connected DHCPv 6 server <IPv6 アドレス >

接続した DHCPv6 サーバーは、<IPv6 アドレス > です。本メッセージは、初回の DHCPv6 サーバー接続時にのみ表示されます。再接続時には表示されません。

connection from <IP アドレス >

ホスト <IP アドレス > よりログインされました。

Current Interface Speed : <Ethernet I/F 速度 >

現在の Ethernet I/F の速度です。（10Mbps、100Mbps、または 1Gbps）。

Current IP address (< 現在の IP アドレス >).

DHCP サーバから取得した < 現在の IP アドレス > で動作します。

Duplicate IP=<IP アドレス >（from<MAC アドレス >）.

本機に設定されたIPv4アドレスまたはIPv6アドレスが重複しています。IPアドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示されたMACアドレスの機器をチェックしてください。

DHCPv6 server not found.

DHCPv6サーバーが見つかりません。ネットワーク上にDHCPv6サーバーが起動していることを確認してください。本メッセージは、初回のDHCPv6サーバー接続失敗時にのみ表示されます。接続に失敗したときは5分ごとにDHCPv6サーバーに接続を試みますが、再び接続に失敗したときには表示されません。

DHCP lease time expired.

DHCPリース切れになりました。現在使用しているIPアドレスは使用できません。IPアドレスを再取得してください。

disconnected

サプリカントは接続されていない状態です。

exiting

lpdのサービスを終了しプロセスをEXITしています。

IEEE 802.11 Card does NOT support WPA.

WPAをサポートしていない拡張無線LANボードが装着されています。WPA対応の拡張無線LANボードを装着してください。

IEEE 802.11 Card Firmware REV.< バージョン >

拡張無線LANボードファームウェアのバージョンです。

IEEE 802.11 current channel < チャンネル番号 >

アドホックおよびインフラストラクチャモードでの無線LAN接続先変更時に表示される、現在動作中のチャネル番号です。

IEEE 802.11 MAC Address = <MAC アドレス >

拡張無線LANボードのMACアドレスです。

IEEE 802.11 SSID <ssid> （AP MAC Address <MAC アドレス >）

インフラストラクチャモード時の接続したアクセスポイントのSSIDおよびアクセスポイントのMACアドレスです。

IEEE 802.11 < 通信モード > mode

IEEE 802.11の通信モードを表示します。

(IKE phase-1) mismatched authentication type : local=< 相手認証方式 1> remort ＝ < 相手認証方式 2>

IKE フェーズ 1 における本機の < 相手認証方式 1> と通信相手の < 相手認証方式 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP 相手認証方式を一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched encryption type : local=< 暗号アルゴリズム 1> remort ＝ < 暗号アルゴリズム 2>

IKE フェーズ 1 における本機の < 暗号アルゴリズム 1> と通信相手の < 暗号アルゴリズム 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA 暗号アルゴリズムを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched DH group : local=<DH グループ番号 1> remort ＝ <DH グループ番号 2>

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA Oakley グループ <DH グループ番号 1> と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループ <DH グループ番号 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループを一致させてください。

5

(IKE phase-1) mismatched hash type : local=< ハッシュアルゴリズム 1> remort ＝ < ハッシュアルゴリズム 2>

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA< ハッシュアルゴリズム 1> と通信相手の ISAKMP SA< ハッシュアルゴリズム 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズムを一致させてください。

IKE[%s] is disable, set PSK text.

PSK 文字列が設定されていないため、対象の IKE エントリを無効としました。

inetd start.

inetd を開始します。

Interface（インターフェース名）: Duplicate IP Address（<IP アドレス >）.

本体に指定された IPv4 または IPv6 アドレスが重複して使用されています。IP アドレスはそれぞれ固有のものでなければなりません。IP アドレスを再設定してください。

<inferface name> card removed

サプリカントによって管理されている無線カードが取り除かれました。

<inferface name> interface down

サプリカントに管理されているインターフェースが無効です。

<inferface name> interface up

サプリカントに管理されているインターフェースが有効です。

<Interface> started with IP: <IP アドレス >

インターフェースにIPv4またはIPv6アドレスが設定されて、動作を開始しました。

<Interface>: Subnet overlap.

<Interface> に設定しようとした IPv4 アドレスと Netmask から導かれる Subnet 範囲が、ほかのインターフェースの Subnet 範囲と重なっています。各インターフェースの Subnet 範囲が重ならないように設定してください。

job canceled. jobid=< ジョブ ID>.

エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。

IPP cancel -job : permission denied.

ジョブのキャンセル時にユーザ名による認証に失敗しました。

LeaseTime=< リース時間 >(sec), RenewTime=< 更新間隔 >(sec).

DHCP サーバーから取得したリソースのリース時間は < リース時間 > 秒、更新時間は < 更新間隔 > 秒です。

LEAP challenge to access point failed

アクセスポイントへの LEAP チャレンジが失敗しました。

Login to fileserver < ファイルサーバー名 > (<IP>, <NDS|BINDERY>)

プリントサーバーが動作しているとき、< ファイルサーバー > に NDS または BINDEY モードでログインしました。使用しているトランスポートプロトコルも表示します。

Manual[%s] is disable, set authentication key.

認証鍵がされていないため、対象の手動 SA エントリを無効としました。

Manual[%s] is disable, set encryption key.

暗号鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリを無効としました。

MIC failure TKIP counter measures started

TKIP を用いているサプリカントが、60 秒以内に 2 箇所のデータ改ざんを見つけ、その対策を開始しました。

MIC failure TKIP counter measures stopped

TKIP を用いているサプリカントが、データ改ざんが見つかり対策を開始して 60 秒経ち、その対策を止めました。

Name registration failed. name=<NetBIOS 名 >

<NetBIOS 名 > の名前登録に失敗しました。NetBIOS 名を別の名前に変更してください。

Name registration success in Broadcast name =<NetBIOS 名 >

ブロードキャストによる <NetBIOS 名 > の名前登録に成功しました。

Name registration success. WINS Server=<WINS サーバーアドレス > NetBIOS Name=<NetBIOS 名 >

<WINS サーバーアドレス > への <NetBIOS 名 > の名前登録が成功しました。

no RADIUS/authentication server

サプリカントが、利用可能な RADIUS サーバがないというメッセージを受信しました。

no WPA information element in probe response,rescanning

希望している SSID があるアクセスポイントからの Probe Response には、WPA の情報要素がありませんでした。サプリカントは、再スキャンしています。

papd start. (AppleTalk)

papd（Printer Access Protocol Daemon）を起動しました。

print sessions full

接続要求がフルです。しばらくしてから再接続してください。

server certificate invalid

サプリカントが、サーバー証明書が無効であることを検知しました。

server identity invalid

サプリカントが、指定されたサーバー名が無効であることを検知しました。

server not trusted

RADIUS サーバーは信用できません。

session_IPv4 < **コミュニティ名** > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

session_IPv6 < **コミュニティ名** > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

shutdown signal received . network service rebooting ...

ネットワークのリブート処理を行います。

smbd start. (NetBIOS)

smbd（Server Message Block Daemon）が起動しました。

snmpd start.

Snmpd を起動しました。（電源 ON のみ表示します）

SMTPC: failed to get smtp server ip-address.

SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバーに指定した SMTP サーバーの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IPv4 または IPv6 アドレスを確認してください。または SMTP サーバーの IP アドレスを確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.

応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っており、SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバー名とネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: refused connect by smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: no smtp server. connection close.

SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバーの IP アドレス、SMTP サーバー名と SMTP ポート番号、SMTP サーバーの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: username or password wasn't correct. [**応答コード**] **(インフォメーション)**

SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。

Snmp over IPv4 is ready.

IPv4 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPv6 is ready.

IPv6 上での SNMP 通信が可能です。

snmpd start.

Snmpd を起動しました(電源 ON ／ OFF のみ表示します)。

started.

BMLinkD が起動しました。

stopped

サプリカントが停止しています。

success key received

サプリカントが EAP-Success キーを受け取りました。

success but invalid key

サプリカントは EAP 認証が成功したというメッセージを受け取ったが、EAPOL キーが無効です。

supplicant unbound

サプリカントが起動しましたが、アクセスポイントには接続されていません。

supplicant started

サプリカントが起動しました。

terminated.

手動 SA および IKE の設定がひとつも存在しないため、IKE サービスが停止しました。

terminate.

BMLinkS が無効のため終了します。

There is problem in dhcp server operation.

複数の DHCP サーバを設置している場合は、機器に配布する IP アドレスの設定に DHCP サーバ間で矛盾がないかを確認してください。

5

trap account is unavailable.

v3Trap 送信先ユーザーアカウント名が、機器が管理するユーザーアカウント名とは別のものが指定されているため、そのユーザーアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先ユーザーアカウント名を機器が管理するユーザーアカウント名に変更してください。

unauthenticated

認証に失敗しました。サプリカントが、アクセスポイントから拒絶されたか、認証されていない状態です。

usbd is disabled.

セキュリティモード設定により usbd が無効に設定されている場合に、usbd 起動後に出力されます。この場合、PnP および印刷はできません。セキュリティモード設定で、usbd を使用可にしてください。

waiting for keys

サプリカントがセッションキーを待っています。

5

Updated （オプション名）（値）via DHCPv6 Server

DHCPv6 サーバーから取得したパラメータが更新されました。本メッセージは、パラメータ新規取得時と以前取得したものに対して変更があったときに表示されます。

WINS name registration : No response to server （WINS サーバーアドレス）

登録処理に対する応答がサーバーからありません。WINS サーバーアドレスに誤りがないか確認してください。または、WINS サーバーが正常に動作しているか確認してください。

WINS wrong scopeID = < スコープ ID>

不正なスコープIDが使用されています。正常なスコープIDを設定してください。

write error occurred. （diskfull）

スプールファイル書き込み中にディスクフルが検知されました。印刷処理が進み、HDD の空き容量が増えるのを待ってください。分割スプール対応以前のみ出力されます。

write error occurred. （fatal）

スプールファイル書き込み中に致命的なエラーが検知されました。電源再投入後に復帰しない場合は、サービスを依頼してください。

WSD (Device) started

WS-Device（WSD（Device））が起動しました。

WSD (Printer) started.

WS-Printer（WSD（Printer））が起動しました。

6. プリントサーバーの準備

ネットワークプリンターの設定についての説明です。

Windows ネットワークプリンターを設定する

Windows でネットワークプリンターを設定する方法の説明です。
クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。ネットワークプリンターを Ridoc IO Navi 経由で接続している場合、印刷通知設定をすることができ、印刷結果をクライアントに通知することができます。

重要

- ［プリンタ］フォルダでプリンタープロパティを変更するには「プリンタの管理」、Windows Vista、Windows Server 2008 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 **Windows XP、Windows Server 2003 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし、［プリンタと FAX］をクリックします。**

Windows 2000 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。
Windows Vista、Windows Server 2008 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。［ハードウェアとサウンド］のカテゴリーの中から、［プリンタ］をクリックします。

2 **追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。**

プリンターのプロパティが表示されます。

3 **［共有］タブをクリックし、［このプリンタを共有する］を選択します。**

4 **プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、［追加ドライバ］をクリックしてインストールする OS を選択し、［OK］をクリックします。**

プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックを付けて代替ドライバーをインストールした場合、この操作は必要ありません。

5 **［詳細設定］タブの［標準の設定］ボタンから、クライアントに配布するドライバの初期値を設定し、［OK］をクリックします。**

6 **［OK］をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。**

Ridoc IO Navi 経由で印刷通知をする

Ridoc IO Navi の印刷通知機能を設定する方法の説明です。

プリントサーバーの設定をする

重要

- プリントサーバーの設定を変更するには、Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Server 2003 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows Vista、Windows Server 2008 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 ［スタート］ボタンから、［プログラム］（Windows Vista、Windows Server 2008）では［すべてのプログラム］）-［RICOH Ridoc Desk Navigator］-［Ridoc IO Navi］の順にポイントして、［プリントサーバー設定］をクリックします。

プリントサーバー設定ダイアログが表示されます。

6

2 「クライアントに印刷通知をする」をチェックして、［OK］をクリックします。

プリントサーバーの設定によって、ダイアログが表示されます。記載内容を確認して［OK］をクリックします。
［キャンセル］をクリックすると、処理を中断します。

3 各クライアントへの設定についてダイアログが表示されます。［OK］をクリックします。

これでプリントサーバーの設定は終了です。各クライアントで、印刷通知の設定が必要です。

補足

- 印刷中のジョブはスプーラー時停止後に最初から再印刷されます。
- 拡張機能を使用していない場合、自動的に拡張機能を有効に設定します。
- Administrators アカウント以外でログインした場合、クライアントに通知できない場合があります。

クライアントの設定をする

1 ［スタート］ボタンから、［プログラム］（Windows Vista、Windows Server 2008 では［すべてのプログラム］）-［RICOH Ridoc Desk Navigator］-［Ridoc IO Navi］の順にポイントして、［拡張機能設定］をクリックします。

拡張機能設定ダイアログが表示されます。

2 「拡張機能設定を使用する」にチェックを付けます。

3 「印刷通知」の「プリントサーバーを利用する場合に通知します。」にチェックを付けます。

4 ［OK］をクリックします。

印刷通知設定ダイアログが閉じます。

補足

・プリンタードライバーでも印刷通知の設定をしてください。印刷通知の詳しい設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

6

7. Mac OS で使う

Mac OS で使う場合の設定方法です。

AppleTalk を使う

Mac OSのAppleTalk環境でネットワークプリンターを使用する場合の設定方法の説明です。

♦ セットアップの流れ

1) Macintosh で AppleTalk を有効にします
2) 本機の環境設定をします
3) プリンター名を変更します
4) ゾーンを変更します

補足

- 対象となる Mac OS のバージョンは 8.6 以上、Mac OS X のバージョンは v10.1 以上です。
- Mac OS、および Mac OS X の操作方法は使用している OS のバージョンによって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。
- Mac OS から印刷するには PostScript 3 を含む拡張エミュレーションが本機に増設されている必要があります。
- AppleTalk に必要なソフトウェアのインストールについては、Mac OS のマニュアルを参照してください。

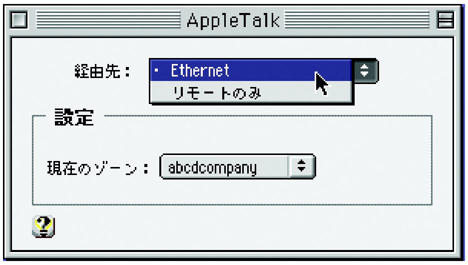
Mac OS

Mac OS で AppleTalk を有効にする方法の説明です。

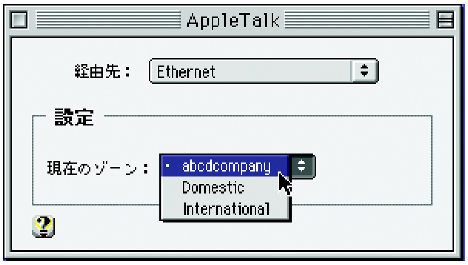
1 ［コントロールパネル］を開き、［AppleTalk］アイコンをダブルクリックします。



2 ［経由先］ポップアップメニューから「Ethernet」を選択します。



3 ゾーンを変更するときは、［現在のゾーン］ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。



4 ［AppleTalk］コントロールパネルを閉じます。

5 Mac OS を再起動します。

Mac OS X

Mac OS X で AppleTalk を有効にする方法の説明です。

重要

- 一般ユーザーの場合、ゾーンの変更にはユーザ名とパスワードが必要です。管理者にお問い合わせください。

1 ［System Preference］または［システム環境設定］を開き、［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

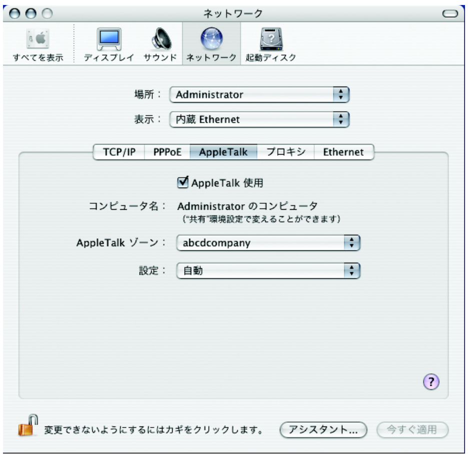


2 ［AppleTalk］タブをクリックします。

3 「AppleTalk 使用」をチェックします。

4 ゾーンを変更する場合には、［AppleTalk ゾーン :］ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。

5 設定が完了したら、［今すぐ適用］をクリックします。



7

本機の設定

プリンター側で AppleTalk プロトコルを有効にします（工場出荷時は**有効**です）。

プリンター名の変更

プリンター名の変更方法についての説明です。
同じネットワーク上に同機種のプリンターを複数台接続するときは、必ずプリンター名を変更してください。同じプリンター名があると、接続された順番に Mac OS により［セレクタ］上で PRINTER0、PRINTER1 のようにプリンター名の後に「0」「1」などの番号がついて表示されます。そのため、プリンター名は接続時の状況に応じて、さまざまに変化します。Mac OS の AppleTalk 環境でプリンター名を変更するには、PostScript 3 を含んだ拡張エミュレーションに付属の「PS3 設定ユーティリティー」を使用します。

補足

- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

7

ゾーンの変更

ゾーンの変更方法についての説明です。
ネットワーク上にゾーンを設定している場合は、必要に応じてプリンターが所属するゾーンを変更します。
ゾーンを変更するには、PostScript 3 を含んだ拡張エミュレーションに付属の「PS3 設定ユーティリティー」を使用します。

補足

- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

7

USB インターフェースを使う

本機を USB 接続で使用する場合の設定方法の説明です。

重要

- Mac OS から印刷するには PostScript 3 を含む拡張エミュレーションが本機に増設されている必要があります。

補足

- Mac OS、および Mac OS X の操作方法は使用している OS のバージョンによって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。

Mac OS

Mac OS で、USB インターフェースを使用する場合の設定方法の説明です。

1 ハードディスク内の［AdobePS Components］フォルダを開きます。

2 ［デスクトップ・プリンタ Utility］をダブルクリックします。

3 ［プリンタ：］ポップアップメニューから［AdobePS］を選択し、［デスクトップに作成 ...］から［プリンタ（USB）］を選択して、［OK］をクリックします。

4 [PostScript™ プリンタ記述(PPD)] ファイルの[変更]をクリックします。



5 接続したプリンターのPPD ファイルを選択し、[選択]をクリックします。

7

6 [USB プリンタの選択：] で、[変更] をクリックします。



7 [USB プリンタの選択：] で、接続したプリンターを選択し、[OK] をクリックします。

8 [作成] をクリックします。



メッセージが表示されます。

9 [保存する] をクリックします。

10 保存先と名称を指定し、[保存] をクリックします。

デスクトップにプリンターアイコンが表示されます。

11 [デスクトップ・プリンタ Utility] を終了します。

補足

- Mac OS では本体標準の USB ポートのみ対応しています。
- Macintosh と USB 接続で印刷する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。

Mac OS X

Mac OS X で、USB インターフェースを使用する場合の設定方法の説明です。

Mac OS X 10.4 以前の場合

1 プリンタ設定ユーティリティを起動します。

2 ［追加］をクリックします。

3 ポップアップメニューから［USB］を選択します。



接続しているプリンターが表示されます。

4 プリンターを選択し、［プリンタの機種］ポップアップメニューから［RICOH］を選択します。

機種名の一覧が表示されます。

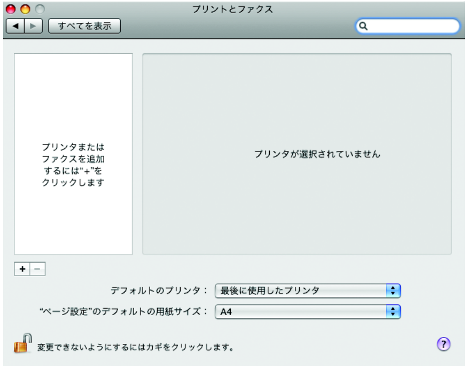
5 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、［追加］をクリックします。

6 プリンタリストを閉じ、プリンタ設定ユーティリティーを終了します。

7

Mac OS X 10.5 の場合

1. プリントとファクスを起動します。
2. ［+］をクリックします。



3. 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名（種類が USB）を選択し、［追加］をクリックします。
4. プリントとファクスを終了します。

Rendezvousを使う

Mac OS X 10.2.3～Mac OS X 10.3.xでは、Rendezvousを使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線LANで接続できます。

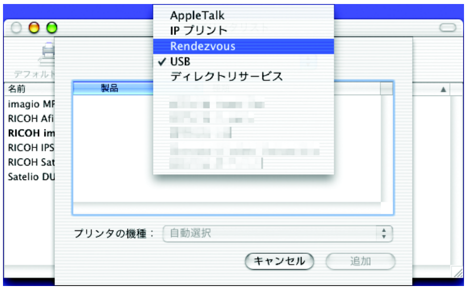
重要

- 工場出荷時の設定ではプロトコルが「**無効**」になっています。使用する前に、Web Image Monitorの「ネットワーク」の項目、またはtelnetのsetコマンドで、Bonjourを有効にしてください。設定やコマンドについては、Web Image Monitorのヘルプ、または「telnetを使う」を参照してください。

1 **プリンタ設定ユーティリティを起動します。**

2 **［追加］をクリックします。**

3 **ポップアップメニューから［Rendezvous］を選択します。**



接続しているプリンターが表示されます。

4 **プリンターを選択し、［プリンタの機種］ポップアップメニューから［RICOH］を選択します。**

機種名の一覧が表示されます。

5 **機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、［追加］をクリックします。**

6 **プリンタリストを閉じ、プリンタ設定ユーティリティを終了します。**

補足

- Macintosh と Rendezvous で接続する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。
- Rendezvous上でIPアドレスの設定は必要ありません。

参照

- P.201 「telnetを使う」

7

Bonjour を使う

Mac OS X 10.4 以降では、Bonjour を使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線 LAN で接続できます。

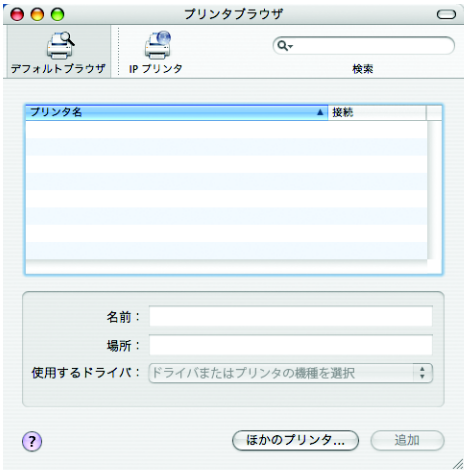
補足

- Mac OS X の操作方法は使用している OS のバージョンによって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。

Mac OS X 10.4 以前の場合

1 プリンタ設定ユーティリティを起動します。

2 [追加] をクリックします。



プリンタブラウザが起動し、接続しているプリンタが表示されます。

3 プリンターを選択し、[使用するドライバ] ポップアップメニューから [RICOH] を選択します。

機種名の一覧が表示されます。

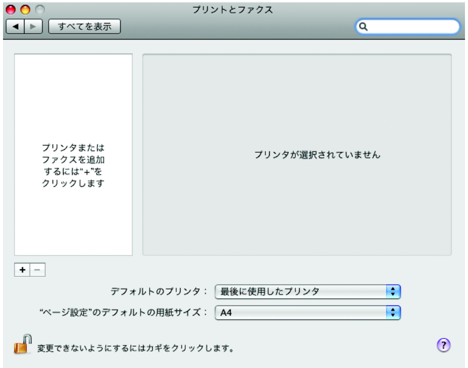
4 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、[追加] をクリックします。

5 プリンタブラウザを閉じ、プリンタ設定ユーティリティを終了します。

Mac OS X 10.5 の場合

1 プリントとファクスを起動します。

2 ［+］をクリックします。



3 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名（種類が Bonjour）を選択し、［追加］をクリックします。

4 プリントとファクスを終了します。

補足

- Macintosh と Bonjour で接続する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。
- Bonjour 上で IP アドレスの設定は必要ありません。

参照

- P.201 「telnet を使う」

7

8. UNIXで使う

UNIXの使用についての説明です。

セットアップ（UNIX）

UNIXでネットワークプリンターとして使用する場合の、設定方法の説明です。

重要

・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

本機はLPDプロトコルをサポートしており、RFC1179に準拠したLPD搭載のホストから使用することができます。

設定方法は各OSに搭載されたLPDシステムによって異なっています。

代表的なUNIX-OS上でLPD印刷環境の構築するためのシェルスクリプトを、ウェブサイト（http://www.ricoh.co.jp/）からダウンロードすることができます。適用OSをウェブサイト上でご確認のうえ、ダウンロードしてください。また、インストールシェルの使用方法等に関しては、ウェブサイトにて提供している説明資料を参照してください。

LPDの設定方法

BSDベースのリモートプリンターの設定方法、およびSolaris2.xにおけるネットワークプリンターの設定方法を説明します。

BSDベースのLPDシステム

システム上でスーパーユーザ（root 権限）または、それに準ずるシステム管理者権限が必要です。

重要

・適用するOS上でLPD印刷をサポートしている
・本機にIPv4アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている
・本機の設定におけるTCP/IPプロトコルおよびLPDプロトコルがともに有効になっている

♦ /etc/printcap へのエントリ追加

lpr コマンドを使って LPD 印刷ができるように、/etc/printcap を修正します。
ここでは、プリンター名、ホスト名、論理プリンター名が以下のように設定されているものとします。
プリンター名：printer
ホスト名：hostname
論理プリンター名：filetype=RPS

・エントリ追加例

```
printer | Network Printer:¥
:lp=:¥
:rm=hostname:¥
:rp=filetype=RPS:¥
:sd=/usr/spool/lpd/printer:¥
:lf=/var/log/lpd-errs:¥
:mx#0:
```

補足

- 「printer | Network Printer:¥」のフィールドは、プリンターの識別名（プリンター名）となります。lpr コマンドから指定するプリンター名は、ここで指定する識別名となります。
- 「printer | Network Printer:¥」のフィールドでは、「 | 」を使っていくつものプリンター識別名を記載することが可能です。
- :lp=:¥ 以降のフィールドは、プリンター属性に関する記載となります。ケーパビリティの名称で表されます。
  - lp
    本機を接続する際のデバイス名となります。本機をネットワークプリンターとして使用する場合には、通常このフィールドには何も指定しません。（なお、プリンターをワークステーション上に直接接続する際には、デバイスファイル名を記載します。）
  - rm
    本機のホスト名を指定します。必要に応じて /etc/hosts ファイルにホスト名を事前に記載する必要があります。
  - rp
    論理プリンター名を指定します。本機では、印刷時のオプション指定文字列を指定します。特に必要がなければ、lp（デフォルト）を指定します。
  - sd
    印刷を行う際に一時的に使用するスプールディレクトリのパス名を指定します。スプールディレクトリはネットワークプリンターごとに必要になり、/etc/printcap に記載するエントリ毎に作成しなければなりません。
  - lf
    ログを格納するファイルのフルパス名を指定します。
  - mx
    スプールディレクトリにコピー可能なファイルの最大サイズを指定します。通常、何も指定しないか適当な値を設定します。0 を指定すると無制限、指定しないと 1024K バイトとなります。

8

♦ スプールディレクトリの作成

ターミナル上でスプールディレクトリを作成します。root 権限が必要です。

（例）

```
# mkdir/user/spool/lpd
# cd/user/spool/lpd
# mkdir printer
# chown daemon printer
# chgrp daemon printer
# chmod 770 printer
```

LPD システムを再起動します（LPD システムの再起動方法については、OS ごとに方法が異なります。詳細は OS に添付のドキュメントをご確認ください）。

（例）

```
# lpc restart printer
```

♦ 印刷動作の確認

ここまでに作成したプリンターが正しく動作するかを確認します。

User: lpr-P プリンター名 ファイル名 [ファイル名 ...]

（例）

```
% lpr-P printer file1
```

補足

- プリンター名には、/etc/printcap にエントリを追加した際のプリンター名を指定します。
- ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- 「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。

8

Solaris の LP システム

システム上でスーパーユーザ（root 権限）または、それに準ずるシステム管理者権限が必要です。

重要

- 適用する OS 上で LPD 印刷をサポートしている
- 本機に IPv4 アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている
- 本機の設定における TCP/IP プロトコル及び LPD プロトコルがともに有効になっている

♦ プリンターの作成

Solaris では、ネットワークプリンターとリモートプリンターの２種類のプリンターを作成することができます。
ここでは、プリンター名、ホスト名、論理プリンター名が以下のように設定されているものとします。
プリンター名：printer
ホスト名：hostname
論理プリンター名：filetype_RPS

- リモートプリンターの作成方法
  # /usr/sbin/lpadmin -p printer -s hostname!lp -T dumb -I any （非 PS プリンター設定）
  または
  # /usr/sbin/lpadmin -p printer -s hostname!filetype_RPS -T PS -I postscript （PS プリンター設定）
- ネットワークプリンターの作成方法
  # lpadmin -p printer -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=hostname:lp -v /dev/null -T unknown -I any （非 PS プリンター）
  または
  # lpadmin -p printer -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=hostname:filetype_RPS -v /dev/null -T PS -I postscript （PS プリンター）

補足

- 詳細は、Solaris に付属のドキュメントを参照して確認して下さい

♦ プリンターの有効化

作成したプリンターを有効化し、プリンターが動作できる状態にします。リモートプリンター、ネットワークプリンターのどちらの場合も、作成したあとは有効化してください。
accept printer
destination printer "printer" now accepting requests
enable printer
printer "printer" now enabled

♦ 印刷動作の確認

作成されたプリンターが正しく動作しているか、コマンドを入力して確認します。
Usage : lpr -d プリンター名 ファイル名 [ファイル名 ...]
% lp -d printer file1

補足

- プリンター名には､/etc/printers.confにエントリを追加した際のプリンター名を指定します。
- ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- 「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。
- PostScript プリンターを作成した場合には、ファイル名で指定されるファイルは PostScript データでなければ、正しく出力されない場合があります。
- バナーページが出力される場合がありますので、不要な場合には、コマンドラインで「-o nobanner」指定により付加せずに出力できます。「% lp -d printer -o nobanner file1」とコマンドを入力してください。

オプション指定（UNIX）

オプションを使うことにより、本機固有のプリンター機能を使った印刷ができます。指定可能なオプションの種類と動作は、エミュレーションにより異なります。

◆ オプションに入力できる文字列について

- 本機が認識できるオプション文字列は最大 512 バイトです。
- PostScript 3 をご使用の場合、本機が認識できるオプション文字列は最大 256 バイトです。
- OS によってはオプションとして入力できる文字数に制限があります。オプションの省略形を使っても文字数の制限を超えてしまう場合は、本機のプログラム登録を使ってください。

◆ オプションを指定するコマンドを入力する場合

- 複数のオプションを指定するときはカンマ（,）で区切って入力します。
- 印刷するファイルの中にオプション指定を制御するコマンドが含まれている場合は、その内容が優先します。
- イコール（=）を含まないオプションを単独で指定するときは、オプションの先頭にカンマ（,）を追加します。

◆ オプション指定の方法に制限がある OS の場合

オプション指定にイコール（=）が使用できない OS では、イコールの代わりにアンダーライン（_）が使用できます。

例えば、filetype をオプションに指定するときは、filetype_RPS（省略形は fil_RPS）のように入力してください。

また、オプション指定にカンマ（,）が使用できない OS では、カンマの代わりにセミコロン（；）が使用できます。

◆ Solaris 2.6 以上で指定できるオプションの数について

Solaris 2.6 以上でオプションを指定するときは、プリンターの種類やコマンドによって、指定できるオプション数が異なります。

- lpr
  - リモートプリンターの場合
    文字列制限の範囲内で複数指定可能
  - ネットワークプリンターの場合
    コマンドにかかわらず一つのみ指定可能
- rsh
  文字列制限の範囲内で複数指定可能
- rcp
  コマンドにかかわらず一つのみ指定可能
- ftp
  文字列制限の範囲内で複数指定可能

補足

- RTIFF エミュレーションから印刷オプションを指定できます。RTIFF の印刷オプションについては、『RTIFF 編』をご確認ください。

エミュレーションとプログラム

印刷時に使用するエミュレーションまたはプログラムを指定します。

♦ **filetype（または fil）＝エミュレーションの指定値（またはプログラム登録番号の指定値）**

・エミュレーション：指定値

RPCS：RCS
RPDL：R00
PCL5e:PCL
PCL6:PCLXL
GL/GL2（GL モード）: RGL
GL/GL2（RPGL2 モード）：GL2
R98：R98
R16：R16
R55：R55
PostScript 3：RPS, または POSTSCRIPT
RTIFF：RTF
PDF：PDF
BMLinkS：BMLINKS

・プログラム登録番号：指定値

プログラム 1：P01
プログラム 2：P02
プログラム 3：P03
プログラム 4：P04
プログラム 5：P05
プログラム 6：P06
プログラム 7：P07
プログラム 8：P08
プログラム 9：P09
プログラム 10：P10
プログラム 11：P11
プログラム 12：P12
プログラム 13：P13
プログラム 14：P14
プログラム 15：P15
プログラム 16：P16

♦ **PostScript 3 で印刷場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname ファイル名 file1）**

・<rsh> % rsh hostname print filetype=RPS < file1
・<rcp> % rcp file1 hostname:filetype=RPS
・<ftp> ftp> put file1 filetype=RPS

♦ **ftp の cd コマンドの利用**

ftp で印刷する場合は、cd コマンドでオプションを指定しておけば、put または mput コマンド使用時にそのオプションが有効になります。

```
ftp> cd オプション
```

8

補足

・搭載していないエミュレーションは指定しても無効です。
・現在設定されているオプションを表示するには pwd コマンドを使います。
```
ftp> pwd
```

漢字フィルター

漢字フィルターを使用すると、作成したテキストファイルと同じ漢字コードで印刷できます。

重要

・エミュレーションが RPDL のときに有効です。漢字フィルターを指定するときはエミュレーションとして RPDL（filetype=R00）を指定します。

♦ filter（または flt）＝漢字コード指定値

・漢字コード：指定値（省略値）
EUC：EUC(E)
JIS：JIS(J)
シフト JIS：SJIS(S)

♦ EUC　　漢字コードのテキストファイルを印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）

<rsh> % rsh hostname print filetype=R00,filter=EUC < file1
<rcp> % rcp file1hostname:filetype=R00,filter=EUC
<ftp> ftp> put file1 filetype=R00,filter=EUC

給紙トレイ

給紙トレイを指定します。

★ 重要

- エミュレーションが RPDL、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- 増設していないトレイを指定しても無効です。

♦ RPDL

- tray＝ 給紙トレイの指定値（給紙トレイ：指定値）
  給紙トレイ 1：1
  給紙トレイ 2：2
  給紙トレイ 3：3
  給紙トレイ 4：4
  手差しトレイ：T
- 給紙トレイの指定値は機器情報で得られる給紙トレイ番号に対応しています。
- 給紙トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）
  ＜rsh＞ % rsh hostname print tray＝2 ＜ file1
  ＜rcp＞ % rcp file1 hostname:tray＝2
  ＜ftp＞ ftp＞ put file1 tray＝2

♦ PostScript 3、PDF

- tray＝ 給紙トレイの指定値（給紙トレイ：指定値）
  給紙トレイ 1：tray1
  給紙トレイ 2：tray2
  給紙トレイ 3：tray3
  給紙トレイ 4：tray4
  手差しトレイ：bypass
  自動トレイ選択：all
- トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例（プリンターのホスト名 hostname ファイル名 file1）
  ＜rsh＞ % rsh hostname print tray＝tray2 ＜ file1
  ＜rcp＞ % rcp file1 hostname:tray＝tray2
  ＜ftp＞ ftp＞ put file1 tray＝tray2

↓ 補足

- 本機に装着していないトレイは指定しても無効です。

用紙サイズ

用紙サイズを指定します。

重要

- エミュレーションが RPDL、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- 存在しない用紙サイズは指定しても無効です。

♦ RPDL

- paper= 用紙サイズの指定値（指定値：用紙サイズ）
  A3R：A3（タテ）
  A4R：A4（タテ）
  A4：A4（ヨコ）
  A4X：A4（タテ / ヨコ）
  A5R：A5（タテ）
  A5：A5（ヨコ）
  A5X：A5（タテ / ヨコ）
  A6R：A6（タテ）
  B4R：B4（タテ）
  B5R：B5（タテ）
  B5：B5（ヨコ）
  B5X：B5（タテ / ヨコ）
  B6R：B6（タテ）
  DLR：11”×17”（タテ）
  LGR：8$^{1}/_{2}$”×14”（タテ）
  LTR：8$^{1}/_{2}$×11”（タテ）
  LTX：8$^{1}/^{2}$”×11”（タテ / ヨコ）
  HLR：5$^{1}/_{2}$”×8$^{1}/_{2}$”（タテ）
  PCR：ハガキ（タテ）
  WPC：往復ハガキ（ヨコ）
  WPCR：往復ハガキ（タテ）
  WPCX：往復ハガキ（タテ / ヨコ）
- A4 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname ファイル名 file1）
  <rsh> % rsh hostname print paper=A4R < file1
  <rcp> % rcp file1 hostname:paper=A4R
  <ftp> ftp> put file1 paper=A4R

♦ PostScript 3、PDF

- paper= 用紙サイズの指定値
  指定値：a3（A3）, a4（A4）, a5（A5）, a6（A6）, jisb（B4）, jisb5（B5）, jisb6（B6）, ledger（11”×17”）, legal（8$^{1}/_{2}$”× 14”）, letter（8$^{1}/_{2}$ ×11”）, halfletter（5$^{1}/_{2}$”×8$^{1}/_{2}$”）, jpost（はがき）, jpostd（往復はがき）, jisenvlong3（長形 3 号封筒）, jisenvkaku2（角形 2 号封筒）, jisenvforeignlong3（洋長 3 号封筒）, custom（不定形サイズ）
- A4 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname ファイル名 file1）
  <rsh> % rsh hostname print paper=a4 < file1
  <rcp> % rcp file1 hostname:paper=a4
  <ftp> ftp> put file1 paper=a4

用紙種類

用紙の種類を指定します。

重要

- エミュレーションがRPDL、PostScript 3またはPDFのときに有効です。
- 存在しない用紙種類は指定しても無効です。

♦ RPDL

- paper=“用紙サイズの指定値”+“用紙種類の指定値”
  指定値：plain（普通紙）、letterhead（レターヘッド付き用紙）、transparency（OHPフィルム）、recycled（再生紙）、special1（特殊紙1）、special2（特殊紙2）、special3（特殊紙3）、thick1（厚紙1）、thick2（厚紙2）、color（色紙）、envelope（封筒）、labels（ラベル紙）

♦ RPDLでA4（ヨコ）の再生紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名ricoh、ファイル名file1）

<rsh> %rsh ricoh print paper=A4R.recycled < file1
<rcp> %rcp file1 ricoh:paper=A4R.recycled
<ftp> ftp>put file1 paper=A4R.recycled

♦ PostScritp 3、PDF

- mediatype=用紙種類の指定値
  plain（普通紙）、letterhead（レターヘッド付き用紙）、transparency（OHPフィルム）、recycled（再生紙）、special1（特殊紙1）、special2（特殊紙2）、special3（特殊紙3）、thick1（厚紙1）、thick2（厚紙2）、color（色紙）、envelope（封筒）、labels（ラベル紙）、plainorrecycled（普通紙/再生紙）

♦ PostScript 3、PDFで再生紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名ricoh、ファイル名file1）

<rsh> % rsh ricoh print mediatype=recycled < file1
<rcp> % rcp file1 ricoh:mediatype=recycled
<ftp> ftp> put file1 mediatype=recycled

排紙トレイ

排紙トレイを指定します。

重要

- エミュレーションがRPDL、PostScript 3またはPDFのときに有効です。
- 増設していないトレイを指定しても無効です。

♦ RPDL

- bin=排紙トレイの指定値
  排紙トレイの指定値は機器情報で得られる排紙トレイ番号に対応しています。
  本体排紙トレイ：ST
- 排紙トレイ番号2のトレイに排紙する場合のコマンド例（本機のホスト名hostname、ファイル名file1）
  <rsh> % rsh hostname print bin=2 < file1

<rcp> % rcp file1 hostname:bin=2
<ftp> ftp> put file1 bin=2

♦ PostScript 3、PDF
- outbin= 排紙トレイの指定値（排紙トレイ：指定値）
  本体排紙トレイ：upper、manual

印刷部数

印刷部数を指定します。

重要

- エミュレーションが RPDL、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- 漢字フィルターを指定すると、印刷部数の指定は無効になります。
- PostScript 3 の場合、「qty」と同時に指定しないでください。

♦ copies= 印刷部数（1〜999）
10 部印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname ファイル名 file1）
<rsh> % rsh hostname print copies=10 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:copies=10
<ftp> ftp> put file1 copies=10

ソート部数

ソートする印刷部数を指定します。

重要

- エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- 「copies」と同時に指定しないでください。

♦ qty= ソート部数（1〜999）
10 部ソートして印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）
<rsh> % rsh hostname print qty=10 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:qty=10
<ftp> ftp> put file1 qty=10

両面印刷

用紙の両面に印刷できます。

重要

- エミュレーションがRPDL、PostScript 3、またはPDFのときに有効です。
- プリンター側に両面印刷ユニットが必要です。

♦ RPDL

- bothsideまたはbothleft（左とじ）
  bothright（右とじ）
  flip（上とじ）
  singleside（両面印刷の解除：片面印刷）
- 左とじで両面印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名hostname、ファイル名file1）
  <rsh> % rsh hostname print bothside < file1
  <rcp> % rcp file1 hostname:bothside
  <ftp> ftp> put file1 bothside

♦ PostScript 3、PDF

duplex=on（両面印刷する）
duplex=off（両面印刷しない）

- 両面印刷で綴じ位置を長辺にする場合のコマンド例（本機のホスト名hostname、ファイル名file1）
  <rsh> % rsh hostname print duplex=on < file1
  <rcp> % rcp file1 hostname:duplex=on
  <ftp> ftp> put file1 duplex=on

補足

- RPDLで印刷オプションに漢字フィルターを指定している場合、両面印刷されないことがあります。このようなときは、漢字フィルターの指定をしないでください。
- 印刷データによって印刷したあと両面印刷が解除されないことがあります。次の印刷時にも両面印刷されるときはsinglesideを指定してください。

解像度

印刷する解像度を指定します。お使いの機種によっては、設定できる解像度の指定値が異なります。

重要

- エミュレーションがPostScript 3またはPDFのときに有効です。

♦ resolution= 解像度（400,600,1200）

600dpiで印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名hostname、ファイル名file1）
<rsh> % rsh hostname print resolution=600 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:resolution=600
<ftp> ftp> put file1 resolution=600

usercode

ユーザーコードを指定できます。

◆ **書式**

`usercode = "ユーザーコード"`

◆ **説明**

- ユーザーコードには半角数字 8 文字を指定できます。
- ユーザーコードの前後に "" を指定する必要があります。
- Windows の FTP クライアントの場合、usercode は指定できません。

補足

- OS によってはダブルクォーテーションは送信されないため、バックスラッシュ"¥"(0x5c) などのエスケープ記号が必要となる場合があります。たとえば rsh の場合、次のような書式となります。
  - rsh hostname print usercode=¥"12345¥" < 印刷ファイル
- ftp で出力する場合は次のように大文字で指定する必要があります。
  - ftp> put filename USERCODE=¥"12345¥"

オプション指定の変更方法

lpr で印刷するときにはインストールシェル実行時に指定したオプションが使われます。一度設定したオプションを変更したい場合は、使用しているワークステーションに応じて次のように操作します。

◆ **BSD 系 UNIX ワークステーション**

/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。または、/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを探し、その rp ケーパビリティを新しいオプション指定に変更します。

◆ **Solaris、HP-UX**

変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。プリンターのエントリーを削除するには、以下のように操作します。（例 プリンター名：printer）

1) スケジューラを停止します。

```
# /usr/sbin/lpshut
```

2) プリンターを削除します。

```
# /usr/sbin/lpadmin -x printer
```

3) スケジューラを再起動します。

```
# /usr/lib/lp/lpsched
```

参照

- P.278 「/etc/printcap へのエントリ追加」
- P.279 「Solaris の LP システム」

8

本機の状態表示

BSD 系 UNIX ワークステーションの場合、以下のコマンドを使ってプリンターの状態や情報を表示したりファイルにコピーすることができます。

表示する場合

本機の状態を表示するためのコマンドの説明です。（例 プリンター名：printer、ホスト名：hostname）

- lpq コマンドを使って本機の状態（ステータス）と印刷ジョブ情報を表示できます。
  % lpq -P printer
- rsh、ftp または sftp コマンドを使って、指定したパラメーターに応じた内容を表示できます。
  % rsh hostname パラメーター
  % ftp hostname
  User: ユーザー名
  password: パスワード
  ftp> get パラメーター
- rsh、rcp、ftp で指定できるパラメーターには次の種類があります。
  stat：機器の状態（ステータス）
  stat：印刷ジョブの情報（印刷ジョブ情報）
  info：給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション（機器情報）
  prnlog：これまでに印刷した記録（プリントログ情報）
  syslog：ネットワークインターフェースボードに関して発生したメッセージの記録（システムログ情報）

8

ファイルにコピーする場合

rcp、ftp コマンドまたは sftp を使って、指定したパラメータに応じた内容をファイルにコピーできます。（例 ホスト名：hostname、ファイル名：file1）

```
% rcp hostname：パラメータ file1
% ftp hostname
User: ユーザー名
password:
ftp> get パラメータ file1
```

補足

- パラメータの種類は、表示する場合と同じです。

9. 付録

同梱の CD-ROM や、その他の注意事項等についての説明です。

CD-ROM 収録ソフトウェア

ここでは、本機に同梱されている CD-ROM「ドライバー＆ユーティリティー / 使用説明書」について説明しています。

ファイル一覧

CD-ROM「ドライバー＆ユーティリティー/ 使用説明書」に入っているファイルの一覧です。

ファイル名	参照
SETUP.EXE	P.19 「おすすめインストール」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/ 2003 R2/2008 用 RPCS プリンタードライバー	P.292 「RPCS プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/ 2003 R2/2008 用 PCL6 プリンタードライバー	P.292 「PCL6 プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/ 2003 R2/2008 用 RP-GL/2 プリンタードライバー	P.293 「RP-GL/2 プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/ 2003 R2/2008 用 PS3 プリンタードライバー	P.293 「PS3 プリンタードライバー」
Ridoc Desk Navigator Lt	P.294 「Ridoc Desk Navigator Lt」
各種マニュアル	P.296 「各種マニュアル」

ドライバー（RPCS）

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。RPCS が入っています。

RPCS プリンタードライバー

RPCS プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

♦ **ファイル格納場所**
同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。
`DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1`

♦ **プリンタードライバーの動作環境**

- パソコン
  対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機、NEC PC-9821 シリーズ
- 対象 OS
  Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2/2008 日本語版
- ディスプレイ解像度
  800×600 ドット以上

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

ドライバー（PCL6）

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。PCL6 が入っています。

9

PCL6 プリンタードライバー

PCL6 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

重要

- PCL6 ドライバーを使用して印刷するには、オプションの PCL カードが必要です。

♦ **ファイル格納場所**
同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。
`DRIVERS¥PCL6¥XP_VISTA¥DISK1`

♦ **プリンタードライバーの動作環境**
動作環境についての詳細は、『PCL 編』を参照してください。

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

ドライバー（RP-GL/2）

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。RP-GL/2 が入っています。

重要

- RP-GL/2 ドライバーを使用して印刷するには、マルチエミュレーションカードが必要です。

RP-GL/2 プリンタードライバー

RP-GL/2 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

DRIVERS¥RPGL2¥XP_VISTA¥DISK1

♦ プリンタードライバーの動作環境

動作環境についての詳細は、『RP-GL/2 編』を参照してください。

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

ドライバー（PS3）

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。PS3 が入っています。

PS3 プリンタードライバー

PS3 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

重要

- PS3 ドライバーを使用して印刷するには、オプションの PS3 カードが必要です。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

DRIVERS¥PS¥XP_VISTA¥DISK1

♦ プリンタードライバーの動作環境

動作環境についての詳細は、『PostScript 3 編』を参照してください。

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Ridoc Desk Navigator Lt

Ridoc Desk Navigator Lt は、アプリケーションソフトで作成したファイルや既存のイメージファイルなど、多様なデータを 1 つの文書として管理・印刷することができます。

Ridoc Desk Navigator Lt のインストールと同時に Job Binder 機能もインストールされます。Job Binder 機能では、複数のアプリケーションで作成したファイルや Ridoc Desk Navigator Lt 文書を、Ridoc Desk Navigator Lt の JobBinder フォルダに保存しておき、1 つの文書として印刷したり、プレビュー機能で仕上がり状態を確認しながら保存した印刷データを後でステープル、両面などの指示をかけて印刷することができます。また、印刷する順番を後で変更することもできます。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

`UTILITY¥RIDOCDSK`

♦ Ridoc Desk Navigator Lt の動作環境

- パソコン
  対象 OS が問題なく動作する PC/AT 互換機
- 対象 OS
  Windows 2000/XP/Vista 日本語版
  Windows Server 2003/2003 R2 日本語版
- ディスプレイ解像度
  SVGA 800×600 ドット以上

補足

- NEC PC-9800 シリーズ、PC-9821 シリーズ、PC98-NX シリーズでは動作しません。
- Ridoc Desk 2000 Lt の使い方については、ヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Lt には Ridoc IO Navi も含まれています。Ridoc IO Navi について詳しくは、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

Ridoc IO Navi

Ridoc IO Navi は以下のような機能を備えたソフトウェアです。Ridoc Desk Navigator Lt をインストールする際に、同時にインストールされます。

- Windows XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 から TCP/IP プロトコル、IPP を使用して、Peer-to-Peer ネットワークで印刷する機能を提供します。
- TCP/IP プロトコルを使用してネットワークにある機器の状態を常に監視できる機能を提供します。

♦ どんなことができるのか？

Ridoc IO Navi では以下の操作ができます。

- Peer-to-Peer プリント機能
  - プリントサーバーが無くても、直接ネットワークプリンターに印刷できます。
  - 指定したプリンターにジョブがたまっていたり、エラーが発生して印刷できないとき、代わりのプリンターに印刷できます（代行印刷）。
  - 複数部数の印刷を複数のプリンターに割り振って印刷できます（並行印刷）。
  - 並行／代行印刷に指定するプリンターをあらかじめグループ登録できます。
- 印刷データを転送中または印刷中に指定したプリンターにエラーが発生した場合、エラーメッセージを通知させることができます。
- 機器監視機能
  - 印刷中、用紙切れなど機器の情報をパソコン上で確認できます。
  - 複数台の機器を使い分けているときは、それらを同時に監視できます。
  - 機器のネットワークに関する設定や、オプションに関する詳しい情報を確認できます。
  - ユーザー ID を使ったジョブの履歴を確認できます。
- 印刷が完了したときに、［印刷通知］ウィンドウを表示して、印刷の完了を通知することができます。また代行印刷したときだけ表示させるなど、印刷条件により通知するかどうかを設定することができます。
- 自分が印刷した文書の履歴、印刷中のジョブ状態を一覧で確認できます。
- 印刷ページを、「プレビュー表示」と「ページ一覧表示」の 2 種類の方法で表示することができます。

補足

- 代行印刷／並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターのオプション構成を一致させてください。印刷に必要なオプション（例えばオプションの給紙テーブルなど）が代行プリンターに装着されていない場合、オプションを使用する機能は無効になります。
- 代行印刷／並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターの機種やオプションが違う場合、印刷結果が同じにならないことがあります。
- 試し印刷や機密印刷をする場合、代行印刷／並行印刷はできません。
- Ridoc IO Navi の使いかたについては、同梱の製品マニュアルとヘルプを参照してください。

各種マニュアル

付属の CD-ROM には、HTML 形式と PDF 形式の使用説明書が収録されています。
各種マニュアルのファイル格納場所についての説明です。

HTML 形式の使用説明書

♦ **ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

`MANUAL_HTML`

PDF 形式の使用説明書

♦ **ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

`MANUAL_PDF`

Windows からのファイル直接印刷

Windows でコマンドを使用したファイル直接印刷の方法についての説明です。

重要

- この方法で印刷できるファイルは、本機が搭載しているエミュレーション用に作られたファイルです。エミュレーション用に作られたファイルとは、たとえば PostScript 3 用のポストスクリプトファイルなどです。
- 搭載していないエミュレーションのファイルは印刷できません。

♦ Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2
lpr、rcp、ftp、sftp コマンドを使って印刷できます。

♦ Windows Vista、Windows Server 2008
lpr、ftp、sftp コマンドを使って印刷できます。

セットアップ

Windows からファイル直接印刷するための、環境設定の方法の説明です。

1 本機の操作部で TCP/IP プロトコルを有効にし、IP アドレスなど TCP/IP に関するネットワーク環境を設定します。

本機の TCP/IP プロトコルは、工場出荷時は「有効」に設定されています。

2 Windows に TCP/IP プロトコルを組み込み、ネットワーク環境を設定します。

ネットワークに関する設定内容は管理者の方に確認してください。

3 lpr を使って印刷する場合は、ネットワークソフトウェアとして「UNIX 用印刷サービス」を組み込みます。

補足

- IP アドレスの設定方法については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

参照

- P.304 「DHCP を使用する」
- P.298 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

9

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する

ホスト名が定義されていると、IP アドレスの代わりにホスト名を使ってプリンターを指定することができます。使用するホスト名はネットワーク環境により異なります。

DNS を使用している場合

DNS サーバー上のデータファイルに設定したホスト名を使用します。

DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合

システム設定リストの「プリンター名」に印刷された名前をホスト名として使用します。

補足

- システム設定リストの印刷方法については、「テスト印刷メニュー」を参照してください。

参照

- P.143 「テスト印刷メニュー」

その他の場合

印刷を行うコンピュータの hosts ファイルに、ネットワークプリンターの IP アドレスとホスト名を追加します。追加のしかたは OS により異なります。

1 メモ帳などで hosts ファイルを開きます。

hosts ファイルは以下の場所にあります。

```
¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS
```

¥WINNT は Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2/2008 のインストール先のディレクトリです。

2 hostsファイルにIPv4とIPv6のアドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

IPv4 の場合

```
192.168.15.16  ricoh  # NP
```

192.168.15.16 は IPv4 アドレスの例、ricoh はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

IPv6 の場合

```
2001:DB::100  ricoh  #  NP
```

2001:DB::100 は IPv6 アドレスの例、ricoh はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

3 ファイルを上書き保存します。

補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- IPv6 対応の OS は、Windows XP SP2 と Windows Server 2003/2003 R2/2008、および Windows Vista です。

印刷方法

lpr、rcp、ftp、sftp コマンドを使った印刷方法の説明です。
コマンドはコマンドプロンプト ウィンドウで入力します。各 Windows でのコマンドプロンプトの場所は次のとおりです。

♦ **Windows 2000 の場合：**
［スタート］-［プログラム］-［アクセサリ］-［コマンドプロンプト］

♦ **Windows XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2/2008 の場合：**
［スタート］-［すべてのプログラム］-［アクセサリ］-［コマンドプロンプト］

補足

- 印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- 「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求がフルの状態です。印刷要求が少なくなってから印刷し直してください。各コマンドを使用したときの最大セッション数は次の通りです。
  - lpr：10
  - rcp：5
  - ftp：3
  - sftp：3
- ファイル名はコマンドを実行するディレクトリからのパスを含めた形で入力してください。
- コマンドの中で指定する「オプション」はプリンター固有のオプションで、内容は UNIX から印刷する場合と同様です。UNIX を使ってオプションを指定する方法は、「オプション指定（UNIX）」を参照してください。
- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

参照

- P.281 「オプション指定（UNIX）」

lpr

♦ IP アドレスを使ってプリンターを指定する場合

c:> lpr -Sプリンターの IPアドレス［-Pオプション］［-o l］¥パス名¥ファイル名

♦ IP アドレスの代わりにホスト名を使用する場合

c:> lpr -S プリンターのホスト名 ［-P オプション］［-o l］¥ パス名 ¥ ファイル名

バイナリーファイルを印刷する場合は -o l（小文字の O と、小文字の L）オプションを付けてください。

ホスト名が ricoh のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

c:> lpr -Sricoh -Pfiletype=RPS -o l C:¥PRINT¥file1

♦ 仮想プリンターから印刷する場合

c:> lpr -S プリンターの IP アドレス（またはホスト名）［-P 仮想プリンター名］［-o l］¥ パス名 ¥ ファイル名

補足

- 仮想プリンターの設定については、「仮想プリンターを使用する」を参照してください。

参照

- P.92 「仮想プリンターを使用する」

rcp

あらかじめ hosts ファイルにプリンターのホスト名を登録しておきます。

c:> rcp［-b］¥ パス名 ¥ ファイル名［¥ パス名 ¥ ファイル名 ...］プリンターのホスト名：［オプション］

- ファイル名には「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルを印刷する場合は -b オプションを付けてください。

ホスト名が ricoh のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 と file2 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

c:> rcp -b C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2 ricoh:filetype=RPS

♦ 仮想プリンターから印刷する場合

c:> rcp［-b］¥ パス名 ¥ ファイル名［¥ パス名 ¥ ファイル名 ...］プリンターのホスト名：［仮想プリンター名］

補足

- hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法について詳しくは、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。
- 仮想プリンターの設定については、「仮想プリンターを使用する」を参照してください。

参照

- P.92 「仮想プリンターを使用する」
- P.298 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

9

ftp

印刷するファイル数に応じて put または mput コマンドを使います。

♦ 印刷するファイルが 1 つの場合

```
ftp> put ¥パス名¥ファイル名 [オプション]
```

♦ 印刷するファイルが複数の場合

```
ftp> mput ¥パス名¥ファイル名 [¥パス名¥ファイル名 ...]
```

ftp を起動してから印刷するまでの手順は次のようになります。

1 本機の IP アドレス（または hosts ファイルに設定したプリンターのホスト名）を引数にして ftp コマンドを起動します。

```
% ftp 本機のアドレス
```

2 ユーザー名とパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

```
User:
Password:
```

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ユーザー名にログインユーザー名を、パスワードにログインパスワードを入力します。

3 バイナリーファイルを印刷するときは、ファイルのモードをバイナリーモードにします。

```
ftp> bin
```

4 印刷するファイルを指定します。

以下は C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前の PostScript ファイルを印刷する例と、file1 と file2 を印刷する例です。

```
ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=RPS
ftp> mput  C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2
```

5 ftp を終了します。

```
ftp> bye
```

補足

- ファイル名に「=」、「,」、「_」および「;」は使用できません。ファイル名をオプション文字列と判断してしまいます。
- mput コマンドではオプションを指定できません。
- pwd コマンドではオプションを指定できません。
- mput コマンドではファイル名に「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。
- C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前のファイルを PCL6 で印刷する例
  ```
  ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=R00
  ```
- C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 と file2 という名前のファイルを印刷する例
  ```
  ftp> mput C:¥PRINT¥file1 file2
  ```

9

sftp

sftp コマンドをご使用の場合は、クライアントソフトが必要です。
クライアントソフトは、ssh ver2 に準拠した物をご使用ください。

重要

- 全てのクライアントが利用できるわけではありません。

1 **クライアントソフトを起動します。**

[psftp>open " ホスト名 "] と表示されます。

2 **ホスト名を入力し、[Enter] キーを押します。**

[Login as :" ユーザー名 "] と表示されます。

3 **ユーザー名を入力し、[Enter] キーを押します。**

初回アクセス時は [Store key in cache? (y/n)] と表示されるので、鍵情報と鍵を保管する（y）かしないか（n）を選択し、[Enter] キーを押します。
" ユーザー名 " と " ホスト名 " は入力した名称で表示されます。

4 **パスワードを入力し、[Enter] キーを押します。**

パスワードは入力しても表示されません。

補足

- 詳しい手順については、クライアントソフトのヘルプまたは取扱説明書をご覧ください。

Windows ターミナルサービス／ Citrix Presentation Server ／ Citrix Xen App を使用する場合

詳細については、以下のリコーのホームページを参照してください。

♦ **対応状況について**
http://ricoh.co.jp/IPSiO/os/meta.html

♦ **制約事項と補足について**
http://ricoh.co.jp/IPSiO/os/meta_sub.html

DHCP を使用する

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

- 動作対象の DHCP サーバーは、Windows Server 2003/2003 R2、Windows 2000 Server および UNIX に標準添付されている DHCP サーバーです。
- 本機が DHCP から取得した IP アドレスは、システム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- WINS サーバーを使用する場合は、「WINS サーバーを使用する場合」を参照して WINS サーバーを設定してください。
- WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。
- WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IP アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IP アドレスを DHCP サーバーで予約してください。
- 複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。
- ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

参照

- P.145 「システム設定リストを印刷する」
- P.305 「WINS サーバーを使用する場合」

AutoNet 機能を使用する

9

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

AutoNet 機能を使用するために、telnet で AutoNet の設定を「on」にしてください。

補足

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。
- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。ただし、Mac OS X 10.2.3 以降が稼働している Macintosh とは通信できます。

参照

- P.145 「システム設定リストを印刷する」
- P.205 「autonet」

WINS サーバーを使用する場合

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS（Windows Internet Name Service）サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Ridoc IO Navi のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。
ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。
サポートする WINS サーバーは、Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。
WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。
WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。
登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザーを使用する方法

1 **Web ブラウザーを起動します。**

2 **Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

Web Image Monitor のトップページが表示されます。

3 **［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードを入力するダイアログが表示されます。

4 **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードについては管理者にお尋ねください。

5 **メニューエリアの［設定］をクリックし、［ネットワーク］エリアの［IPv4］をクリックします。**

6 **［イーサネット+無線 LAN］欄の［WINS］が「有効」になっていることを確認し、［プライマリー WINS サーバー］と［セカンダリー WINS サーバー］にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。**

7 **［OK］をクリックします。**

8 **Web ブラウザーを終了します。**

telnet を使用する方法

telnet でも WINS の設定ができます。

参照

・P.201 「telnet を使う」

9

ダイナミック DNS 機能を使用する

ダイナミック DNS とは、DNS サーバーが管理しているレコード（A レコード、AAAA レコード、CNAME レコードおよび PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバーがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。
ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバーで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。
本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバーの設定が次のどちらかになっている必要があります。
・セキュリティー設定がされていない
・セキュリティー設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

♦ 静的 IPv4 設定の場合

IPv4 アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコード、および PTR レコードを更新します。
また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。
・イーサネット、無線 LAN の場合
RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）
ただし、ホスト名が CNAME と同じ（RNPXXXXXX）場合は、CNAME は登録されません。

♦ DHCPv4 設定の場合

DHCPv4 サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。
・本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、DHCPv4 サーバーが A レコードと PTR レコードを更新
・本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCPv4 サーバーが PTR レコードを更新
A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。
・イーサネット、無線 LAN の場合
RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）

♦ IPv6 設定

本機が AAAA レコードおよび PTR レコードを更新します。
また、AAAA レコードを更新する際に、CNAME も登録します。
ステートレスアドレスが新たに設定された場合は、DNS サーバーに追加登録されます。

補足

・メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG(0)）はサポートしていません。

9

動作対象の DNS サーバー

♦ 静的 IPv4 設定の場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

♦ DHCPv4 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

♦ DHCPv4 設定の場合で、DHCP サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

♦ IP v 6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2/2008 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCP サーバー

本機の代理で A レコード、および PTR レコードを更新することができる DHCPv4 サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server（Service Pack 3 以降）に標準添付の Microsoft DHCPv4 サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降

ダイナミック DNS 機能の設定方法

telnet で dns コマンドを使用して設定します。

参照

- P.210 「dns」

使用上の注意

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続している場合

リコー製のネットワークユーティリティーには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティーの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

拡張無線 LAN ボードを取り付けているとき

拡張無線 LAN ボードを使ってネットワークに接続しているときは、次のことに注意してください。

♦ **ネットワークの電波状態が悪いとき**

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

・本機とアクセスポイントを近づける。
・アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
・アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

補足

・アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

本機でできるセキュリティー対策

ここでは本機でできるセキュリティー強化について説明しています。
本章の設定を行うことが出来るのは管理者となります。

認証機能の利用とユーザー管理

重要

- 管理者認証、ユーザーコード認証以外の認証機能を使用するには、拡張 HDD が必要です。

◆ 認証機能の設定

本機の正しい管理者、また正しいユーザーであることを確認するために、ログインユーザー名とログインパスワードを使用した管理者認証、ユーザー認証を行います。認証を行うためには本体の初期設定で、認証機能を有効に設定する必要があります。

◆ ログイン認証情報を設定する

ユーザーは本機のアドレス帳に登録された個人情報によって管理されます。ユーザー認証を有効に設定することで、アドレス帳に登録されたユーザーのみを機器の利用者として設定することができます。

◆ 使用できる機能を設定する

登録されたユーザーに対して、使用できる機能を設定します。この設定により、ユーザーの使用できる機能を制限することができます。

情報の漏洩を防ぐ

◆ 文書の複製を抑止する

不正コピー抑止機能を使用し、不正コピーを抑止するために文字列の地紋をつけて印刷できます。

◆ 文書の複製をガードする

コピーガード機能を使用し、不正コピーをガードするために地紋を背景全体につけて印刷できます。
不正コピーガード文書を弊社の複写機／複合機でコピーや蓄積をしたときに、文書をグレー地にする効果を得るためには、オプションの不正コピーガードモジュールが必要です。

◆ 文書を他人に見せないように印刷する

機密印刷機能を使用し、出力文書を機密文書として本機に蓄積してから印刷します。本機の操作パネルで印刷を指示し、印刷した文書をすぐに本人が回収するため、他人に見られることを防止することができます。

◆ アドレス帳の登録情報を保護する

アドレス帳のデータに対して、ユーザーのアクセス権を設定することができます。登録されたユーザー以外の第三者によるアドレス帳のデータの不正利用を防止することができます。
また、アドレス帳のデータを暗号化し、データの読み取りを防止することができます。

♦ ログ情報の管理

本機に記憶されたログを消去することでデータの漏洩を防止したり、ログデータを転送することで、不正読み取り履歴や読み取り者の確認ができます。
ログデータを転送するためには Ridoc IO OperationServer が必要です。

♦ 蓄積データを暗号化する

本機に蓄積されるデータを暗号化して、情報の漏洩を防止します。
蓄積データを暗号化するためには、オプションの蓄積文書暗号化カードが必要です。

♦ ハードディスクのデータを上書き消去する

本機を廃棄するときに、拡張 HDD に蓄積されていたすべてのデータを上書き消去することや、一時的に保存していたデータを自動で上書き消去することで、データ漏洩を防止することができます。
拡張 HDD のデータを上書き消去するためには、オプションのセキュリティーカードが必要です。

アクセスの制限と管理

♦ 機器設定の変更を防止する

本機の各種機能の設定項目は、管理者の種類によって設定できる項目が異なります。また、管理者が設定すべき項目は、ユーザーでは変更できません。
管理者を登録して本機を運用します。

♦ 機能の使用を制限する

本機の各種機能に対してユーザーのアクセス権を設定し、第三者による不正操作の介入を防止することができます。

ネットワークのセキュリティー強化

♦ 不正なアクセスを防止する

IP アドレスに制限をかけたり、ポートを無効に設定することによって、ネットワーク上での不正アクセスを防止し、アドレス帳や蓄積文書、初期設定のデータなどを保護することができます。

♦ パスワードを暗号化通信する

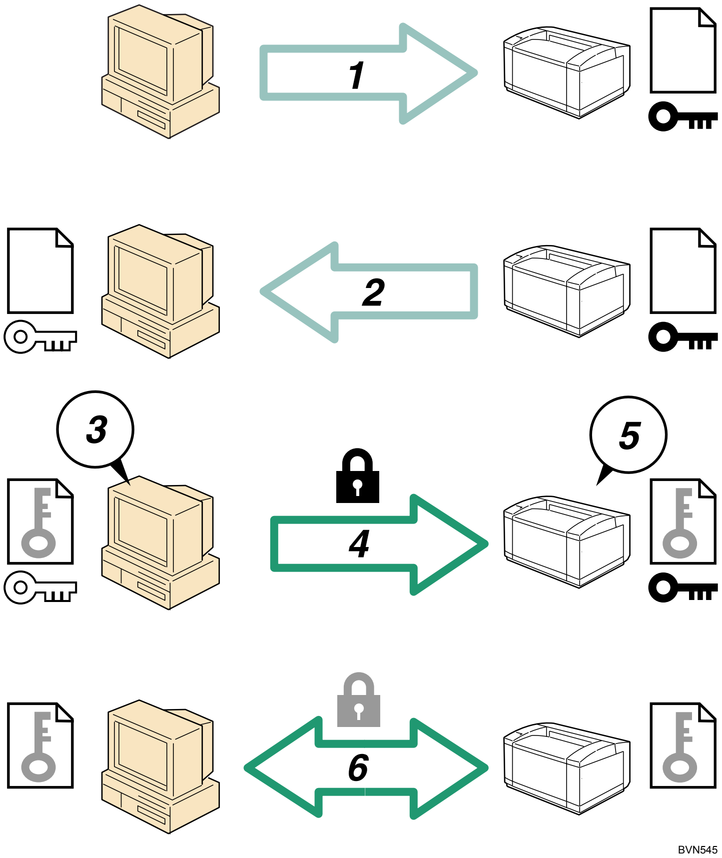
ログインパスワード、PDF 文書のグループパスワード、および IPP 認証のパスワードを暗号化通信し、パスワードを解析される脅威から保護することができます。

♦ 通信経路の保護と暗号化通信

本機では SSL、SNMPv3、IPsec を使用して暗号化通信を確立することができます。通信経路の保護や通信データの暗号化を行うことで、通信途中でのデータの盗聴、内容の解析、改ざんを防止することができます。

SSL（暗号化通信）の概要

通信経路の保護と暗号化通信ができるように、サーバー証明書を作成、導入します。
サーバー証明書は、機器自身で作成、導入する自己証明書と、任意の認証局に証明書を申請し機器に導入する 2 つの運用形態があります。



1) ユーザーのパソコンから本機へアクセスするとき、SSL のサーバー証明書と公開鍵を要求します。
2) 本機からユーザーのパソコンへサーバー証明書と公開鍵が送られます。
3) PC で共通鍵を生成し、公開鍵を使用して暗号します。
4) 暗号化された共通鍵が本機に送られます。
5) 本機で秘密鍵を使用し、暗号化された共通鍵が復号化されます。
6) 共通鍵を使用してデータを暗号化し、相手側で復号する安全な通信を実現します。

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

expat について

本製品に搭載しているコントローラなどのソフトウェア（以下、ソフトウェア）には expat を下記の条件のもとで使用しています。

・expat　を含むソフトウェアに関するサポートと保証等は株式会社リコーが行うものであり、expat の作者および著作権者には一切の責任および義務はありません。

補足

・expat に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。
http://expat.sourceforge.net/

NetBSD について

[I] Copyright Notice of NetBSD

For all users to use this product: This product contains NetBSD operating system:

For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.

The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.

A full source code can be found at http://www.netbsd.org/.

Copyright (c) 1996-2005 The NetBSD Foundation, Inc.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE

[II] Authors Name List

All product names mentioned herein are trademarks or registered trade-marks of their respective owners.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

This product includes software developed by the University of California,Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by the NetBSD Foundation.

This product includes software developed by The NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.
This product includes software developed for the NetBSD Project. See http://www.netbsd.org/ for information about NetBSD.
This product contains software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD project.
This product contains software written by Ignatios Souvatzis and MichaelL. Hitch for the NetBSD project.
This product contains software written by Michael L. Hitch for the NetBSD project.
This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@cryptsoft.com)
This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@mincom.oz.au)
This product includes software designed by William Allen Simpson.
This product includes software developed at Ludd, University of Lulea,Sweden and its contributors.
This product includes software developed at Ludd, University of Lulea.
This product includes software developed at the Information Technology Division, US Naval Research Laboratory.
This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
This product includes software developed by David Jones and Gordon Ross
This product includes software developed by Gordon W. Ross and Leo Weppelman.
This product includes software developed by Hellmuth Michaelis and Joerg Wunsch
This product includes software developed by Internet Research Institute, Inc.
This product includes software developed by Leo Weppelman and Waldi Ravens.
This product includes software developed by Mika Kortelainen
This product includes software developed by Aaron Brown and Harvard University.
This product includes software developed by Adam Ciarcinski for the NetBSD project.
This product includes software developed by Adam Glass and Charles M.Hannum.
This product includes software developed by Adam Glass.
This product includes software developed by Advanced Risc Machines Ltd.
This product includes software developed by Alex Zepeda, and Colin Wood for the NetBSD Projet.
This product includes software developed by Alex Zepeda.
This product includes software developed by Alistair G. Crooks.
This product includes software developed by Alistair G. Crooks. for the NetBSD project.
This product includes software developed by Allen Briggs
This product includes software developed by Amancio Hasty and Roger Hardiman
This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
This product includes software developed by Bill Paul.
This product includes software developed by Bodo Moeller. (If available, substitute umlauted o for oe)
This product includes software developed by Boris Popov.
This product includes software developed by Brad Pepers
This product includes software developed by Bradley A. Grantham.
This product includes software developed by Brini.
This product includes software developed by Causality Limited.
This product includes software developed by Charles D. Cranor and Seth Widoff.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Washington University.
This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, and the University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, the University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by Charles D. Cranor.
This product includes software developed by Charles Hannum.
This product includes software developed by Charles M. Hannum, by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A.Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California,Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.
This product includes software developed by Charles M. Hannum.
This product includes software developed by Christian E. Hopps, Ezra Story, Kari Mettinen, Markus Wild, Lutz Vieweg and Michael Teske.
This product includes software developed by Christian E. Hopps.
This product includes software developed by Christian Limpach
This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.
This product includes software developed by Christos Zoulas.
This product includes software developed by Chuck Silvers.
This product includes software developed by Colin Wood for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Colin Wood.
This product includes software developed by Cybernet Corporation and Nan Yang Computer Services Limited
This product includes software developed by Daishi Kato
This product includes software developed by Dale Rahn.
This product includes software developed by Daniel Widenfalk and Michael L. Hitch.
This product includes software developed by Daniel Widenfalk for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Darrin B. Jewell
This product includes software developed by David Miller.
This product includes software developed by Dean Huxley.
This product includes software developed by Eduardo Horvath.
This product includes software developed by Eric S. Hvozda.
This product includes software developed by Eric S. Raymond
This product includes software developed by Eric Young (eay@@mincom.oz.au)
This product includes software developed by Eric Young (eay@cryptsoft.com)
This product includes software developed by Eric Young (eay@mincom.oz.au)
This product includes software developed by Ezra Story and by Kari Mettinen.
This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen and by Bernd Ernesti.
This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, Michael Teske and by Bernd Ernesti.
This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, and Michael Teske.
This product includes software developed by Ezra Story.
This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Gardner Buchanan.

This product includes software developed by Gary Thomas.
This product includes software developed by Gordon Ross
This product includes software developed by Gordon W. Ross
This product includes software developed by HAYAKAWA Koichi.
This product includes software developed by Harvard University and its contributors.
This product includes software developed by Harvard University.
This product includes software developed by Herb Peyerl.
This product includes software developed by Hubert Feyrer for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Iain Hibbert
This product includes software developed by Ian F. Darwin and others.
This product includes software developed by Ian W. Dall.
This product includes software developed by Ichiro FUKUHARA.
This product includes software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Internet Initiative Japan Inc.
This product includes software developed by James R. Maynard III.
This product includes software developed by Jared D. McNeill.
This product includes software developed by Jason L. Wright
This product includes software developed by Jason R. Thorpe for And Communications, http://www.and.com/
This product includes software developed by Joachim Koenig-Baltes.
This product includes software developed by Jochen Pohl for The NetBSD Project.
This product includes software developed by Joerg Wunsch
This product includes software developed by John Birrell.
This product includes software developed by John P. Wittkoski.
This product includes software developed by John Polstra.
This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Jonathan Stone.
This product includes software developed by Jukka Marin.
This product includes software developed by Julian Highfield.
This product includes software developed by Kazuhisa Shimizu.
This product includes software developed by Kazuki Sakamoto.
This product includes software developed by Kenneth Stailey.
This product includes software developed by Kiyoshi Ikehara.
This product includes software developed by Klaus Burkert,by Bernd Ernesti, by Michael van Elst, and by the University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by LAN Media Corporation and its contributors.
This product includes software developed by Leo Weppelman for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Leo Weppelman.
This product includes software developed by Lloyd Parkes.
This product includes software developed by Luke Mewburn.
This product includes software developed by Lutz Vieweg.
This product includes software developed by MINOURA Makoto, Takuya Harakawa.
This product includes software developed by Manuel Bouyer.
This product includes software developed by Marc Horowitz.

This product includes software developed by Marcus Comstedt.
This product includes software developed by Mark Brinicombe for the NetBSD project.
This product includes software developed by Mark Brinicombe.
This product includes software developed by Mark Murray
This product includes software developed by Mark Tinguely and Jim Lowe
This product includes software developed by Markus Wild.
This product includes software developed by Martin Husemann and Wolfgang Solfrank.
This product includes software developed by Masanobu Saitoh.
This product includes software developed by Masaru Oki.
This product includes software developed by Mats O Jansson and Charles D.Cranor.
This product includes software developed by Mats O Jansson.
This product includes software developed by Matt DeBergalis
This product includes software developed by Matthew Fredette.
This product includes software developed by Matthias Pfaller.
This product includes software developed by Michael Graff for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Michael Graff.
This product includes software developed by Michael L. Hitch.
This product includes software developed by Michael Shalayeff.
This product includes software developed by Michael Smith.
This product includes software developed by Mike Glover and contributors.
This product includes software developed by Mike Pritchard.
This product includes software developed by Minoura Makoto.
This product includes software developed by Nan Yang Computer Services Limited.
This product includes software developed by Niels Provos.
This product includes software developed by Niklas Hallqvist, Brandon Creighton and Job de Haas.
This product includes software developed by Niklas Hallqvist.
This product includes software developed by Onno van der Linden.
This product includes software developed by Paul Kranenburg.
This product includes software developed by Paul Mackerras.
This product includes software developed by Per Fogelstrom
This product includes software developed by Peter Galbavy.
This product includes software developed by Phase One, Inc.
This product includes software developed by Philip A. Nelson.
This product includes software developed by Philip L. Budne.
This product includes software developed by RiscBSD.
This product includes software developed by Roar Thronaes.
This product includes software developed by Rodney W. Grimes.
This product includes software developed by Roger Hardiman
This product includes software developed by Roland C. Dowdeswell.
This product includes software developed by Rolf Grossmann.
This product includes software developed by Ross Harvey for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Ross Harvey.
This product includes software developed by Scott Bartram.
This product includes software developed by Scott Stevens.
This product includes software developed by Shingo WATANABE.

This product includes software developed by Softweyr LLC, the University of California, Berkeley, and its contributors.
This product includes software developed by Soren S. Jorvang.
This product includes software developed by Stephan Thesing.
This product includes software developed by Steve Woodford.
This product includes software developed by Takashi Hamada
This product includes software developed by Takumi Nakamura.
This product includes software developed by Tatoku Ogaito for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Terrence R. Lambert.
This product includes software developed by Tetsuya Isaki.
This product includes software developed by Thomas Gerner
This product includes software developed by Thomas Klausner for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Tobias Weingartner.
This product includes software developed by Todd C. Miller.
This product includes software developed by Tohru Nishimura and Reinoud Zandijk for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Tohru Nishimura for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Tohru Nishimura. for the NetBSD Project.
This product includes software developed by TooLs GmbH.
This product includes software developed by Toru Nishimura.
This product includes software developed by Trimble Navigation, Ltd.
This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.
This product includes software developed by Waldi Ravens.
This product includes software developed by Wasabi Systems for Zembu Labs, Inc. http://www.zembu.com/
This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.
This product includes software developed by Wolfgang Solfrank.
This product includes software developed by Yasushi Yamasaki
This product includes software developed by Zembu Labs, Inc.
This product includes software developed by the Alice Group.
This product includes software developed by the Center for Software Science at the University of Utah.
This product includes software developed by the Charles D. Cranor, Washington University, University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by the Computer Systems Engineering Group at Lawrence Berkeley Laboratory.
This product includes software developed by the David Muir Sharnoff.
This product includes software developed by the Harvard University and its contributors.
This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Hogskolan and its contributors.
This product includes software developed by the Network Research Group at Lawrence Berkeley Laboratory.
This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit.
(http://www.OpenSSL.org/)
This product includes software developed by the PocketBSD project and its contributors.

This product includes software developed by the RiscBSD kernel team
This product includes software developed by the RiscBSD team.
This product includes software developed by the SMCC Technology Development Group at Sun Microsystems, Inc.
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors, as well as the Trustees of Columbia University.
This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.
This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory.
This product includes software developed by the University of Illinois at Urbana and their contributors.
This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman.
This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California, Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.
This product includes software developed for the FreeBSD project
This product includes software developed for the NetBSD Project by Bernd Ernesti.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Christopher G. Demetriou.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Christos Zoulas
This product includes software developed for the NetBSD Project by Emmanuel Dreyfus.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden
This product includes software developed for the NetBSD Project by Ignatios Souvatzis.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.
This product includes software developed for the NetBSD Project by John M. Vinopal.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Matthias Drochner.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Michael L. Hitch.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Perry E. Metzger.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Scott Bartram and Frank van der Linden
This product includes software developed for the NetBSD Project by Allegro Networks, Inc., and Wasabi Systems, Inc.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Genetec Corporation.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Jonathan Stone.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Piermont Information Systems Inc.
This product includes software developed for the NetBSD Project by SUNET,Swedish University Computer Network.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Shigeyuki Fukushima.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.
This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom Opsycon AB for RTMX Inc, North Carolina, USA.
This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom.
This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz,TeleMuse.

This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems.
"Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).
This software includes software developed by the Computer Systems Labora-tory at the University of Utah.
This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/).
This product includes software developed by Allen Briggs.
In the following statement, "This software" refers to the Mitsumi CD-ROM driver:
This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems.
"Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD" , "FreeBSD" , "Mach" (by CMU).
In the following statement, "This software" refers to the parallel port driver:
This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

FreeBSD 4.6.2 について

Sablotron (Version 0.82)

a) The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 (hereinafter, “Sablotron 0.82”), with modifications made by the product manufacturer.
The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer, and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.
b) The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.
c) The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 (hereinafter, “MPL 1.1”), and the application software of this product constitutes the “Larger Work” as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement(s).
d) The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at: http://supportdownload. com/services/device/sablot/notice082.html
e) The source code of the Sablotron software is available at: http://www.gingerall.com
f) MPL 1.1 is available at: http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html

JPEG LIBRARY

The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

SASL

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2.Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3.The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission.

For permission or any other legal details, please contact:

Office of Technology Transfer
Carnegie Mellon University
5000 Forbes Avenue
Pittsburgh, PA 15213-3890
(412) 268-4387, fax: (412) 268-7395
tech-transfer@andrew.cmu.edu

4.Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

RSA BSAFE®

- This product includes RSA BSAFE® cryptographic or security protocol software from RSA Security Inc.
- RSA is a registered trademark and BSAFE is a registered trademark of RSA Security Inc. in the United States and/or other countries.
-

Open SSL

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact opensslcore@ openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN 11NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay®cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay®cryptsoft.com) All rights reserved.
This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay®cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay®cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e this code cannot simply be copied and put under another distribution licence ［including the GNU Public Licence.］

Open SSH

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1)

Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen <ylo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland All rights reserved As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

[Tatu continues]

However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most restrictive); see below for details.

However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated
- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "http://www.cs.hut.fi/crypto".

The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

9

NO WARRANTY
BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)
The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

Cryptographic attack detector for ssh -source code
Copyright (c) 1998 CORE SDI S.A., Buenos Aires, Argentina.
All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this copyright notice is retained.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CORE SDI S.A. BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY OR CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM THE USE OR MISUSE OF THIS SOFTWARE.
Ariel Futoransky <futo@core-sdi.com>
<http://www.core-sdi.com>

3)
One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.
Copyright (c) 1983, 1990, 1992, 1993, 1995

The Regents of the University of California. All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

4)
Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl
Theo de Raadt
Niels Provos
Dug Song
Kevin Steves
Daniel Kouril
Wesley Griffin
Per Allansson
Jason Downs
Solar Designer
Todd C. Miller
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)
Portable OpenSSH contains the following additional licenses:
c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller
Theo de Raadt
Damien Miller
Eric P. Allman
The Regents of the University of California

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Open LDAP

Heimdal

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

IPS™ print language emulations

AppleTalk

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of The University of Michigan not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. This software is supplied as is without expressed or implied warranties of any kind.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

SPX/IPX

Copyright (c) 1984, 1985, 1986, 1987, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.
Modifications Copyright (c) 1995, Mike Mitchell
Modifications Copyright (c) 1995, John Hay

WPA Supplicant

Copyright (c) 2003-2009, Jouni Malinen <j@w1.fi> and contributors All Rights Reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and /or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name (s) of the above-listed copyright holder (s) nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.
IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

nana

ILU

racoon

TrouSerS

THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.

1. DEFINITIONS

"Contribution" means:

a) in the case of the initial Contributor, the initial code and documentation distributed under this Agreement, and

b) in the case of each subsequent Contributor:

i) changes to the Program, and

ii) additions to the Program;

where such changes and/or additions to the Program originate from and are distributed by that particular Contributor. A Contribution 'originates' from a Contributor if it was added to the Program by such Contributor itself or anyone acting on such Contributor's behalf. Contributions do not include additions to the Program which: (i) are separate modules of software distributed in conjunction with the Program under their own license agreement, and (ii) are not derivative works of the Program.

"Contributor" means any person or entity that distributes the Program.

"Licensed Patents " mean patent claims licensable by a Contributor which are necessarily infringed by the use or sale of its Contribution alone or when combined with the Program.

"Program" means the Contributions distributed in accordance with this Agreement.

"Recipient" means anyone who receives the Program under this Agreement, including all Contributors.

2. GRANT OF RIGHTS

a) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce, prepare derivative works of, publicly display, publicly perform, distribute and sublicense the Contribution of such Contributor, if any, and such derivative works, in source code and object code form.

b) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under Licensed Patents to make, use, sell, offer to sell, import and otherwise transfer the Contribution of such Contributor, if any, in source code and object code form. This patent license shall apply to the combination of the Contribution and the Program if, at the time the Contribution is added by the Contributor, such addition of the Contribution causes such combination to be covered by the Licensed Patents. The patent license shall not apply to any other combinations which include the Contribution. No hardware per se is licensed hereunder.

c) Recipient understands that although each Contributor grants the licenses to its Contributions set forth herein, no assurances are provided by any Contributor that the Program does not infringe the patent or other intellectual property rights of any other entity. Each Contributor disclaims any liability to Recipient for claims brought by any other entity based on infringement of intellectual property rights or otherwise. As a condition to exercising the rights and licenses granted hereunder, each Recipient hereby assumes sole responsibility to secure any other intellectual property rights needed, if any. For example, if a third party patent license is required to allow Recipient to distribute the Program, it is Recipient's responsibility to acquire that license before distributing the Program.

d) Each Contributor represents that to its knowledge it has sufficient copyright rights in its Contribution, if any, to grant the copyright license set forth in this Agreement.

3. REQUIREMENTS

A Contributor may choose to distribute the Program in object code form under its own license agreement, provided that:

a) it complies with the terms and conditions of this Agreement; and

b) its license agreement:

i) effectively disclaims on behalf of all Contributors all warranties and conditions, express and implied, including warranties or conditions of title and non-infringement, and implied warranties or conditions of merchantability and fitness for a particular purpose;

ii) effectively excludes on behalf of all Contributors all liability for damages, including direct, indirect, special, incidental and consequential damages, such as lost profits;

iii) states that any provisions which differ from this Agreement are offered by that Contributor alone and not by any other party; and

iv) states that source code for the Program is available from such Contributor, and informs licensees how to obtain it in a reasonable manner on or through a medium customarily used for software exchange.

When the Program is made available in source code form:

a) it must be made available under this Agreement; and

b) a copy of this Agreement must be included with each copy of the Program.

Contributors may not remove or alter any copyright notices contained within the Program.

Each Contributor must identify itself as the originator of its Contribution, if any, in a manner that reasonably allows subsequent Recipients to identify the originator of the Contribution.

4. COMMERCIAL DISTRIBUTION

Commercial distributors of software may accept certain responsibilities with respect to end users, business partners and the like. While this license is intended to facilitate the commercial use of the Program, the Contributor who includes the Program in a commercial product offering should do so in a manner which does not create potential liability for other Contributors. Therefore, if a Contributor includes the Program

in a commercial product offering, such Contributor ("Commercial Contributor") hereby agrees to defend and indemnify every other Contributor ("Indemnified Contributor") against any losses, damages and costs (collectively "Losses") arising from claims, lawsuits and other legal actions brought by a third party against the Indemnified Contributor to the extent caused by the acts or omissions of such Commercial Contributor in connection with its distribution of the Program in a commercial product offering. The obligations in this section do not apply to any claims or Losses relating to any actual or alleged intellectual property infringement. In order to qualify, an Indemnified Contributor must: a) promptly notify the Commercial Contributor in writing of such claim, and b) allow the Commercial Contributor to control, and cooperate with the Commercial Contributor in, the defense and any related settlement negotiations. The Indemnified Contributor may participate in any such claim at its own expense.

For example, a Contributor might include the Program in a commercial product offering, Product X. That Contributor is then a Commercial Contributor. If that Commercial Contributor then makes performance claims, or offers warranties related to Product X, those performance claims and warranties are such Commercial Contributor's responsibility alone. Under this section, the Commercial Contributor would have to defend claims against the other Contributors related to those performance claims and warranties, and if a court requires any other Contributor to pay any damages as a result, the Commercial Contributor must pay those damages.

5. NO WARRANTY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, THE PROGRAM IS PROVIDED ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTIES OR CONDITIONS OF TITLE, NONINFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Each Recipient is solely responsible for determining the appropriateness of using and distributing the Program and assumes all risks associated with its exercise of rights under this Agreement, including but not limited to the risks and costs of program errors, compliance with applicable laws, damage to or loss of data, programs or equipment, and unavailability or interruption of operations.

6. DISCLAIMER OF LIABILITY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, NEITHER RECIPIENT NOR ANY CONTRIBUTORS SHALL HAVE ANY LIABILITY FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING WITHOUT LIMITATION LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

7. GENERAL

If any provision of this Agreement is invalid or unenforceable under applicable law, it shall not affect the validity or enforceability of the remainder of the terms of this Agreement, and without further action by the parties hereto, such provision shall be reformed to the minimum extent necessary to make such provision valid and enforceable.

If Recipient institutes patent litigation against a Contributor with respect to a patent applicable to software (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit), then any patent licenses granted by that Contributor to such Recipient under this Agreement shall terminate as of the date such litigation is filed. In addition, if Recipient institutes patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Program itself (excluding combinations of the Program with other software or hardware) infringes such Recipient's patent(s), then such Recipient's rights granted under Section 2(b) shall terminate as of the date such litigation is filed.

All Recipient's rights under this Agreement shall terminate if it fails to comply with any of the material terms or conditions of this Agreement and does not cure such failure in a reasonable period of time after becoming aware of such noncompliance. If all Recipient's rights under this Agreement terminate, Recipient agrees to cease use and distribution of the Program as soon as reasonably practicable. However, Recipient's obligations under this Agreement and any licenses granted by Recipient relating to the Program shall continue and survive.

Everyone is permitted to copy and distribute copies of this Agreement, but in order to avoid inconsistency the Agreement is copyrighted and may only be modified in the following manner. The Agreement Steward reserves the right to publish new versions (including revisions) of this Agreement from time to time. No one other than the Agreement Steward has the right to modify this Agreement. IBM is the initial Agreement Steward. IBM may assign the responsibility to serve as the Agreement Steward to a suitable separate entity.

Each new version of the Agreement will be given a distinguishing version number. The Program (including Contributions) may always be distributed subject to the version of the Agreement under which it was received. In addition, after a new version of the Agreement is published, Contributor may elect to distribute the Program (including its Contributions) under the new version. Except as expressly stated in Sections 2 (a) and 2(b) above, Recipient receives no rights or licenses to the intellectual property of any Contributor under this Agreement, whether expressly, by implication, estoppel or otherwise. All rights in the Program not expressly granted under this Agreement are reserved.

This Agreement is governed by the laws of the State of New York and the intellectual property laws of the United States of America. No party to this Agreement will bring a legal action under this Agreement more than one year after the cause of action arose. Each party waives its rights to a jury trial in any resulting litigation.

補足

- 本製品に搭載している TrouSerS(Version 0.27) に関するソースコードは、次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://www.ricoh.com/support/trousers/index.html
- TrouSerS は sourceforge の CVS でバージョン管理されています。ソースコードの入手方法については次の URL が示す WWW サイトでご確認ください。http://sourceforge.net/cvs/?group_id=126012

Samba(Ver 3.0.4)

For SMB transmission, this machine uses Samba ver 3.0.4 (hereinafter referred to as Samba 3.0.4).

Copyright (c) Andrew Tridgell 1994-1998

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.

補足

- The source code for SMB transmission by this machine can be downloaded from the following website: http://support-download.com/services/scbs

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USAEveryone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price.

Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have.

You must make sure that they, too, receive or can get the source code.

And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents.

We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language.(Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.
6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.
7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.
If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.
It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.
This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.
8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.
Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and a brief idea of what it does.Copyright (C)

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

索引

アルファベット索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

商標

- Adobe、Acrobat、Acrobat Reader、Adobe Reader、PostScript は、Adobe Systems Incorporated （アドビ システムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、AppleTalk、Macintosh、Mac OS、Mac OS X、Safari、および Bonjour は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- BMLinkS は、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会の登録商標です。
- Citrix®、MetaFrame は、Citrix Systems, Inc. の登録商標です。
- IBM は、米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、MS-DOS®、Windows Server®、Windows Vista® は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
- Monotype は Monotype Imaging, Inc. の登録商標です。
- NEC は、NEC Corporation の登録商標です。
- PCL は、米国ヒューレット・パッカード社の登録商標です。
- OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.
- Solaris は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- UNIX は、The Open Group の米国並びに他の国々における登録商標です。
- UPnP™ is a trademark of the UPnP Implementers Corporation.
- その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

* MS-DOS の製品名は Microsoft® MS-DOS® です。

* Windows 2000 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® 2000 Professional
  Microsoft® Windows® 2000 Server
  Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server

* Windows XP の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® XP Professional
  Microsoft® Windows® XP Home Edition
  Microsoft® Windows® XP Media Center Edition
  Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition

* Windows Vista の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Vista® Ultimate
  Microsoft® Windows Vista® Business
  Microsoft® Windows Vista® Home Premium
  Microsoft® Windows Vista® Home Basic
  Microsoft® Windows Vista® Enterprise

* Windows Server 2003 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition
  Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition
  Microsoft® Windows Server® 2003 Web Edition
  Microsoft® Windows Server® 2003 Datacenter Edition

* Windows Server 2003 R2 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition
  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition
  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Datacenter Edition

* Windows Server 2008 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft ® Windows Server® 2008 Standard
  Microsoft ® Windows Server® 2008 Enterprise
  Microsoft ® Windows Server® 2008 Datacenter

BMLinkS について

- BMLinkS は、社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会（Japan Business Machine and Information System Industries Association<JBMIA>）が推進しているオフィス機器インターフェイスです。
- BMLinkS カードを装着した本機は、BMLinkS 認証を受けています。
- BMLinkS 標準仕様バージョンについては、BMLinkS のインストールガイドを参照してください。
- BMLinkS カードを装着した本機は、BMLinkS プリントサービスを実装しています。

重要

- 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
- 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社はいっさいその責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

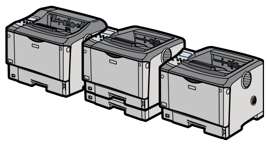
機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり

1. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

株式会社 リコー
東京都中央区銀座8-13-1 リコービル 〒104-8222
http://www.ricoh.co.jp/

IPSiO SP 6330/6320/6310 ソフトウェアガイド



消耗品に関するお問い合わせ

弊社製品に関する消耗品は、お買い上げの販売店にご注文ください。
NetRICOH のホームページからもご購入できます。
http://www.netricoh.com/

故障・保守サービスに関するお問い合わせ

故障・保守サービスについては、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。
修理範囲（サービスの内容）、修理費用の目安、修理期間、手続きなどをご要望に応じて説明いたします。
転居の際は、サービス実施店または販売店にご連絡ください。転居先の最寄りのサービス実施店、販売店をご紹介いたします。
http://www.ricoh.co.jp/support/repair/index.html

操作方法、製品の仕様に関するお問い合わせ

操作方法や製品の仕様については、「お客様相談センター」にお問い合わせください。

0120 FreeDial **0120-000-475**
FAX 0120-479-417

- 受付時間：平日（月～金）9 時～ 18 時／土曜日 9 時～ 12 時、13 時～ 17 時　（祝祭日、弊社休業日を除く）
- 通話料は無料です。
- 音声ガイダンスに従い製品別の番号をプッシュトーンでお知らせください。トーン信号が出せない電話機の場合は、そのまましばらくお待ちいただきますとオペレーターに接続します。

※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、通話を録音・記録させていただいております。
http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/index.html

最新ドライバーおよびユーティリティー情報

最新版のドライバーおよびユーティリティーをインターネットのリコーホームページから入手できます。
- http://www.ricoh.co.jp/download/index.html

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

JA　(JP)　2009 年 6 月　M047-8607